

# 農 薬 抄 録

(一般名) : M E P

---

(殺虫剤)

(作成年月日) 昭和 61 年 10 月 30 日

---

(改訂年月日) 昭和 62 年～平成 19 年は記載を省略

---

平成 20 年 5 月 12 日改訂

---

平成 21 年 4 月 20 日改訂

---

平成 21 年 7 月 17 日改訂

---

平成 23 年 9 月 6 日改訂

---

平成 27 年 4 月 6 日改訂

---

(作成会社名) 住友化学株式会社

---

## 目 次

I. 開発の経緯	1
II. 物理的・化学的性状	2
III. 生物活性	13
IV. 適用及び使用上の注意	14
V. 残留性及び環境中予測濃度算定関係	41
VI. 有用動植物等に及ぼす影響	100
VII. 使用時安全上の注意、解毒等	158
VIII. 毒性	161
A. 原体を用いた試験成績	
1. 急性毒性	174
2. 皮膚及び眼に対する刺激性	196
3. 感作性	203
4. 急性神経毒性	208
5. 急性遅発性神経毒性	211
6. 亜急性毒性	216
7. 反復経口投与神経毒性	237
8. 28日間反復投与遅発性神経毒性	241
9. 慢性毒性及び発癌性	242
10. 繁殖性に及ぼす影響及び催奇形性	322
11. 変異原性	356
12. 生体の機能に及ぼす影響	384
13. 解毒及び治療	393
14. 補足試験	398-1
15. 参考試験	399
B. 代謝物を用いた試験成績	405
C. 製剤を用いた試験成績	422
IX. 動植物及び土壌等における代謝分解	502

## I. 開発の経緯

MEP (商品名 スミチオン®) は、1958年に住友化学(株)により発明された有機リン系殺虫剤である。

1950年代、我が国では水稻大害虫であるニカメイチュウの防除剤としてパラチオンが特效薬として広く使用されていたが、急性毒性が高かったことにより、毎年中毒事故が頻発し、社会的にも大きな問題となっており、安全性の高い農業の早期開発を望む指導機関、農家の要望も強かった。

そこで住友化学は、ニカメイチュウに対しパラチオン並みの効力を有し、かつ毒性の低い有機リン化合物の探索を精力的に行い、MEP (フェントロチオン) を発見した。1960年より公的試験研究機関で農業登録申請用の薬効・薬害試験を開始し、1961年に農業登録を申請し、1962年に農業登録認可後、販売を開始した。MEPは、ニカメイチュウ以外にも、アワヨトウ、シンクイムシ類、ハマキムシ類などの鱗翅目、カミキリムシ類、ゾウムシ類、コガネムシ類などの鞘翅目、ダイズサヤタマバエ、ハモグリバエ類などの双翅目、アブラムシ類、カメムシ類等の半翅目、バッタ類などの直翅目などのさまざまな農業害虫に対して殺虫効果を有する。また、イエバエ、カ、ゴキブリなどの衛生害虫に対しても殺虫効果を示す。

MEPは1962年の上市以来、日本国内をはじめとして、ブラジル、アルゼンチン、韓国、台湾、ベトナム、フィリピン、オーストラリアなどの主要国で使用されている。その使用分野は、穀類、果樹、野菜などの農業用を始めとして、森林害虫、マラリア蚊で代表される伝染病媒介昆虫の防除およびゴキブリ・ハエといった衛生害虫防除など多岐にわたっている。2008年2月現在、国内では、乳剤、水和剤、粉剤、粒剤、粉粒剤、油剤、液剤、マイクロカプセル剤などMEPを含むさまざまな製剤が上市されている。

なお、MEPは、フェントロチオンとして、2006年に米国EPAにおいて、その安全性が評価され ADI 0.0013 mg/kg体重/日 (0.125mg/kg体重/日 (イヌ慢性毒性試験の NOAEL) × 1/100)、ARfD 0.13 mg/kg体重 (12.5mg/kg体重 (ラット急性神経毒性試験の NOAEL) × 1/100) が設定され、2007年のFAO/WHO (JMPR) において、ADI 0.006 mg/kg体重/日 (0.6mg/kg体重/日 (ラット亜急性毒性試験のNOAEL) × 1/100)、ARfD 0.04 mg/kg体重 (0.36mg/kg体重 (ヒトのNOAEL) × 1/10) が設定され、また、2014年に食品安全委員会がADI 0.0049 mg/kg体重/日 (0.49mg/kg体重/日 (ラット慢性毒性/発がん性併合試験の NOAEL) × 1/100) が設定されている。

## II. 物理的・化学的性状

### 1. 有効成分の名称及び化学構造

	和 名	英 名
一般名	フェニトロチオン、MEP (JMAF)	fenitrothion (ISO)
商品名	スミチオン、スミバイン	Sumithion
試験名	—	
化学名	<p><i>O,O</i>-ジメチル-<i>O</i>-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート (MAFF)</p> <p><i>O,O</i>-ジメチル-<i>O</i>-4-ニトロ-<i>m</i>-トルイル=ホスホロチオエート (IUPAC)</p> <p><i>O,O</i>-ジメチル-<i>O</i>-(3-メチル-4-ニトロフェニル)ホスホロチオエート (CA)</p>	<p><i>O,O</i>-dimethyl-<i>O</i>-(3-methyl-4-nitrophenyl) thiophosphate (MAFF)</p> <p><i>O,O</i>-dimethyl <i>O</i>-4-nitro-<i>m</i>-tolyl phosphorothioate (IUPAC)</p> <p><i>O,O</i>-dimethyl <i>O</i>-(3-methyl-4-nitrophenyl) phosphorothioate (CA)</p>
構造式		
分子式	C <sub>9</sub> H <sub>12</sub> NO <sub>5</sub> PS	
分子量	277.24	
CAS No.	122-14-5	

### 2. 有効成分の物理化学的性状

項 目	測定値 (測定条件)	測定方法/試験機関	報告書年
色調	淡黄色	ASTM D1535-89 /住友化学	1998年
形状	澄明の液 (非粘性)	官能法/住友化学	1990年
臭気	わずかに特異なにおい	EPA 63-4/住友化学	1998年
密度	1.325 g/cm <sup>3</sup> (25℃)	比重瓶法 (OECD TG109 準拠) /住友化学	1996年
融点	常温で液体	—	—
沸点	約 210℃ 付近から分解 (窒素雰囲気下)	示差熱分析法 (OECD TG 103) /住化分析センター	2000年 (GLP)
蒸気圧	1.57 × 10 <sup>-3</sup> Pa (25℃)	ガス飽和法 (OECD TG104) /Ricerca	2000年 (GLP)
解離定数 (pK <sub>a</sub> )	測定不能	—	—

項目		測定値 (測定条件)	測定方法/試験機関	報告書年	
溶解度	水	19.0 mg/L (20℃)	カラム溶出法 (OECD TG105) / TRL-West	2000年 (GLP)	
	有機媒	ヘキサン	25 g/l (20℃)	フラスコ法 (OECD 105 に準拠) / 住友化学	1999年
		シクロヘキサノン	> 500 g/l (20℃)		
		キシレン	> 500 g/l (20℃)		
		クロロホルム	> 500 g/l (20℃)		
		アセトン	> 500 g/l (20℃)		
		メタノール	> 500 g/l (20℃)		
		イソプロパノール	146 g/l (20℃)		
		酢酸エチル	> 500 g/l (20℃)		
		アセトニトリル	> 500 g/l (20℃)		
エチルセロソルブ	> 500 g/l (20℃)				
オクタノール/水分配係数 (log Pow)		log Pow = 3.43 (20℃)	フラスコ振とう法 (OECD 107) / 住友化学	1982年	
土壌吸着係数 (K' oc, K)		K' oc : 816-1935 (25℃) K : 9-36	OECD TG106 / PTRL West	2002年 (GLP)	
生物濃縮性		BCFss : 28.9 (ブルーギル) BCFk : 30 (ブルーギル)	EPA FIFRA (165-4) / 住友化学	1988年	
加水分解性		pH 5.0 : t <sub>1/2</sub> = 620日 (15℃) 62日 (30℃) 7.3日 (45℃) pH 7.1 : t <sub>1/2</sub> = 530日 (15℃) 57日 (30℃) 7.3日 (45℃) pH 9.0 : t <sub>1/2</sub> = 210日 (15℃) 18日 (30℃) 3.8日 (45℃)	EPA 161-1 / 住友化学	1984年	
水中光分解性	蒸留水 (滅菌)	t <sub>1/2</sub> = 0.6-1.0日 (太陽光照射、8時間/日)	EPA 161-2 / 住友化学	1984年	
	自然水 (河川水)	t <sub>1/2</sub> = 1.1日 (太陽光照射、8時間/日)			
	自然水 (海水)	t <sub>1/2</sub> = 0.9日 (太陽光照射、8時間/日)			
安定性	対熱	室温で安定 (150~190℃で酸素と反応)	示唆熱分析-熱重量分析法 (OECD113) / 住友化学	1980年	
スペクトル UV/VIS		図1~図8参照	OECD TG 101 / 住化分析センター	2000年 (GLP)	
IR			通達法に準拠 / 住友化学	1998年	
<sup>1</sup> H-, <sup>13</sup> C-NMR			通達法に準拠 / 住友化学	1998年	
MS			通達法に準拠 / 住友化学	1998年	

MEP の紫外可視吸収スペクトルの測定

被験物質溶液	溶媒	pH	測定温度 (℃)	MEP 濃度 (mol/L)
酸性溶液	1mol/L-塩酸とメノール混合液 (容量比 1:9)	0.88	25±0.5	1.637×10 <sup>-4</sup>
中性溶液	メノール	6.66		
アルカリ性溶液	1mol/L-水酸化ナトリウムとメノール混合液 (容量比 1:9)	13.01		
アルカリ性溶液の中和溶液	アルカリ性溶液に 1mol/L-塩酸および 1mol-水酸化ナトリウムで中和	7.68		

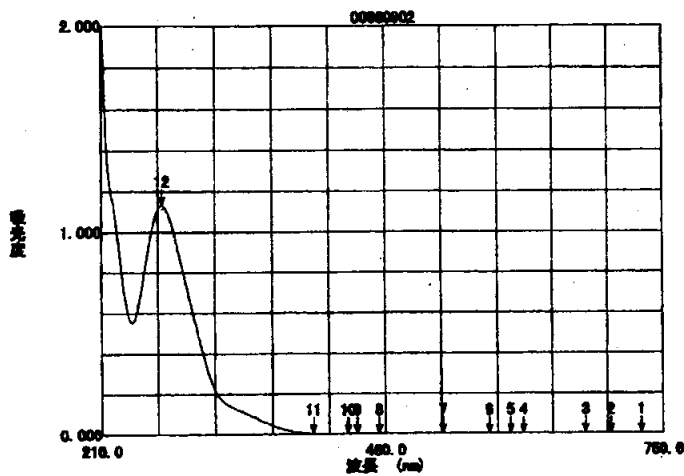


図-1 UV/VISスペクトル (酸性溶液: pH 0.88)

ピーク検出

番号	波長 (nm)	吸光度
1	729.00	0.0023
2	699.20	0.0018
3	674.80	0.0021
4	613.00	0.0018
5	600.20	0.0023
8	580.00	0.0019
7	535.40	0.0021
8	473.80	0.0025
9	453.00	0.0021
10	443.80	0.0021
11	411.00	0.0044
12	289.00	1.1325

分光光度計 (島津製作所製 UV-2400 型)  
 測光値 (吸光度) : 0~3  
 波長範囲 : 210~750nm  
 スリット幅 : 0.2nm  
 サンプリングピッチ : 0.2nm  
 スキャンスピード : 低速 (140nm/sec)

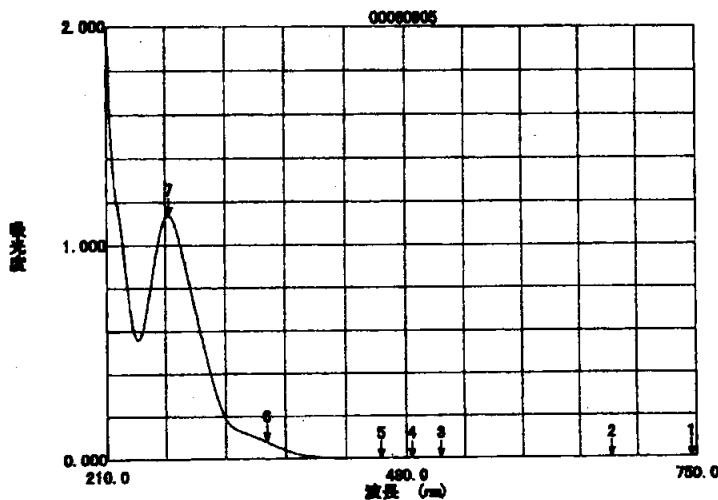
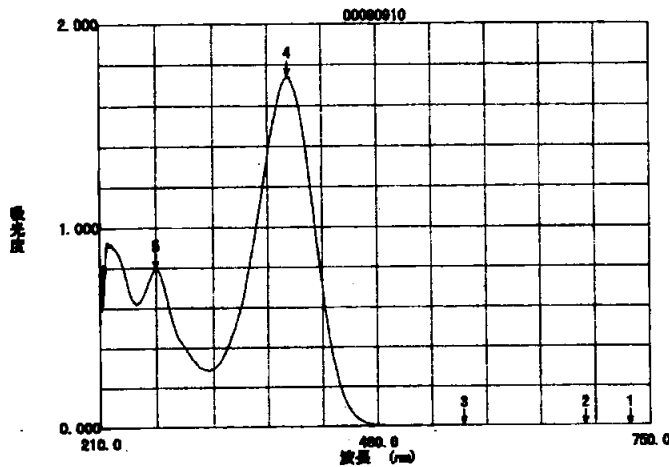


図-2 UV/VISスペクトル (中性溶液: pH 6.66)

ピーク検出

番号	波長 (nm)	吸光度
1	745.20	0.0018
2	671.80	0.0018
3	512.00	0.0010
4	485.20	0.0007
5	458.80	0.0007
6	365.20	0.0815
7	267.40	1.1387

分光光度計 (島津製作所製 UV-2400 型)  
 測光値 (吸光度) : 0~3  
 波長範囲 : 210~750nm  
 スリット幅 : 0.2nm  
 サンプリングピッチ : 0.2nm  
 スキャンスピード : 低速 (140nm/sec)

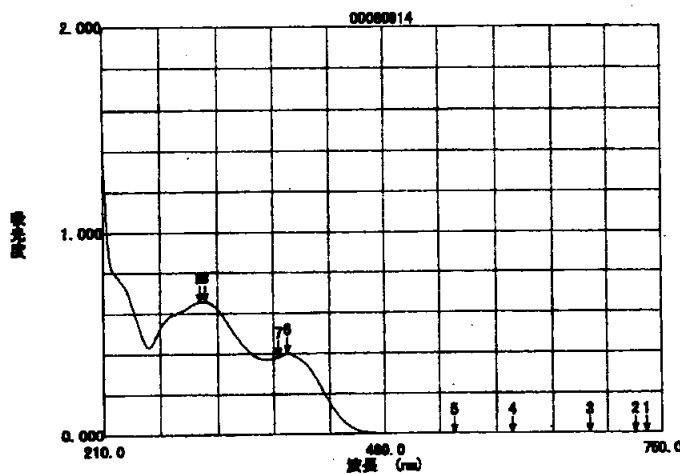


ピーク検出

番号	波長 (nm)	吸光度
1	729.80	0.0006
2	686.60	0.0006
3	585.20	0.0020
4	392.40	1.7411
5	283.80	0.7948

分光光度計 (島津製作所製 UV-2400 型)  
 測光値 (吸光度) : 0~3  
 波長範囲 : 210~750nm  
 スリット幅 : 0.2nm  
 サンプリングピッチ : 0.2nm  
 スキャンスピード : 低速 (140nm/sec)

図-3 UV/VISスペクトル (アルカリ性溶液 : pH 13.01)



ピーク検出

番号	波長 (nm)	吸光度
1	734.40	0.0001
2	723.20	0.0009
3	678.00	-0.0002
4	602.80	-0.0002
5	548.00	0.0004
6	385.40	0.4010
7	376.80	0.3851
8	306.20	0.6584
9	301.00	0.6548

分光光度計 (島津製作所製 UV-2400 型)  
 測光値 (吸光度) : 0~3  
 波長範囲 : 210~750nm  
 スリット幅 : 0.2nm  
 サンプリングピッチ : 0.2nm  
 スキャンスピード : 低速 (140nm/sec)

図-4 UV/VISスペクトル (アルカリ性溶液の中和溶液 : pH 13.01)

試料溶液	極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数	
			[ε]	[log ε]
酸性溶液	268.0	1.1325	$6.92 \times 10^3$	3.84
中性溶液	266.8	1.1381	$6.95 \times 10^3$	3.84
アルカリ性溶液	392.4	1.7411	$1.06 \times 10^4$	4.04
	263.8	0.7948	$4.86 \times 10^3$	3.69
アルカリ性溶液の中和溶液	385.4	0.4010	$3.06 \times 10^3$	3.49
	376.8	0.3851	$2.94 \times 10^3$	3.47
	306.2	0.6584	$5.03 \times 10^3$	3.70
	301.0	0.6548	$5.00 \times 10^3$	3.70

アルカリ性溶液での分解の有無 :

アルカリ性溶液のUV/VISスペクトルは、時間の経過と共にスペクトルが変化して再現性が認められず、アルカリ性溶液の中和溶液のスペクトルと異なった形状を示したことから、MEPはアルカリにより、短時間で分解されると考えられた。

赤外分光光度計 (日本分光 A-202 型)

液膜法

【測定条件】  
 測定範囲 ; 400~4000  $\text{cm}^{-1}$   
 Gain ; 3  
 スキャン速度 ; 12

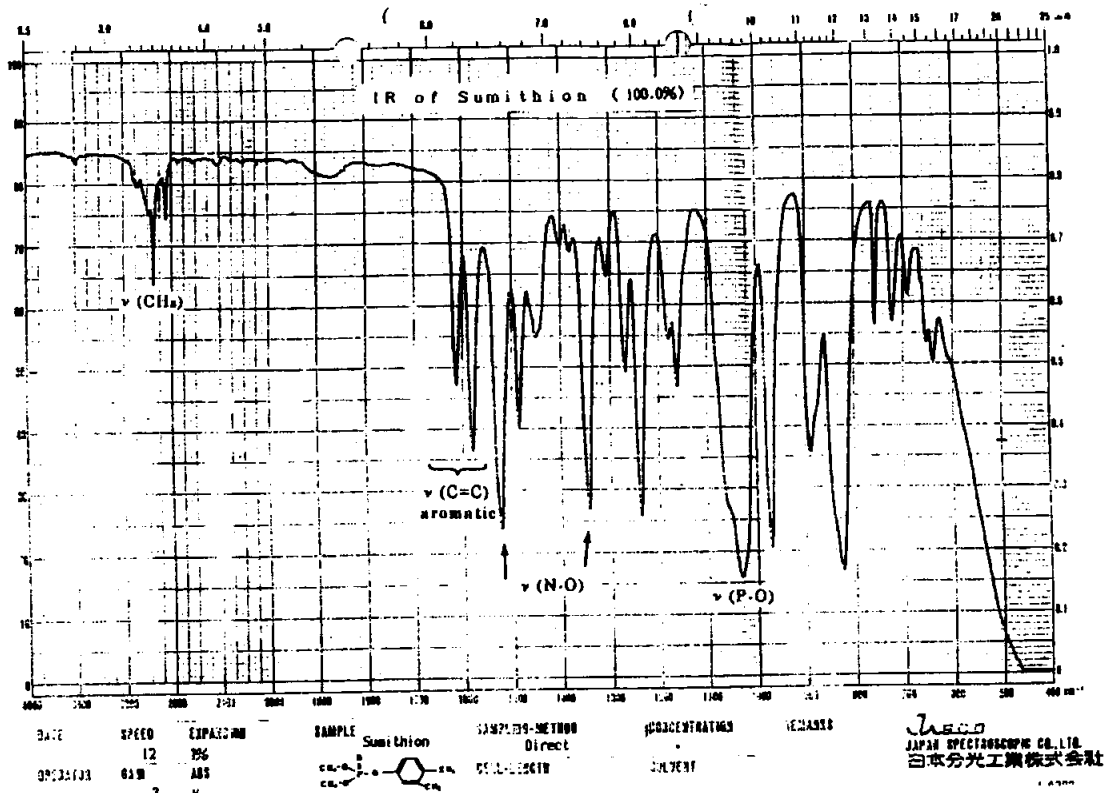


図-5 赤外吸収スペクトル

赤外吸収スペクトルの主な吸収帯の帰属

波数 ( $\text{cm}^{-1}$ )	帰属
2950	CH <sub>3</sub> の伸縮
1616、1580	ベンゼン環 (C=C) の伸縮
1520	N-O の伸縮
1350	N-O の伸縮
1036	P-O の伸縮



高分解能 FT-NMR 分光計 : 日本電子 JNM-GX270J 型  
 NMR 用試料管 : WILMAD 社製高精度 NMR 用試料管  
 (6mm φ × 203mm)

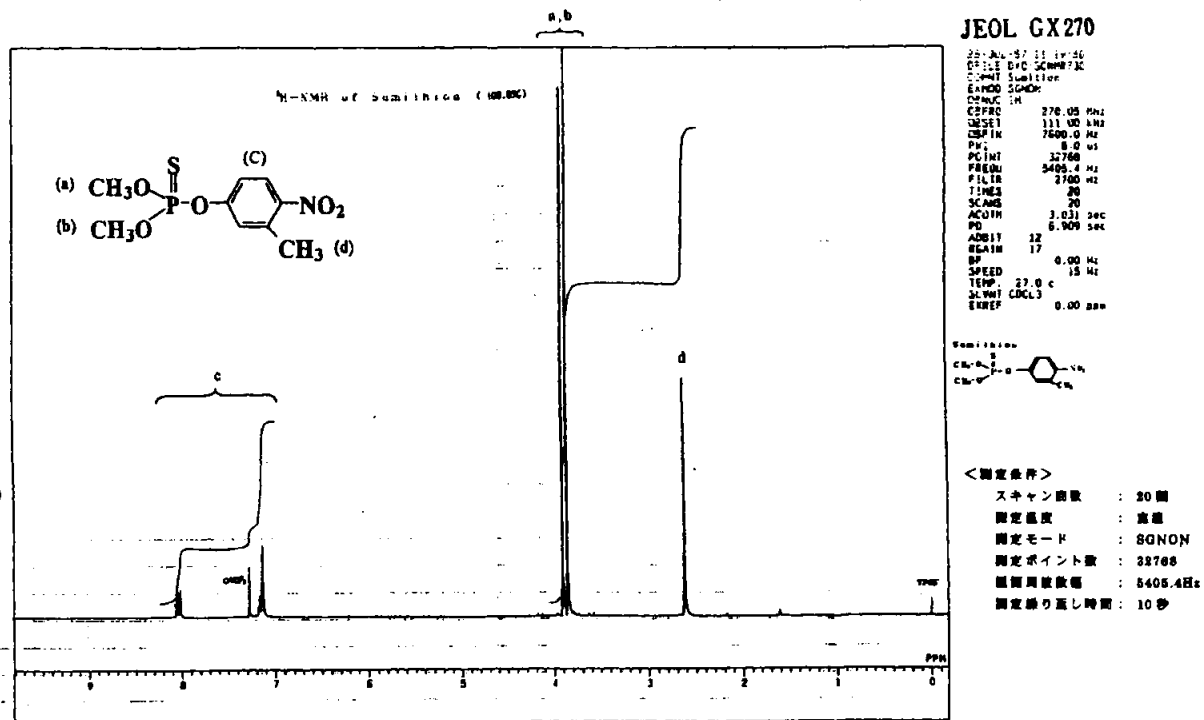


図-6 <sup>1</sup>H-NMRスペクトル

<sup>1</sup>H-NMRスペクトルにおけるシグナルの帰属

記号	プロトン数	帰属
(a)	6	メトキシメチル基の水素
(b)		
(c)	3	フェニル基の水素
(d)	3	ベンゼン置換のメチル基の水素

高分解能 FT-NMR 分光計 : 日本電子 JNM-GX270J 型  
 NMR 用試料管 : WILMAD 社製高精度 NMR 用試料管  
 (5mm φ × 203mm)

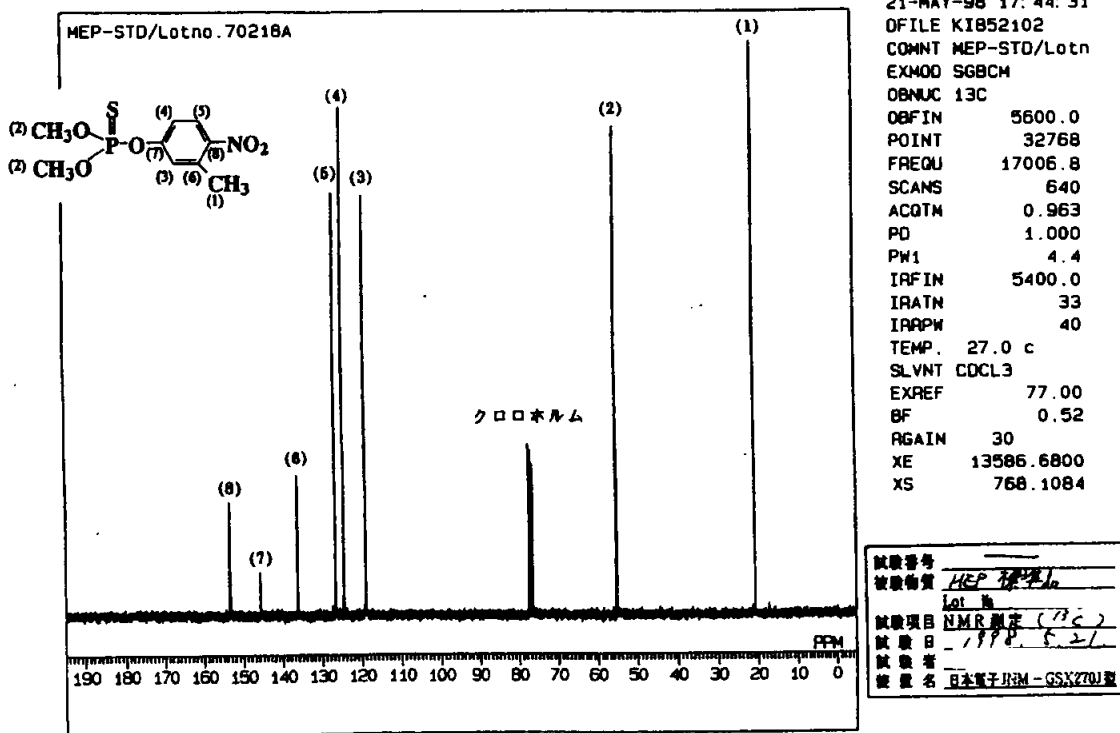
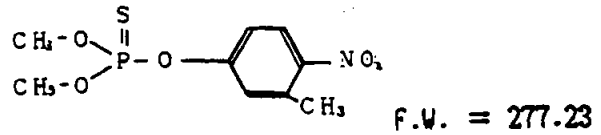
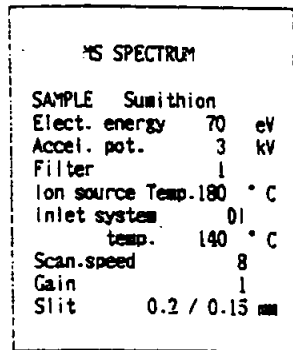


図-7 <sup>13</sup>C-NMR スペクトル

<sup>13</sup>C-NMR スペクトルにおけるシグナルの帰属

ピーク No.	化学シフト (ppm)
(1)	20.77
(2)	55.34, 55.27
(3)	119.05
(4)	124.55
(5)	126.64
(6)	136.27
(7)	145.78
(8)	153.43

質量分析計 : 日立製作所 M-80 型及びデータ処理システム M-0101 型



<測定条件>

ION SOURCE : EI  
 IONIZATION MODE : EI  
 ELECTRON ENERGY : 70eV  
 MULTI.GAIN : 1.2KV  
 ION ACCEL. VOLTAGE : 3KV  
 SCAN SPEED : 8 sec  
 SCAN RANGE : m/z 0-800  
 INLET SYSTEM : DI

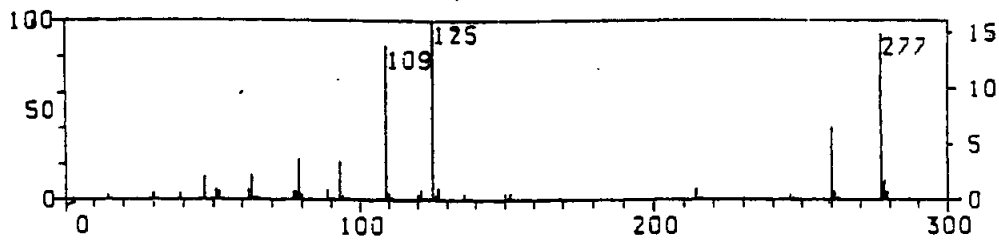


図-8 質量スペクトル

質量スペクトルにおける主なフラグメントの帰属

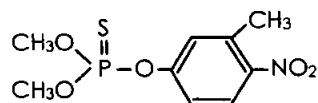
m/z	強度 (%)	フラグメントイオンの推定構造
277	93	
125	100	
109	85	

3. 成分組成

成分	名称		分子式	分子量	含有量 (%)	
	一般名	化学名および構造式			規格値	通常値 またはレンジ
有効成分	MEP	*	C <sub>9</sub> H <sub>12</sub> NO <sub>5</sub> PS	277.24		
原体 混在物						

\*：化学名、構造式は以下に記載

MEP : 0,0-ジメチル-O-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスファイト





#### 4. 製剤の組成

(1) スミチオン乳剤	
MEP	50.0%
界面活性剤、有機溶剤等	50.0%
(2) スミパイン乳剤	
MEP	80.0%
界面活性剤等	20.0%
(3) スミチオン水和剤 40	
MEP	40.0%
鉱物質微粉、界面活性剤等	60.0%
(4) スミチオン粉剤 2	
MEP	2.0%
鉱物質微粉等	98.0%
(5) スミチオン粉剤 3DL	
MEP	3.0%
鉱物質微粉、凝集剤等	97.0%
(6) スミチオンMC	
MEP	20.0%
水 等	80.0%
(7) スミパインMC	
MEP	23.5%
水 等	76.5%
(8) MEP 40%油剤	
MEP	40.0%
有機溶剤等	60.0%
(9) スミチオンスプレー	
MEP	0.10%
界面活性剤、水等	99.9%
(10) オルトランS	
アセフェート	0.19%
MEP	0.17%
有機溶剤、噴射剤等	99.64%

### Ⅲ. 生物活性

#### 1. 活性の範囲

ニカメイチュウ、アワヨトウ、シンクイムシ類、ハマキムシ類などの鱗翅目、カミキリムシ類、ゾウムシ類、コガネムシ類などの鞘翅目、ダイズサヤタマバエ、ハモグリバエ類などの双翅目、アブラムシ類、カメムシ類等の半翅目、バッタ類などの直翅目などのさまざまな農業害虫に対して殺虫効果を有する。また、イエバエ、カ、ゴキブリなどの衛生害虫に対しても殺虫効果を示す。ただし、ハダニ類に対する活性は低い。

#### 2. 作用機構

MEP は主に接触毒として昆虫に作用するが、食毒としての作用も有する。ガス毒効果は低い。

昆虫体内に入った MEP は酸化酵素の働きで MEP - オキシソンとなり、これが殺虫効力を発揮する。すなわち、神経伝達物質（アセチルコリン）の分解酵素であるコリンエステラーゼとこの MEP - オキシソンが強く結合することによりその活性を失わせ、正常な神経伝達機能を阻害して、遂には昆虫を死に至らしめる。

MEP - オキシソンは不安定な物質であるため、上述の作用を示した後、速やかに代謝・分解される。

#### 3. 作用特性と防除上の利点など

- (1) 他の有機リン系殺虫剤あるいはカーバメート系殺虫剤に比べ殺虫スペクトルが広く、従って、応用分野も広い。
- (2) 哺乳類、魚介類などに対する急性毒性が従来の有機リン系殺虫剤に比べ低い。
- (3) 生体内あるいは環境中での代謝・分解が速やかであるため、環境に及ぼす影響も小さく、また、蓄積もみられない。

## Ⅳ. 適用及び使用上の注意

### 1. 適用病害虫の範囲および使用方法

#### (1) スミチオン乳剤 (MEP 50% 乳剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農業の総使用回数
稲	ニカメイチュウ第1世代	1000～2000倍	60～150 L/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	3回以内 (種もみへの処理は1回以内、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)
	ニカメイチュウ第2世代 サンカメイチュウ第3世代	800～1000倍					
	ヒメビウカ カメシ類 イネトムシ イネシガレセンチュウ イネトモイシ アブラムシ類	1000倍					
	イネハモグリバエ	1000～2000倍					
	イネヒメハモグリバエ	2500倍					
	フタホトコヤガ	2000～4000倍					
	イネシガレセンチュウ	1000倍					
	イネシガレセンチュウ	100倍	—	は種前	1回	6～72時間浸漬 専用の種子消毒機を用いて乾燥種粉重量の3%の量の希釈液を種粒に吹付け処理又は塗沫処理	
	ニカメイチュウ ヒメビウカ カメシ類 イネハモグリバエ イネヒメハモグリバエ フタホトコヤガ イネトムシ	30倍	3L/10a	収穫21日前まで	2回以内	空中散布	
	ニカメイチュウ カメシ類	8倍	800mL/10a			無人ヘリコプターによる散布	
	300倍	25L/10a	散布				
稲 (箱育苗)	イネシガレセンチュウ	1000倍	育苗箱 (60×30×3cm、 使用土壌約5L)1箱 当り500mL	硬化期～ 移植前日		育苗箱の上から 均一に散布する	
麦類(大麦、 小麦を除く)	アブラムシ類 アワヨトウ ムギキモグリバエ		60～150 L/10a	収穫14日前まで	1回	散布	1回
	ムギアカタハエ ヒメビウカ	30倍	3L/10a			空中散布	
	アブラムシ類	8倍	800mL/10a			無人ヘリコプターによる散布	



(I) スミチオン乳剤 (MEP 50% 乳剤) のつづき

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農業の総使用回数
大麦	アブラムシ類 アワヨウ ムギキモグリバエ	1000倍	60~150 L/10a	収穫7日前 まで	1回	散布	1回
	ムギアカマバエ ヒメビウカ ヒメビウカ	30倍	3L/10a			空中散布	
	アブラムシ類	8倍	800mL/10a			無人ヘリコプター による散布	
小麦	アブラムシ類	250倍	25L/10a			散布	
	アブラムシ類 アワヨウ ムギキモグリバエ	1000倍	60~150 L/10a			空中散布	
	ムギアカマバエ ヒメビウカ ヒメビウカ	30倍	3L/10a			無人ヘリコプター による散布	
	アブラムシ類	8倍	800mL/10a				
とうもろ こし	アワノメイガ カメシ類	1000倍	100~300 L/10a		4回 以内	4回以内	
りんご	アブラムシ類	1000~ 2000倍	200~ 700L/10a	収穫30日 前まで	3回 以内	散布	3回以内
	ナシモシクイ モシクイガ ハマキムシ類 ナシノバイ アメリカシロヒトリ	1000倍					
	クワコカイガラムシ	1500倍					
なし (有袋栽培)	アブラムシ類	1000~ 2000倍		1000倍	収穫14日 前まで		6回 以内
	シクイムシ類 ハマキムシ類 ナシノバイ ナシノガ ナシヒガ カメシ類 アメリカシロヒトリ	1000倍					
	クワコカイガラムシ	1500倍					
なし (無袋栽培)	アブラムシ類	1000~ 2000倍	1000倍	収穫21日 前まで	6回 以内	6回以内	
	シクイムシ類 ハマキムシ類 ナシノバイ ナシノガ ナシヒガ カメシ類 アメリカシロヒトリ	1000倍					
	クワコカイガラムシ	1500倍					

(1) スミチオン乳剤 (MEP 50% 乳剤) のつづき

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数
かき	ハマキムシ類 かきハナムシガ かきカガ アジコカイガラムシ オウタコカイガラムシ カムシ類 イガ類 アメリカシロヒトリ ミノガ類若齢幼虫	1000倍	200～ 700L/10a	収穫30日 前まで*	3回 以内	散布	3回以内 (樹幹処理は 2回以内)
	アブラムシ類 モモハダカガ ナシメシカイ (心折防止)	1000～ 2000倍		収穫3日 前まで	6回 以内		6回以内 (樹幹処理は 1回以内)
もも	ナシメシカイ モモンカイガ ハマキムシ類 クワコカイガラムシ カムシ類 クワコカイガラムシ	1000倍	200～ 700L/10a	収穫14日 前まで	5回 以内	散布	5回以内 (樹幹処理 は1回以内)
	アブラムシ類	1000～ 2000倍					
	ハマキムシ類 サンホセカイガラムシ アザミウマ類 カムシ類 カネタキ ミカンツボミマハエ ケシスイ類 ゴアホナムグリ フーバラジウムシ ミンキジラミ コカイガラムシ類	1000倍					
みかん	ケシスイ類 ゴアホナムグリ アザミウマ類	10倍	5L/10a			無人ヘリコプター による散布	
	アブラムシ類	1000～ 2000倍	200～ 700L/10a	収穫14日 前まで	3回 以内	散布	3回以内 (樹幹処理 は1回以内)
かん きつ (みかん を除く)	ハマキムシ類 サンホセカイガラムシ アザミウマ類 カムシ類 カネタキ ミカンツボミマハエ ケシスイ類 ゴアホナムグリ フーバラジウムシ ミンキジラミ コカイガラムシ類	1000倍					

(I) スミチオン乳剤 (MEP 50% 乳剤) のつづき

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農業の総使用回数	
大粒種ぶどう	アブラムシ類 フタテヒメコバ ブドウカシバ ブドウトリハ	1000~2000倍	200~ 700L/10a	収穫21日 前まで*	2回以内	散布	4回以内 (収穫終了 後から萌 芽までは 2回以内、 萌芽後は 2回以内)	
	ハマキムシ類 ブドウカミキリ キンケチブドウムシ成虫	1000倍						
	クワコカイガラムシ	1500倍						
小粒種ぶどう	アブラムシ類 フタテヒメコバ ブドウカシバ ブドウトリハ	1000~2000倍		収穫90日 前まで				
	ハマキムシ類 ブドウカミキリ キンケチブドウムシ成虫	1000倍						
	クワコカイガラムシ	1500倍						
おうとう	アブラムシ類	1000~2000倍		収穫14日 前まで*				2回以内 (樹幹処理 及び灌注 処理は合計 1回以内)
	ハマキムシ類 ナシゲンハイ アメリカシロヒトリ	1000倍						
うめ	アブラムシ類	1000~2000倍		収穫14日 前まで				
	アメリカシロヒトリ ハマキムシ類	1000倍						
オリーブ	オリーブアザキゾウムシ	50倍	0.3~3 L/樹	収穫21日 前まで	3回以内	樹幹散布	3回以内	
オリーブ(葉)				収穫120日 前まで				
いちよう (種子)	ヨウモリガ ヒメバクトリ	100倍		収穫60日 前まで				
いちご	アブラムシ類	2000倍	100~300 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内	
ほうれんそう		1000~2000倍		収穫21日 前まで				
	約レンソウケガコダゲニ	2000倍						
ねぎ	アブラムシ類	1000~2000倍		収穫14日 前まで				
	アザミマ類	700~1000倍						
	ネギコガ	1000倍						
ごぼう	アブラムシ類 フキメカ	1000~2000倍		収穫14日 前まで				
たまねぎ	アブラムシ類	700~1000倍		収穫21日 前まで				
	アザミマ類							
トマト	アブラムシ類 オシロイバナシロヒトリ	2000倍	収穫前日 まで	5回以内	5回以内			
なす	アブラムシ類 テントウムシダマシ類	1000~2000倍						

(1) スミチオン乳剤 (MEP 50% 乳剤) のつづき

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数		
きゅうり メロン しろうり	アブラムシ類	1000~2000倍	100~300 L/10a	収穫前日 まで	5回以内	散布	5回 以内		
	アザミウマ類	1000倍							
すいか	アブラムシ類	1000~2000倍		収穫3日 前まで	6回以内		4回以内	6回 以内	
	アザミウマ類	700~1000倍							
かぼちゃ	アブラムシ類	1000~2000倍		収穫14日 前まで	3回以内			4回以内	3回 以内
	アザミウマ類	700~1000倍							
だいず	マメシクイガ <sup>*</sup> ダズサヤマハエ <sup>*</sup> シロイチモジ <sup>*</sup> マダラメイガ <sup>*</sup> マヒメヤムシガ <sup>*</sup> カメムシ類	20倍	3L/10a	収穫21日前 まで	4回以内	空中 散布			4回 以内
	ダズサヤマハエ <sup>*</sup> シロイチモジ <sup>*</sup> マダラメイガ <sup>*</sup> ダズサヤマシガ <sup>*</sup> カメムシ類 ウコンノメイガ <sup>*</sup> マメシクイガ <sup>*</sup>	8倍	800mL/10a			無人ヘリコ プター による 散布			
	シロイチモジ <sup>*</sup> マダラメイガ <sup>*</sup> ダズサヤマハエ <sup>*</sup> カメムシ類 マヒメヤムシガ <sup>*</sup> ウコンノメイガ <sup>*</sup>	1000倍							
	アブラムシ類	1000~2000倍							
	マメシクイガ <sup>*</sup>	1000~1500倍							
	シロイチモジ <sup>*</sup> マダラメイガ <sup>*</sup> ダズサヤマハエ <sup>*</sup> カメムシ類 マヒメヤムシガ <sup>*</sup>	1000倍							
豆類 (種実 ただし、 だいず、あずき、 いんげんまめ そらまめを除く)	シロイチモジ <sup>*</sup> マダラメイガ <sup>*</sup> ダズサヤマハエ <sup>*</sup> カメムシ類 マヒメヤムシガ <sup>*</sup>	1000倍	100~300 L/10a	収穫21日前 まで	散布	4回以内			
	アブラムシ類	1000~2000倍							
	マメシクイガ <sup>*</sup>	1000~1500倍							
未成熟そらまめ	シロイチモジ <sup>*</sup> マダラメイガ <sup>*</sup> ダズサヤマハエ <sup>*</sup> カメムシ類 マヒメヤムシガ <sup>*</sup>	1000倍		収穫3日 前まで			3回以内	3回 以内	
	アブラムシ類	1000~2000倍							
	マメシクイガ <sup>*</sup>	1000~1500倍							
豆類 (未成熟、 ただし、えだま め、さやいんげ ん、未成熟そら まめを除く)	シロイチモジ <sup>*</sup> マダラメイガ <sup>*</sup> ダズサヤマハエ <sup>*</sup> カメムシ類 マヒメヤムシガ <sup>*</sup>	1000倍	収穫21日 前まで	4回以内	4回 以内				
	アブラムシ類	1000~2000倍							
	マメシクイガ <sup>*</sup>	1000~1500倍							

(1) スミチオン乳剤 (MEP 50% 乳剤) のつづき

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農業の総使用回数	
えだまめ	シロイモジマダラメイガ ダイサヤマハエ カメシ類 マヒメヤムシガ ウコンメイガ	1000倍	100~300 L/10a	収穫21日 前まで	4回 以内	散布	4回以内	
	アブラムシ類	1000~2000倍						
	マメシクイガ	1000~1500倍						
いんげんまめ さやいんげん	シロイモジマダラメイガ ダイサヤマハエ カメシ類 マヒメヤムシガ インゲンテントウ	1000倍	100~300 L/10a	収穫21日 前まで	4回 以内	散布	4回以内	
	アブラムシ類	1000~2000倍						
	マメシクイガ	1000~1500倍						
あずき	アキノメイガ シロイモジマダラメイガ ダイサヤマハエ カメシ類 マヒメヤムシガ	1000倍	100~300 L/10a	収穫3日 前まで	3回 以内	散布	3回以内	
	アブラムシ類	250倍						25L/10a
	マメシクイガ	1000~2000倍						100~300 L/10a
そらまめ	アブラムシ類	1000倍	25L/10a	収穫3日 前まで	6回 以内	散布	6回以内	
ばいしょ	アブラムシ類 テントウムシダマシ類	250倍						
こんにやく	アブラムシ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日 前まで	3回 以内	散布	3回以内	
かんしょ	イモガ アブラムシ類 ヨブモカメノコハムシ			収穫7日 前まで	5回 以内		5回以内	
うど	アブラムシ類 センカミキリ ヒメシロコブゾウムシ ウドノメイガ ヨトウムシ			収穫14日 前まで	根株養成 期但し収 穫150日 前まで		4回 以内	4回以内
モロヘイヤ	マメコガネ アザミカ類 アブラムシ類 カメシ類	1000倍	100~300 L/10a	収穫14日 前まで	2回 以内	散布	2回以内	
わらび	ナガゼンマイハチ			収穫90日 前まで				
らっきょう	アザミカ類			収穫14日 前まで				
たらのぎ	センカミキリ幼虫 ヒメシロコブゾウムシ	100倍	150~ 300L/10a	3~5月 株養成期		樹幹散布		
茶	コカモンハキ チノホリガ	700~1000倍	200~400 L/10a	摘採21日 前まで	1回	散布	1回	

(1) スミチオン乳剤 (MEP 50% 乳剤) のつづき

作物名	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農業の総使用回数							
まめ科牧草	ヨバイ類 アブラムシ類 ウナカ類 ウリハムシドキ ゾウムシ類	1000~2000倍	100~300 L/10a	収穫14日 前まで	2回 以内	散布	2回以内							
	ムギダニ	1000倍												
いね科牧草	ヨバイ類 アブラムシ類 ウナカ類 ウリハムシドキ ゾウムシ類	1000~2000倍		収穫30日 前まで	6回 以内			6回 以内	6回以内					
	ムギダニ アワヨトウ	1000倍												
飼料用 とうもろこし	アブラムシ類	2000倍												
花き類・ 観葉植物	アムシ ハナカ類 ハマキムシ類 アザミマ類	1000倍		発生初期	6回 以内					6回以内	6回以内			
	ばら	アブラムシ類 フタバゾウムシ										1000~2000倍 1000倍		
きく	アブラムシ類 フタバゾウムシ カムシ類 ヨトウムシ類	1000~2000倍		-								6回 以内	6回以内	6回以内
	カーネーション	アザミマ類 クロウリムシ												
宿根かすみそう	ハダカリハエ類	200~700 L/10a		-										
りんどう	ヒラズハアザミマ													
アスター	ウリハムシ													
ソリダゴ	カムシ類													
スターチス	ユガネムシ類													
シネラリア	シクイムシ類													
斑入りアトコ	コウメイガ													
ききょう	ヨトウムシ													
樹木類	アマガシヒトリ		500~1000倍		-	移植前	1回	30分間 根部浸漬						
	フタバゾウムシ アブラムシ類 ゲンバイムシ類		1000倍											
	オオハシセンチュウ	500倍												
	ツツジ類	ゲンバイムシ類 ハマキムシ類												
せんりょう	アザミマ類 カムシ類	1000倍	200~700 L/10a	-	6回以内	散布								
こでまり	カイガラムシ類													
しきみ	クスアザミマ類													
にしきぎ	ケムシ類													
しゃりんばい だいおうしょう	シクイムシ類													
さかき	ハマキムシ類													
さんごじゅ	ワタメイガ													
げつきつ	シクイムシ類													

(1) スミチオン乳剤 (MEP 50% 乳剤) のつづき

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農業の総使用回数	
たばこ	ヨウムシ	1000倍	25~180 L/10a	収穫20日前まで	1回	散布	1回	
芝	シバツトガ スジネリヨウ		0.3~2L/m <sup>2</sup>	発生初期	6回以内		散布	6回以内
	コガネムシ類幼虫 シバオウゴウムシ		3L/m <sup>2</sup>					
桑	クワリウムシ成虫	500~750倍	100~300 L/10a	成虫発生期				
せり	アブラムシ類	2000倍	100~300 L/10a	親株養成期 但し収穫 45日前まで	2回以内	散布	2回以内	
しちとうい	イネロカメシ	1000倍	60~150 L/10a	発生初期	4回以内		無人 ヘリコプター による散布 空中散布	4回以内
さとうきび	カンシヤコバネガカメシ メチユウ類 カンシヤワタアブラムシ セシジツチイゴ イゴ類 イササキサシ		100~300 L/10a	収穫45日前まで				
	カンシヤコバネガカメシ セシジツチイゴ		25倍			6L/10a		
	カンシヤコバネガカメシ							

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農業の総使用回数
水田作物、畑作物 (休耕田)	ヨシ、ササ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田	カメシ類	1000倍	60~150 L/10a	4回以内	散布	4回以内

(2) スミパイン乳剤 (MEP 80% 乳剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	MEPを 含む農 業の総使 用回数			
まつ (生立木)	マツマダラ かみり成虫	150~200倍	3L/本 (樹高10m)	成虫の発生初期 及び 発生最盛期直前 成虫の発生初期	6回 以内	散布	6回以内			
		80~160倍				空中散布 (単木処理)				
		4~6倍	800mL/10a	成虫の発生 直前より 発生最盛期 直前		空中散布 (10a当り投下薬量 は本剤200mL、 但し、微害林では 130~200mL とする。)				
		15~45倍	3~6L/10a			無人ヘリコプター による散布				
		60~180倍	12~24L /10a			空中散布 (単木処理)				
	18倍	3L/10a								
まつ (枯損立木)	マツマダラ かみり幼虫	80倍	5L/本 (樹高10m)	幼虫期 (秋期)		6回 以内		空中散布 (単木処理)	6回以内	
	マツマダラ かみり (材内生息虫)		5~10L/本 (樹高10m)	成虫の発生前 (春期)						
まつ (衰弱木 ・枯損立木)	キイムシ類 ゾウムシ類	80~120倍	-	-						散布
まつ	マツカレハ	1000~1500倍		幼虫期						空中散布
		100倍	6L/10a				空中散布 (10a当り投下薬量 は本剤30~60mL とする。)			
		8倍	800mL/10a				散布			
まつ類	ハマキ類	100~ 200倍	3~6L/10a		幼虫期			空中散布 (10a当り投下薬量 は本剤30~60mL とする。)		
		1500~ 2000倍	-					散布		
		16倍	800mL/10a					空中散布		
	ハマキ類	1000~1500倍	-					散布		
		50~100倍	6L/10a				空中散布			
	マツバノタマバエ	250倍	-			成虫の発生最盛期		散布		
	シツキムシ類	250~500倍	-			幼虫期		空中散布 (単木処理)		
	キイムシ類	40倍	5L/本 (樹高10m)	成虫の 発生初期			散布			
ミスジツマキエダシヤク		1000~1500倍	-	幼虫期			空中散布 (10a当り 投下薬量は本剤 100mLとする。)			
		8倍	800mL/10a							
		30倍	3L/10a							
まつ類 (風倒木)	キイムシ類	原液	750mL/10a	成虫の 発生直前		空中散布				
樹木類 (倒木 伐倒木)	かみりムシ類 (スギかみりを除く) ゾウムシ類 キイムシ類	50~150倍	300~600 mL/m <sup>2</sup>	伐倒・風倒 直後樹皮下 及び 材内生息期	6回 以内	散布	6回以内			
	スギザイタマバエ	50~100倍		樹皮下 及び 材内生息期						
	スギかみり	100~300倍	400~600 mL/m <sup>2</sup>	伐倒・風倒 直後樹皮下 及び 材内生息期						



(2) スミパイン乳剤 (MEP 80% 乳剤) のつづき

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数
樹木類	スギカミキリ	50~100倍	400~600 mL/m <sup>2</sup>	成虫の発生初期又は直前	6回以内	樹幹散布	6回以内
	カシノガキイモシ	50倍	500mL/m <sup>2</sup>				
	スギザイノタマハエ	100~200倍	600mL/m <sup>2</sup>				
	カミキリシ類 (スギカミキリを除く) ゾウムシ類 キイムシ類	50~150倍	300~600 mL/m <sup>2</sup>				
	ヤマダカイ	1000倍	—	幼虫期		散布	
	エダシヤク類	8倍	800mL/10a			空中散布	
		30倍	3L/10a				
	エダシヤク類 マイマイガ ドクガ類	1000~1500倍	—	若令・中令幼虫期		散布	
	マイマイガ ドクガ類	50~100倍	3~6L/10a			幼虫期	
		8倍	800mL/10a	空中散布			
	スギタマハエ	250~500倍	—	虫えい形成期		散布	
	ヒノキカワモグリガ	200~300倍		成虫の発生直前~ 発生最盛期直前 (6~7月)		樹冠及び樹幹に散布	
		30倍		6L/10a		空中散布	
材ハシセンチュウ	500倍	—	移植前	1回	30分間根部浸漬		
さくら	コスカシバ		100~300倍	成虫発生期	6回以内	散布	
ほだ木	カミキリシ類	350倍	—	成虫発生初期及び産卵期 (ほだ木の伏せ込み期)	2回以内	散布 (ほだ木及びほだ木用笠木を同時に防除する場合は希釈倍数を350倍とする。)	2回以内
ほだ木用笠木		40倍					

(3) スミチオン乳剤 70 (MEP 70% 乳剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数
茶	コカクモンハマキ ツマグロオオスミカメ	1000倍	摘採21日前まで	1回	散布	1回
	カガチャコガネ幼虫	2000~4000倍	10月~12月 (摘採90日前まで)		1m <sup>2</sup> 当り5L土壌灌注	

(4) スミバツサ乳剤75 (BPMC 30%、MEP 45% 乳剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	BPMCを含む農薬の総使用回数	MEPを含む農薬の総使用回数
稲	ニカメイチュウ第1世代 ツマク'ロコバ'イ ウンカ類 カメムシ類 イネ'ロイムシ	1000倍	60~150 L/10a	収穫21日 前まで	2回 以内	散布	5回以内	3回以内 (種もみへの 処理は1回以内、 育苗箱散布は 1回以内、 本田では2回以内)
	ウンカ類 カメムシ類	300倍	25L/10a					
小麦	ヒメビ'ウンカ	30倍	3L/10a	収穫7日 前まで	1回	空中散布	1回	1回
		8倍	800mL/10a					

(5) ガットキラー乳剤 (MEP 15% 乳剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数
もも	コスカシガ'	50~100倍	休眠期 (落葉後~萌芽前)	1回	樹幹部及び 主枝に散布	6回以内 (樹幹処理は 1回以内)
おうとう				3回以内		2回以内 (樹幹処理及 び灌注処理 は合計1回以 内)
ネクタリン				2回以内		3回以内
ぶどう	ブド'ウチカミナリ	100倍	休眠期 (落葉後~萌芽前)	2回以内	樹幹から 地際部へ散布	4回以内 (収穫終了後 から萌芽ま では2回以 内、萌芽後は 2回以内)
うめ	コスカシガ' キイムシ類			1回		2回以内
すもも	コスカシガ' キイムシ類			樹幹部及び 主枝に散布	1回	2回以内
	樹幹から 地際部へ散布					1回
小粒核果類 (うめ、すもも を除く)	コスカシガ' キイムシ類			1回	樹幹部及び 主枝に散布	1回
みかん	カキリムシ類	30~50倍	産卵~幼虫喰入期前 但し収穫14日前まで	1回	樹幹から地際 部へ散布	5回以内 (樹幹処理は 1回以内)
なつみかん			産卵~幼虫喰入期前 但し収穫120日前まで			3回以内 (樹幹処理は 1回以内)

(5) ガットキラー乳剤 (MEP 15% 乳剤) のつづき

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数
りんご	かみりんシ類	50~100倍	産卵初期~産卵最盛期 但し収穫30日前まで	3回以内	樹幹から 地際部へ散布	3回以内
桑			萌芽前夏切り直後 晩秋蚕終了後	6回以内	樹幹部及び 主枝に散布	6回以内
	ヒメゾウムシ成虫	50倍	萌芽前			
		100倍	夏切り直後			

(6) サッチューコートS (MEP 15% 乳剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数
みかん	かみりんシ類	50倍	幼虫食入初期 但し、 収穫14日前まで	1回	樹幹部及び 主枝に散布 又は塗布	5回以内 (樹幹処理は1回以内)
なつみかん			幼虫食入初期 但し、 収穫120日前まで			3回以内 (樹幹処理は1回以内)
ぶどう	トカミりんシ	50~100倍	収穫後(10月) ~萌芽前	2回以内		4回以内 (収穫終了後から萌芽 までは2回以内、 萌芽後は2回以内)
もも	コスカガ		落葉後~萌芽前 (休眠期)	1回		6回以内 (樹幹処理は1回以内)
桑	かみりんシ類 クヒメゾウムシ		発芽前又は 夏切り直後	6回以内		6回以内

(7) サッチューコートSセット (MEP 15% 乳剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数
みかん	かみりんシ類	50倍	産卵時期 但し収穫14日前まで	1回	樹幹部及び 主枝に 散布又は塗布	5回以内 (樹幹処理は1回以内)
なつみかん			産卵時期 但し収穫120日前まで			3回以内 (樹幹処理は1回以内)
くり	コウモリガ	15倍	幼虫食入期直前~ 幼虫食入初期 但し収穫90日前まで			1回
	クヒメシ類		産卵時期 但し収穫90日前まで			
	かみりんシ類	50倍	産卵時期 但し収穫60日前まで			

(8) ガットサイドS (MEP 1% 乳剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農業の総使用回数
みかん	かきりムシ類	1 (原液) 又は 1.5 倍	6月～7月 (産卵初期～ 産卵最盛期直前) 但し 収穫90日前まで	1回	樹幹の地際部から 所定の高さまで丁寧に 塗布又は散布 (1.5倍希釈液) (30～40cm)	5回以内 (樹幹処理は 1回以内)
	ミカンガタムシ	1 (原液) ～1.5 倍	5月～6月 (成虫発生期直前) 但し 収穫90日前まで		直径3cm以上の主枝、 亜主枝、側枝に塗布又 は散布 (1.5倍液)	
なつみかん	かきりムシ類	1 (原液) 又は 1.5 倍	6月～7月 (産卵初期～ 産卵最盛期直前) 但し収穫120日前まで	3回 以内	樹幹の地際部から所 定の高さまで丁寧に 塗布又は散布 (1.5倍 希釈液) (30～40cm)	3回以内 (樹幹処理は 1回以内)
	ミカンガタムシ	1 (原液) ～1.5 倍	5月～6月 (成虫発生期直前) 但し 収穫120日前まで		直径3cm以上の主枝、 亜主枝、側枝に塗布又 は散布 (1.5倍液)	
いちじく	かきりムシ類	原液  1.5 倍	4月～7月 但し 収穫7日前まで	3回 以内	株元から 結果母枝 まで塗布	3回以内
	アノキイムシ		4月～9月 但し 収穫7日前まで		主幹部に散布	
かき	ヒメコサシバ	1.5 倍	産卵期～幼虫喰入初期 但し 収穫45日前まで	2回 以内	主幹部、主枝及び 亜主枝の分枝部に 散布 (1.5倍液)	3回以内 (樹幹処理は 2回以内)
	かきノキダラメイガ					
くり	クイムシ類	1 (原液) 又は 1.5 倍	3月～5月 (産卵初期)	1回	樹幹の地際部から所 定の高さまで丁寧に 塗布又は散布 (1.5倍希釈液) (約150cm)	4回以内 (樹幹処理 は1回以内)
	コウモリガ	1 (原液) ～1.5 又は2 倍	裂果前まで 但し 収穫90日前まで		地際から1.5～2mま での主幹及び主枝に 塗布 (原液～ 1.5倍液) 又は 散布 (2倍液)	
大粒種ぶどう 小粒種ぶどう	コウモリガ	1 (原液) ～1.5 倍	幼虫喰入期直前 ～喰入初期 但し 収穫21日前まで	2回 以内	主幹部に塗布 (原液～1.5倍液) 又は散布 (1.5倍液)	4回以内 (収穫終了 後から萌芽 までは2回 以内、萌芽後 は2回以内)
りんご	ゴマダカミミ	1 (原液) 又は 1.5 倍	6月～7月 (産卵初期～ 産卵最盛期直前) 但し 収穫30日前まで	3回 以内	主幹地際部より 50cmまで塗布 又は散布 (1.5倍液)	3回以内
	シクアアキリウムシ		5月下旬～6月下旬 (産卵期) 但し 収穫30日前まで			
もも	コサシバ	1.5 倍	収穫30日前まで	1回	樹幹部及び 主枝に塗布	6回以内 (樹幹処理は 1回以内)

(9) トラサイドA乳剤 (マラソン 10%、MEP 40% 乳剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	マラソンを含む農薬の総使用回数	MEPを含む農薬の総使用回数
ぶどう	ブドウアザミ	200~300倍	200~700 L/10a	発芽前 (休眠期)	2回以内	散布	6回以内	4回以内 (収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内)
みかん	かきムシ類	200倍	-	産卵最盛期 ~幼虫食入初期 但し 収穫14日前まで	1回	樹幹部に十分散布	5回以内	5回以内 (樹幹処理は1回以内)
りんご	かきムシ類	200倍		産卵初期~ 産卵最盛期直前 但し 収穫30日前まで	3回以内	樹幹部に十分散布	5回以内 (休眠期から芽出直後までは1回以内)	3回以内
	カミムシ類			4月~7月 但し、 収穫30日前まで				
	リンゴアザミザウムシ			7月~8月 (幼虫食入期) 但し 収穫30日前まで				
なし	かきムシ類	200倍	-	6月~7月 (産卵初期~産卵最盛期直前) 但し、 収穫21日前まで	5回以内	樹幹部に十分散布	5回以内 (休眠期は1回以内)	6回以内
	カミムシ類			4月~7月 但し、 収穫21日前まで				
おうとう	リンゴアザミザウムシ	-	3L/樹	7月~8月 (幼虫食入期)	1回	地際部灌注	5回以内 (休眠期の50倍希釈散布は1回以内)	2回以内 (樹幹処理および灌注処理は合計1回以内)
	コスカバ			収穫後~萌芽前 (幼虫食入期)		樹幹及び主枝に十分散布する		
くり	かきムシ類	100~200倍	200~700L/10a	裂果前但し 収穫14日前まで	-	樹幹部に十分散布	4回以内	4回以内 (樹幹処理は1回以内)
	クリタマシ	200倍		発芽直前		散布		
かき	ヒメコスカバ	200倍	-	産卵期~ 幼虫食入初期 但し 収穫45日前まで	2回以内	樹幹部に十分散布		3回以内 (樹幹処理は2回以内)

(9) トラサイドA乳剤 (マラソン 10%、MEP 40% 乳剤) のつづき

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	マラソンを含む農薬の総使用回数	MEP を含む農薬の総使用回数
もも	コスカバ	200~300倍	-	収穫後~発芽前 (幼虫食入期)	1回	樹幹及び主枝に十分散布する	5回以内	6回以内 (樹幹処理は1回以内)
初刈り					3回以内		3回以内	
すもも		200倍			2回以内		2回以内	
桑	カキリムシ類	100倍	100~300L/10a	晩秋期	6回以内	散布	6回以内	6回以内
		100~200倍		発芽前 (3月~4月)及び夏切直後				

(10) ラビキラー乳剤 (MEP 40%、PAP 10% 乳剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEP を含む農薬の総使用回数	PAP を含む農薬の総使用回数
みかん	ゴマダカミドリ	200倍	200~350L/10a	産卵初期~幼虫食入初期 但し、収穫14日前まで	1回	樹幹部から地際部へ散布する	5回以内 (樹幹処理は1回以内)	2回以内
りんご				産卵初期~産卵最盛期 但し、収穫30日前まで			3回以内	2回以内 (樹幹散布は1回以内)
ぶどう	ブドウカミキリ	200~300倍		発芽前 (休眠期)	2回以内	母枝、古つるに薬液を十分散布する	4回以内 (収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内)	2回以内
もも	コスカバ	200倍		落葉後~発芽前 (休眠期)	1回	樹幹及び主枝に十分散布する	6回以内 (樹幹処理は1回以内)	1回
おうとう			2回以内 (樹幹処理および灌注処理は合計1回以内)					
うめ			2回以内		2回以内		2回以内	

(11) スミチオン水和剤40 (MEP 40% 水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数	
稲	コメイチュウ第1世代	40倍	3L/10a	収穫21日前まで	2回以内	空中散布	3回以内 (種もみへの処理は1回以内、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)	
りんご	モモシクイガ、ハマキムシ類 クワコカイガラムシ、 アブラムシ類、リンゴスミシ	800~1200倍	200~700L/10a	収穫30日前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ギンセンハダガリガ カメムシ類	800~1000倍						
なし (有袋栽培)	シクイムシ類 クワコカイガラムシ ハマキムシ類 アブラムシ類	800~1200倍		収穫14日前まで	6回以内		6回以内	
	ナシビガ ナシジラミ カメムシ類 ナシグンバイ	800~1000倍						
なし (無袋栽培)	シクイムシ類 クワコカイガラムシ ハマキムシ類 アブラムシ類	800~1200倍		収穫21日前まで	6回以内			
	ナシビガ ナシジラミ カメムシ類 ナシグンバイ	800~1000倍						
もも	シクイムシ類 アブラムシ類 モモハダガリガ ハマキムシ類	800~1200倍		収穫3日前まで	6回以内			6回以内 (樹幹処理は1回以内)
	カメムシ類							
大粒種 ぶどう	ブドウウラミキリ フタテンヒメコバエ コガネムシ類成虫 アカガネハムシ ブドウウサカシバ	800~1000倍		収穫21日前まで	2回以内			4回以内 (収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内)
	クワコカイガラムシ	800~1200倍						
小粒種 ぶどう	ブドウウラミキリ フタテンヒメコバエ コガネムシ類成虫 アカガネハムシ ブドウウサカシバ	800~1000倍	収穫90日前まで	2回以内	4回以内 (収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内)			
	クワコカイガラムシ	800~1200倍						
かき	カキハダムシガ フジコカイガラムシ	800~1200倍	収穫30日前まで	3回以内	3回以内 (樹幹処理は2回以内)			
	オナリコカイガラムシ 若齢幼虫	800倍						
	カメムシ類、イガ類、 ドウガネアザノイ成虫	800~1000倍						
おうとう	ケムシ類	800倍	収穫14日前まで	2回以内	2回以内 (樹幹処理および灌注処理は合計1回以内)			

(12) パーマチオン水和剤 (フェンバレート 10%、MEP 30% 水和剤)

作物名	適用害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	フェンバレートを 含む農薬の 総使用回数	MEPを含む 農薬の 総使用回数
りんご	キンホリガ シクイムシ類 アブラムシ類	1000～ 2000倍	200～ 700L /10a	収穫45日 前まで	3回 以内	散布	3回以内	3回以内
	モモチョッキリウムシ モンクシヤチホコ	1000倍						
	ハマキムシ類	1000～ 2000倍						
なし	カメムシ類 アブラムシ類 ニセアカシガ シクイムシ類			1000倍	収穫30日 前まで		5回 以内	5回以内
なし	ハマキムシ類 ナシゴトカイ ナシホリガ ナシヒガ							
かき	ナシハタムシガ アザミマ類	1000～ 2000倍		収穫30日 前まで	3回 以内		3回以内 (樹幹処理は 2回以内)	
	イラガ類 ミガ類	1000倍						
	コガネムシ類	2000倍						
	ハマキムシ類 カメムシ類	1000～ 2000倍						
もも	シクイムシ類 モモホリガ アブラムシ類	1000倍		収穫7日 前まで	6回 以内		6回以内 (樹幹処理は 1回以内)	
くり	クリイガアブラムシ クリシキザウムシ		裂果前 (但し収穫 14日前まで)	4回 以内	4回以内 (樹幹処理は 1回以内)			
だいたず	マヒメヤムシガ ダマシヤタマハエ	1000～ 2000倍	100～ 300L /10a	収穫21日 前まで	3回 以内	3回以内	4回以内	
	シロイモジマダラメイガ マシクイガ ハシモトウ カメムシ類							
かんしよ	イモガ	1000～ 2000倍	100～ 300L /10a	収穫7日 前まで	5回 以内	5回以内	5回以内	
とうもろ こし	アヲメイガ				4回 以内	4回以内		



(13) スミロディー水和剤 (フェンプロパトリン 4%、MEP 36% 水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数	MEPを含む農薬の総使用回数	
なし	シクイムシ類 ハマキムシ類	1000倍	200～ 700L /10a	収穫21日 前まで	2回 以内	散布	2回以内	6回以内	
	アブラムシ類 カミムシ類	1000～1500倍							
りんご	シクイムシ類 キンモンホリガ	1000倍		収穫30日 前まで	3回 以内		3回以内 (樹幹処理 は2回以内)	3回以内	3回以内
	アブラムシ類	1000～1500倍							
かき	カミムシ類 かきハタムシガ チャノキイロアザミウマ ハマキムシ類 かきクダアザミウマ	1000倍		収穫30日 前まで*	3回 以内		3回以内	3回以内	3回以内 (樹幹処理 は2回以内)
みかん	アブラムシ類 チャノキイロアザミウマ			収穫14日 前まで	4回 以内		4回以内	5回以内 (樹幹処理 は 1回以内)	
かんきつ (みかんを 除く)	アブラムシ類 チャノキイロアザミウマ			収穫14日 前まで	3回 以内		4回以内	3回以内 (樹幹処理 は 1回以内)	
大粒種ぶどう	チャノキイロアザミウマ フタテンヒメコバエ			収穫21日 前まで	2回 以内		2回以内	4回以内 (収穫終了後 から 萌芽までは 2回以内、 萌芽後は 2回以内)	
小粒種ぶどう		収穫90日 前まで							

(14) スミチオン粉剤2 (MEP 2% 粉剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数
稲	ニカメチウ第1世代	3kg/10a	収穫21日前まで	2回以内 (但し、 出穂前 は1回)	散布	3回以内 (種もみへの 処理は1回以内、 育苗箱散布は 1回以内、 本田では 2回以内)
	ニカメチウ第2世代	4kg/10a				
	ウカ類 ツマゴロコバ カムシ類 サカメチウ イネヒメカ イネヒメカ フタヒメカ アブラムシ類	3~4kg/10a				
	イネトモイシ幼虫	3kg/10a				
だいた	ダイズサタマハ カムシ類	4~6kg/10a	収穫14日前まで	4回以内		4回以内
	マシカ シイモシマ ラメイカ	3~4kg/10a				
麦類	ヒトビウカ アブラムシ類		収穫14日前まで	1回		1回
くり	クリシ ウシ モシ ラメイカ	6~9kg/10a	裂果前 但し、 収穫14日前まで	4回以内		4回以内 (樹幹処理は 1回以内)
まめ科牧草 いね科牧草	アブラムシ類 ウリハムシ ドキ	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
まつ類	マツカ	3~5kg/10a	-	-	幼虫期 を対象 に散布	-
さとうきび	カンシヤ ネガ カムシ セシ チイ メチウ類 カンシヤ アブラムシ クサ ミ成虫	3~4kg/10a	収穫45日前まで	4回以内	散布	4回以内
	クサ ミ幼虫	4~6kg/10a			地表散布 又は株元 土壌混和	

(15) スミチオン粉剤3DL (MEP 3% 粉剤)

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数
稲	-	ニカメチウ ウカ類 コバ カムシ類 イネトモイシ アブラムシ類	3~4kg/10a	収穫21日前まで	2回以内 (但し、 出穂前は 1回)	散布	3回以内 (種もみへの 処理は1回 以内、育苗箱 散布は1回 以内、本田では 2回以内)
水田作物、 畑作物 (休耕田)	ヨシ、ササ、ススキ、 セトカ アワガ チウ等の多 年生雑草が 優占している 休耕田	カムシ類		-	4回以内		4回以内
だいた	-		4kg/10a	収穫21日前まで			

(16) スミトップM粉剤 (MEP 3%、チオファネートメチル 2% 粉剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
小麦	赤かび病 うどんこ病 ムギアカタマバエ アブラムシ類 ヒメビウカ	4kg/10a	収穫14日前まで	1回	散布	1回	4回以内 (種子への処理は1回以内、散布及び無人ヘリ散布は合計3回以内、出穂期以降は2回以内)
麦類 (小麦を除く)							3回以内 (種子への処理は1回以内、出穂期以降は1回以内)
だいず	マシクイガ カムシ類 ダクイサヤマバエ シロイソグサラメイガ 紫斑病	3~4kg/10a	開花期~ 若莢期 但し 収穫21日前まで	4回以内		4回以内	4回以内 (種子への処理は1回以内)
つつじ類	褐斑病 ツツジグンバイ	4kg/10a	-	5回以内		6回以内	5回以内

(17) スミチオン微粒剤F (MEP 3% 微粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数
稲	コメチユウ第1世代	3kg/10a	収穫21日前まで	2回以内 (但し、 出穂前は1回)	散布	3回以内 (種もみへの処理は1回以内、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)
	コメチユウ第2世代 カムシ類	4kg/10a				
くり	クリシキザウムシ モモゴマダラメイガ	5~6kg/10a	裂果前 但し収穫14日前まで	4回以内		4回以内 (樹幹処理は1回以内)
さとうきび	カンショバネガカムシ	4~5kg/10a	収穫45日前まで	4回以内		4回以内
桑	クワシトメタマバエ	4kg/10a	成虫羽化直前~ 成虫羽化初期 但し、摘採30日前まで	2回以内	地表面 散布	6回以内

(18) ラブサイドスミチオン微粒剤F (MEP 3%、フサライド 2.5% 粉粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数	フサライドを含む農薬の総使用回数
稲	コメチユウ いもち病	3~4kg/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	3回以内 (種もみへの処理は1回以内、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)	3回以内
					空中散布		

(19) スミパインMC (MEP 23.5% マイクロカプセル剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数
まつ (生立木)	マツノダマカミ成虫	5倍	6L/10a	成虫発生初期	3回以内	空中散布	6回以内
		2.5倍	3L/10a				
		15倍	18L/10a				
		20倍	24L/10a			散布	
		50倍	3L/本 (樹高10m)				
		2.5~5倍	3L/10a				
ヤシ類	ヤシ材サザムシ成虫	50倍	5L/本 (葉柄基部直径1m)		6回以内	樹頂部に散布	

(20) スミチオンMC (MEP 20% マイクロカプセル剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数
稲	カメシ類	12~15倍	3L/10a	収穫21日前まで	2回以内	空中散布	3回以内 (但し、種もみへの処理は1回以内、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)
		3.2~4倍	800mL/10a			無人ヘリコプターによる散布	

(21) パインサイドS油剤C、パークサイドオイル (MEP 40% 油剤)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数
木材	水中貯木場	カミキリ類 カミキリ類 ゾウムシ類等のせん孔虫	20倍 (灯油で希釈)	-	-	本剤の所定希釈液 (灯油で希釈)を木材表面積 1㎡当り300ml 又は材積1m <sup>3</sup> 当り 2.4~3.6ℓ散布する。	-
樹木類 (伐倒木)	伐採地貯木場		40~60倍 (灯油で希釈)			本剤の所定希釈液 (灯油で希釈)を 伐倒木樹皮の表面に表面積 1㎡当り400~600ml の割合で散布する	
すぎ (伐倒木) ひのき (伐倒木)			マダコクホシタマシ			40倍 (灯油で希釈)	
桑	-	カミキリ類 クワシカイガラムシ クビメゾウムシ	50倍 (灯油で希釈)	脱苞 20日前まで	1回	散布	6回以内

(22) スミチオンスプレー (MEP 0.1% 液剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	MEPを含む 農薬の総使用回数
きく	アブラムシ類	原液	発生初期	-	散布	-
ばら	アブラムシ類 チュウレンジハバチ					
さくら	アメリカシロヒトリ					
つばき類	チャドクガ					
つつじ類	ツツジグンバイ					
まさき	ミノスガ					
さんごじゅ	サンゴジュハムシ					

## 2. 使用上の注意事項（主な単剤のみ収載）

## [スミチオン乳剤]

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) ボルドー液と混用する場合は散布直前に行き、できるだけ早く使用すること。  
ただし、その他のアルカリ性の強い農薬との混用はさけること。
- (3) 桃の初期散布（5～6月）には薬害の可能性があるので注意すること。
- (4) 稲（箱育苗）のイネシンガレセンチュウに使用する場合は下記の事項に注意すること。
  - ①発芽期～緑化期の使用は薬害を生ずるおそれがあるのでさけること。
  - ②軟弱徒長苗、ムレ苗などの場合は薬害を生ずるおそれがあるので使用しないこと。
  - ③土壌が極端に湿潤な場合は使用しないこと。
- (5) イネシンガレセンチュウの本田における防除に使用する場合は、散布適期は出穂の頃であるので時期を失しないように散布すること。なお効果を高めるためには出穂始めとその1週間後の2回散布が望ましい。
- (6) 水稻種子の吹き付け処理の場合は、専用の種子消毒機を使用し、乾燥種籾に均一に付着するよう所定薬液を吹き付けて乾燥すること。なお処理後、長期間保存する場合には、薬液処理を行ったことを明記し、まちがいのないようにすること。
- (7) 本剤を本田の水稻に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (8) クワゾウムシに対しては成虫が桑樹に集まる4月下旬から6月頃に散布すること。  
成虫の活動は長期間にわたるので発生状況に応じて追加散布すること。  
なお、蚕に対して毒性があるので給桑予定している桑には使用しないこと。
- (9) かきのミノガ類に使用する場合は、幼虫が大きくなると効果が劣るので若令幼虫期に時期を失しないように散布すること。
- (10) 果樹のカメムシ類に対しては発生に応じて所定使用回数以内で繰返し散布すること。
- (11) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (12) 本剤を空中散布及び無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意を守ること。
  - ①散布薬液の飛散によって他の動植物（特にあぶらな科作物、桑、さといも、ソルゴ等の農作物、養蚕、養蜂）に影響を与えないよう散布区域の選定に注意すること。
  - ②水源池、飲料用水、養殖池等に本剤が飛散流入しないように十分注意すること。
- (13) 本剤を空中散布及び無人ヘリコプターによる散布に使用する場合はさらに次の注意を守ること。
  - ①散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - ②少量散布（8倍液）の散布には、微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
  - ③無人ヘリコプターによる散布にあっては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
  - ④散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - ⑤特定の農薬（混用可能が確認されているもの）を除いて原則として他の農薬との混用は行わないこと。
  - ⑥散布終了後は次の事項を守ること。
    - (a) 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄すること。

- (b) 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃棄液は安全な場所に処理すること。
- (14) 本剤を希釈倍数250倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を利用すること。
  - (15) 梨の早生赤種、りんごの旭及びその近縁種には薬害のでることがあるので使用はさけること。
  - (16) 宿根かすみそうに使用する場合、開花期には薬害を生じることがあるので、この時期の使用は避けること。
  - (17) あぶらな科作物には薬害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
  - (18) ひのきに対しては個体によって落葉、枯損にいたるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
  - (19) ほうれんそうに使用する場合、幼苗期には薬害を生ずるおそれがあるので注意すること。
  - (20) 牧草地に散布した場合は、散布直後の放牧はさけること。
  - (21) まめ科牧草のアルファルファゾウムシに使用する場合は、幼虫発生期～成虫発生初期に散布すること。なお、防除適期等については病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
  - (22) かんぎつのミカンツボミタマバエ防除に使用する場合は、成虫の発生初期に樹冠部及び主幹部を中心とした樹の内部、樹冠下の地表面に散布するのが効果的である。
  - (23) 芝のコガネムシ類幼虫に使用する場合は、散布液が土壤中に十分しみ込むようジョロ等で1㎡当たり3Lを散布すること。
  - (24) フラーバラゾウムシ及びミカンキジラミに使用する場合は、植物防疫（事務）所、病虫害防除所等関係機関の指導のもとに実施すること。
  - (25) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。  
なお、普及指導センター、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
  - (26) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
    - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
    - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の果樹園等では使用をさけること。
    - ③養蜂が行われている地区では都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めること。

[スミパイン乳剤]

- (1) アルカリ性の強い農薬との混用はさけること。
- (2) ひのきに対しては個体によって落葉、枯損にいたるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (3) 本剤によるマツノマダラカミキリ成虫防除は後食防止を目的とするものであり、成虫発生直前又は発生初期に時期を失しないように散布し、更に20日後（成虫発生最盛期直前）にもう一度散布すると効果的である。

- (4) マツノマダラカミキリ成虫に対する150～200倍液の地上散布及び空中散布の単木処理をする場合、散布液量は、樹高10mの松1本当り3Lを標準とし、木の大きさにより適宜増減し、樹冠部を中心に全面に散布する。
- (5) 空中散布による単木処理の場合は、専用の鉄砲ノズルを用い、対象木の樹冠部を中心に適確に散布すること。又60～180倍液（12～24L/10アール）で空中散布する場合は、限定された地域（林分）を対象として単木処理に準じた方法（鉄砲ノズル）で適確に散布すること。
- (6) マツノマダラカミキリ幼虫に対する空中散布の単木処理をする場合、散布液量は、樹高10mの枯損立木1本当り5Lを標準とし、木の大きさにより適宜増減し、樹幹と枝にむらなく散布すること。
- (7) マツノマダラカミキリ成虫防除（空中散布）の場合の投下薬量は10アール当り本剤200mLを基準とするが微害林に使用する場合はその程度に応じて130～200mL内の一定量とする。  
投下薬量は、希釈倍数及び10アール当り散布液量を所定の範囲内で調節して所要の薬量になるようにすること。
- (8) 本剤を無人ヘリコプターにより散布する場合は、対象松林の梢端が見える場所で行うこと。
- (9) 本剤による伐倒木処理の場合、厚皮部のカミキリムシ類やゾウムシ類には薬液を多目に散布すること。
- (10) 本剤による伐倒木処理の場合、降雨直後または雨天の散布はさけ樹皮が雨などで濡れているときは乾いてから散布すること。
- (11) さくらのコスカシバに対しては、その発生に応じて2～3回散布すること。
- (12) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (13) 本剤を大型散布機（ヘリコプターなど）で使用する場合は、各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
- (14) 本剤を空中散布用薬剤として使用する場合は次の注意を守ること。  
・ 散布薬液の飛散によって他の動植物（特にあぶらな科作物、桑、さといも、ソルゴ等の農作物、養蚕、養蜂）に影響を与えないよう散布区域の選定に注意すること。
- (15) 本剤を空中少量散布（4～6倍液）に使用する場合はさらに次の注意を守ること。  
①微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。  
②散布中薬液の漏れないように、機体の散布用配管、その他散布装置の十分な点検を行うこと。  
③特定の農薬（混用可能が確認されているもの）を除いて原則として他の農薬との混用は行わないこと。  
④散布終了後は次の項目を守ること。  
（a）使用後の空の容器は放置せず安全な場所に廃棄すること。  
（b）機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- (16) 対象樹種がヒノキの場合、一部のヒノキで落葉現象が生じることがあるので、あらかじめ切枝に薬剤を散布し、落葉が生じない樹であることを確認の上、散布すること。
- (17) 本剤を樹幹散布に使用する場合、蘚苔類に薬害を生じる場合があるので、散布液がかからないよう注意すること。



- (18) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (19) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - ②養蜂が行われている地区では都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (20) 水源池、飲料用水、養魚池、養魚田等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
- (21) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。

[スミチオン乳剤70]

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- (2) ボルドー液と混用する場合は散布直前に行い、できるだけ早く使用すること。  
ただし、その他のアルカリ性の強い農薬との混用はさけること。
- (3) ツマグロアオカスミカメに対しては新芽の萌芽期から1～2葉期の頃に散布すること。
- (4) ナガチャコガネ（幼虫）の防除に使用する場合は、使用時期に留意し、被害発生部及びその周辺に所定量を灌注すること。なお、初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (5) あぶらな科作物には薬害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (6) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (7) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - ②養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
- (8) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。

[スミバッサ乳剤75]

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- (2) 石灰硫黄合剤、ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用はさけること。
- (3) 本剤を水田の水稻に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (4) 本剤を空中散布に使用する場合は次の注意を守ること。
  - ①散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - ②少量散布の場合には、微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
  - ③散布中、薬液の漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - ④少量散布の場合には、特定の農薬（混用可能が確認されているもの）を除いて原則として他の農薬との混用は行わないこと。

- ⑤ 散布薬液の飛散によって他の動植物（特にあぶらな科作物、ひのき、桑、さといも、ソルゴ等の農作物、養蚕、養蜂等）に影響を与えないよう散布地域の選定に注意すること。
- ⑥ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散流入しないように十分注意すること。
- ⑦ 散布終了後は次の項目を守ること。
  - (a) 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄すること。
  - (b) 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- (5) あぶらな科作物には薬害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないようにする。
- (6) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (7) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - ② 養蜂が行われている地区では都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (8) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (9) 本剤の使用にあたっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

[ガットキラー乳剤]

- (1) 本剤の所要量を所定量の水にうすめ、よくかき混ぜてから散布すること。
- (2) アルカリ性の強い農薬との混用はさけること。
- (3) あぶらな科作物をはじめ、茎葉の生育中の作物には薬害を生ずるので付近にある場合にはかからないよう注意して散布すること。
- (4) ぶどうに対しては、休眠期（落葉後～萌芽前）に樹幹部及び主枝に十分散布すること。萌芽後は新芽に薬害を生ずるので必ず萌芽前に散布を終えること。
- (5) もも、ネクタリン、うめ、おうとう、あんずのコスカシバ防除に使用する場合は休眠期（落葉後～萌芽前）に樹幹部のコスカシバ加害部に十分散布すること。  
 あらかじめ虫糞、粗皮等を取り除いてから散布すると効果的である。  
 萌芽後は薬害のおそれがあるので散布しないこと。  
 あらかじめ虫糞、粗皮等を取り除いてから散布すると効果的である。  
 萌芽後は薬害のおそれがあるので散布しないこと。
- (6) 桑に対しては春先の萌芽前、夏切り直後、晩秋蚕終了後に樹幹部特に株元に十分散布すること。新芽および葉には薬害を生ずるので薬液がかからないように注意すること。  
 桑葉にかかった場合は散布後1ヶ月は給桑しないこと。
- (7) ぶどうに対するSS散布の場合はまきむらが生じやすいので、風圧走行間隔、走行スピードに十分注意して、樹幹部及び主枝にたっぷり散布すること。
- (8) 本剤の使用は単用でもよいが、浸透力の強い展着剤を加用するとさらに効果的である。
- (9) 本剤をかんきつ及びりんごのカミキリムシ類防除に使用する場合は次の注意を守ること。  
 喰入幼虫に対しては殺虫効果は十分でなく、また残効性も比較的短いので散布の時期を失しないように注意する。

かんきつでは6～7月、りんごでは6月末～7月末の成虫飛来から産卵初期（産卵最盛期直前）の適期に散布すること。地際近くの樹幹のくぼみは特に産卵加害が著しいので、この辺りへは十分薬液が到達するよう散布すること。

散布液が葉にかかると葉害を生ずるおそれがあるので、かからないように十分注意して樹幹部から地際部に散布すること。

- (10) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (11) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### [サッチューコートS]

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 散布の際はマスク、手袋などをして散布液を吸い込んだり多量に浴びたりしないように注意し、作業後は顔、手足など皮膚の露出部を石けんでよく洗い、うがいをすること。
- (3) アルカリ性農薬との混用はさけること。ボルドー液と混用する場合は散布直前に行い、できるだけ早く使用すること。ただし、その他のアルカリ性の強い農薬との混用はさけること。
- (4) かんきつ、カミキリムシ類に対しては樹皮下に穿入した若令幼虫の防除を主体に使用するが、残効性短く時期を失すると効果が劣るので幼虫食入初期の7月頃樹幹部及び主枝に十分散布又は塗布すること。時期がおくれて幼虫が材内に穿入してからでは効果が劣るので時期を失しないように注意すること。又散布液が葉にかかると葉害を生ずるおそれがあるので葉にかからないように注意して散布すること。
- (5) ぶどう、ももに使用する場合は休眠期（落葉後～萌芽前）に十分散布又は塗布すること。
- (6) 桑に使用する場合新芽や葉には葉害を生ずるので、春季の萌芽前又は夏切直後に樹幹部特に株元に十分散布又は塗布すること。なお誤って隣接桑園にかかった場合には散布後1ヶ月は給桑しないこと。
- (7) 桑のカミキリムシ類に対して春季萌芽前に使用する場合は50倍液を用いること。
- (8) ぶどうに使用する場合本剤は開花の日以前の使用であるので該当しないが安全使用基準でMEPを含む農薬の総使用回数は3回以内と決められているので留意すること。
- (9) あぶらな科作物には葉害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (10) もものコスカシバ防除に使用する場合はあらかじめ被害部の虫糞、粗皮等を取除いてから散布又は塗布すると効果的である。

#### [サッチューコートSセット]

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 散布の際はマスク、手袋などをして散布液を吸い込んだり多量に浴びたりしないように注意し、作業後は顔、手足など皮膚の露出部を石けんでよく洗い、うがいをすること。
- (3) 他の農薬とは混用しないこと。ボルドー液と混用する場合は散布直前に行い、できるだけ早く使用すること。ただし、その他のアルカリ性の強い農薬との混用はさけること。

- (4) 本剤は、かんきつ、くりのカミキリムシ類など樹幹せん孔虫の産卵及び幼虫の食入防止を主体として使用するが、残効性が短く使用時期を失すると効果が劣るので、適期に散布又は塗布するように注意すること。かんきつ、くりのカミキリムシ類の防除では6～7月の産卵最盛期直前、くりのキクイムシ類防除には萌芽直前（産卵初期）が使用の適期である。
- (5) くりのコウモリガに対しては幼虫食入期直前～幼虫食入初期に1.5～2m迄の主幹及び主枝に十分散布又は塗布すること。
- (6) 使用に際しては6倍量（本剤の原液100mlに対し600g）のカラー粉を混用し十分攪拌して完全に溶かしてから使用すること。なお調製に際しては本剤を水で希釈した後、攪拌しながら徐々にカラー粉を加え十分攪拌すること。
- (7) 生育期の散布の場合は葉にかかると葉害を生ずるおそれがあるのでかからないように樹幹部や主枝だけに散布すること。
- (8) あぶらな科作物には葉害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (9) 調製した散布液はそのまま放置せずなるべく早く使用すること。

[ガットサイドS]

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 使用した刷毛をそのまま放置すると薬液の固化とともに毛の部分が堅くなるので、使用直後に水で十分洗うこと。
- (3) アルカリ性薬剤との混用はさけること。
- (4) 本剤を産卵、喰入防止に使用する場合は残効性は短く、使用時期を失すると効果が劣るので、適期にむらなくていねいに使用するよう注意すること。  
 柑橘のカミキリムシ類、りんごのゴマダラカミキリ防除には6～7月の産卵最盛期直前、くりのキクイムシ類防除には芽出し直前（産卵初期）、りんごのシコクアナアキゾウムシ防除には5月下旬～6月下旬（産卵期）が使用適期である。
- (5) 雨天や降雨の前後の使用は効果が劣るのでさけること。
- (6) 薬液が葉にかかると葉害を生ずるおそれがあるので、かからないように樹幹部のみに散布すること。特に新葉時期は葉害が生じやすいので散布は注意すること。
- (7) あぶらな科作物を初め、作物の茎葉には葉害を生ずるおそれがあるので付近の作物にはかからないように注意して使用すること。
- (8) くり及びぶどうのコウモリガに対しては幼虫喰入期直前～喰入初期に地際部から1.5～2mまでの主幹及び主枝に原液～1.5倍液をていねいに塗布するか所定の希釈液を十分ぬれるように散布すること。  
 コウモリガの被害は特に地際部に多いので地際部に薬液が十分付着するように処理すること。  
 なお、ぶどうの場合、新梢への処理は葉害を生ずるおそれがあるので、新梢部の被害防止を目的としては使用しないこと。
- (9) もものコスカシバ及びかきのヒメコスカシバ、カキノキマダラメイガに対しては産卵防止効果及び喰入防止を主体に春～秋の産卵期～幼虫喰入初期に樹幹部及び主枝に十分塗布又は散布すること。  
 なお、喰入後の幼虫に対しては使用する場合は、あらかじめ粗皮や虫糞を取除いてから塗布

又は散布すると効果的である。

カキノキマダラメイガは樹幹の分枝部に被害が多いので分枝部を主点に処理すること。

使用に際しては薬液が葉にかかると葉害を生ずるので、かからないように注意して散布すること。

- (10) いちじくのクワカミキリに対して産卵忌避効果は劣るが、産卵痕に塗布すると効果的である。
- (11) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。

#### [トラサイドA乳剤]

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 本剤が他の農作物の葉にかかると葉害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (3) ぶどうの休眠期、くりの発芽直前に使用する場合、使用時期が遅れると新芽、新葉に葉害を生ずるおそれがあるので、時期を失しないよう注意すること。
- (4) ぶどうに使用する場合、本剤は開花の日以前の使用であるので安全使用基準に該当しないが、MEPを含む農薬の使用回数は2回以内と決められているので留意すること。
- (5) カミキリムシ防除に使用する場合は残効性が短く、使用時期を失すると効果が劣るので適期に散布するように注意すること。

産卵最盛期～幼虫食入期が本剤散布の適期である。

なお、カミキリムシ類成虫の発生が長びく場合は、産卵最盛期直前と幼虫食入期の2回散布が効果的である。

- (6) 散布液が葉にかかると葉害を生ずるおそれがあるので、樹幹部のみに散布すること。  
特に新葉時期の散布は葉害を生じやすいので注意すること。
- (7) 調製した散布液はその日のうちに使用すること。
- (8) 雨天や降雨直後の散布は殺虫効果が劣るのでさけること。
- (9) 石灰硫黄合剤、ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用はさけること。
- (10) 本剤をみかんに使用する場合は、コート薬剤と混合して散布してもよい。
- (11) 桑に使用する場合は、発芽前（3～4月）及び夏切り直後に薬液がしたたり落ちる程度に十分散布すること。発芽後の散布は葉害を生じるので使用しないこと。
- (12) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意すること。

#### [ラビキラー乳剤]

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ること。
- (2) 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさけること。
- (3) ぶどう、もも、おうとう、うめに散布する場合、使用時期が遅れると新芽、新葉に葉害を生ずるおそれがあるので、必ず休眠期中に散布すること。
- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
  - ③養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に

努めること。

- (5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (6) みかん、りんごのゴマダラカミキリに使用する場合、散布液が葉にかかるとう葉害を生ずるおそれがあるので、かからないように樹幹部から地際部へ散布すること。
- (7) 本剤が他の農作物の葉にかかるとう葉害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (8) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。

[スミチオン水和剤40]

- (1) 使用量に合わせ液を調製し、使いきること。
- (2) アルカリ性の強い農薬との混用は避けること。ただし、ボルドー液との混用の際は使用直前に混合すること。
- (3) あぶらな科作物には葉害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (4) りんごの旭種及びその近縁種には、他の有機燐剤と同様に葉害の出ることがあるので注意すること。
- (5) 桃の初期散布（5～6月）には葉害の出ることもあるので注意すること。
- (6) 梨の早生赤種には葉害が出るので使用は避けること。
- (7) 果樹のカメムシ類に使用する場合には、発生に応じて所定範囲内でくり返し散布すること。
- (8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (9) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
  - ③養蜂が行われている地区では都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (10) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。

[パーマチオン水和剤]

- (1) 水溶性内袋入りの製剤を使用する場合は、次の事項に注意すること。
  - ①内袋はぬれた手で触れないこと。
  - ②外袋の開封後は一度に使い切ることが望ましい。やむを得ず保管する場合でも、できるだけ速やかに使い切ること。
  - ③薬液調製の際は、容器内の水に内袋を開封せずそのまま投入し、よく攪拌すること。
- (2) アルカリ性の強い農薬との混用は避けること。ただし、ボルドー液との混用の際は使用直前に混合すること。
- (3) あぶらな科作物には葉害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (4) りんごの旭種及びその近縁種には、他の有機燐剤と同様に葉害の出ることがあるので注意すること。
- (5) ももの初期散布（5～6月）には葉害の出ることがあるので注意すること。

- (6) なしの早生赤種及びその近縁種には葉害のでることがあるので使用はさけること。
- (7) なしの新葉展開期（4～5月）に使用すると、展開葉に、黄化などの葉害を生ずることがあるので、この時期の散布はさけること。
- (8) 蚕に長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、付近の桑に付着する恐れのある場所では使用しないこと。
- (9) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
  - ③養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
- (10) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (11) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

[スミロディー水和剤]

- (1) ボルドー液と混用する場合は散布直前に行い、できるだけ早く使用すること。  
ただし、その他のアルカリ性の強い農薬との混用はさけること。
- (2) 梨の早生赤種、りんごの旭種及びその近縁種には葉害の出ることがあるので使用は避けること。
- (3) あぶらな科作物には葉害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (4) 蚕に長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、桑に付着する恐れのある場所では使用しないこと。
- (5) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (6) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

[スミチオン粉剤2]

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) くりの場合は、極早生種（森早生、豊多摩早生など）及び樹勢の弱っている樹、又は若葉の頃まで（5月まで）は葉害のおそれがあるので使用はさける。
- (3) あぶらな科作物には葉害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (4) 松類のマツカレハ防除の場合は幼令虫に散布すること。
- (5) 牧草地に散布した場合は、散布直後の放牧はさけること。
- (6) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (7) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること。
  - ③養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。

- (8) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に薬剤がかかると変色する恐れがあるので、薬剤がかからないよう注意すること。
- (9) DCPA剤との同時施用および10日以内の近接散布は薬害を生ずるおそれがあるのでさけること。

[スミチオン粉剤3DL]

- (1) 使用量に合わせて秤量し、使いきること。
- (2) あぶらな科作物には薬害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (3) 本剤はできるだけ飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ、見かけ比重がやや大きく、流動性が良いので散布の際は散粉機の開度を一目盛程度しぼって散布すること。
- (4) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - ②養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。

[スミトップM粉剤]

- (1) 使用量に合わせて秤量し、使いきること。
- (2) あぶらな科作物には薬害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (3) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけること
  - ③養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
- (5) 本剤は第7項の適用病害虫の同時防除剤として使用し、開花期～若莢期に2～3回散布すること。

[スミチオン微粒剤F]

- (1) 使用量に合わせて秤量し、使いきること。
- (2) 養魚田での使用はさけること。
- (3) 散布する水田は必ずしも湛水する必要はないが、できれば稲作前期には浅く(2～3cm)湛水してから散布し、散布後7日間は落水、かけ流しをしないこと。
- (4) 素手で手播きすることや、素足で長時間散布作業を継続することはさけること。
- (5) あぶらな科作物には薬害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (6) 本剤は散粒用多口ホース噴頭付き動力散粒機で散布すること。
- (7) 本剤の散布は地上1.5mの位置における風速が3m/秒をこえるときは行わない。
- (8) くりを使用する場合、極早生種(森早生、豊多摩早生)、樹勢の弱っている樹及び若葉時期(5月まで)の散布は薬害を生ずるおそれがあるのでさけること。



- (9) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
- ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - ② 養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
- (10) 本剤は蚕に対して長期間影響を及ぼすので、桑に使用する場合は茎葉や隣接の桑園にかからないように十分注意して地表面に散布すること。なお、散布後 30 日間は蚕に与えないこと。
- (11) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意すること。

[住化ラブサイドスミチオン微粒剤 F]

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 養魚田での使用はさけること。
- (3) 散布する水田は必ずしも湛水する必要はないが、できれば稲作前期には浅く (2~3 cm) 湛水してから散布し、散布後 7 日間は、落水、かけ流しをしないこと。
- (4) あぶらな科作物には薬害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (5) 本剤は地上散布では散粒用多口ホース噴頭付き動力散粒機で散布すること。
- (6) 本剤の散布は地上 1.5 m の位置における風速が、3 m/秒をこえるときは行わない。
- (7) 本剤はいもち病発生に際して予防的に散布した方がより効果的である。  
葉いもちに対しては発生が予想される場合又は初発生を見たら直ちに散布すること。
- (8) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に薬剤がかかると変色する恐れがあるので、薬剤がかからないよう注意すること。

[スミパイン MC]

- (1) 本剤を空中散布または無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
  - ① 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - ② 無人ヘリコプターによる散布にあっては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
  - ③ 散布中薬液が漏れないように、機体の散布用配管、その他散布装置の十分な点検を行なうこと。
  - ④ 特定の農薬 (混用可能が確認されているもの) を除いて原則として他の農薬との混用は行わないこと。
  - ⑤ 散布終了後は次の事項を守ること。
    - (a) 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄すること。
    - (b) 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- (2) 本剤によるマツノマダラカミキリ成虫防除は後食防止を目的とするものであり、成虫発生初期に時期を失ないように散布すること。
- (3) マツノマダラカミキリ成虫に対する 50 倍液の地上散布の単木処理をする場合、散布液量は、樹高 10 m の松 1 本当り 3 L を標準とし、木の大きさにより適宜増減し、樹冠部を中心に全面に散布すること。
- (4) ヤシ類に使用する場合、使用液量は葉柄基部直径 1 m に対して 5 L を標準とし、木の大きさに

より適宜増減して樹頂部に散布すること。ただし、10a当たりの使用液量は100Lをこえないこと。

- (5) ひのきに対しては個体によって落葉、枯損にいたるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (6) 本剤を広範囲に使用する場合は、散布薬液の飛散によって他の動植物（特にあぶらな科作物、桑、さといも、ソルゴ等の農作物、養蚕、養蜂）に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- (7) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (8) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - ②養蜂が行われている地区では都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (9) 本剤は自動車、壁およびカラートタンなどの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (10) 水源池、飲料用水、養殖池等に本剤が飛散・流入しないように十分注意すること。
- (11) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。

[スミチオンMC]

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- (2) 本剤は、空中散布及び無人ヘリコプターによる散布薬剤として使用する。次の注意を守ること。
  - ①散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - ②無人ヘリコプターによる散布にあつては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
  - ③散布中、薬液の漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
  - ④特定の農薬（混用可能が確認されているもの）を除いて原則として他の農薬との混用は行わないこと。
  - ⑤散布薬液の飛散によって他の動植物（特にあぶらな科作物、桑、さといも、ソルゴ等の農作物、養蚕、養蜂）に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、自動車やカラートタンの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
  - ⑥水源池、飲料用水、養殖池等に本剤が飛散流入しないように十分注意すること。
  - ⑦散布終了後は、次の項目を守ること。
    - (a) 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄すること。
    - (b) 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- (3) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  - ②養蜂が行われている地区では都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めること。

[パインサイドS油剤C、パークサイドオイル]

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 他剤とは混用しないこと。
- (3) 降雨直後または雨天の散布はさけ、樹皮が雨などで濡れているときは乾いてから散布すること。
- (4) 伐倒木など剥皮しないで処理する場合、厚皮部のゾウムシ類やカミキリムシ類には薬液を多めに散布すること。
- (5) 桑のカミキリムシ類、クワシロカイガラムシ及びクワヒメゾウムシ防除に使用する場合は、脱苞直前から生育期には薬害を生ずるので使用しないこと。
- (6) 本剤は農作物の茎葉にかかると薬害を生ずるので、付近に作物がある場合には薬液がかからないように十分注意して散布すること。
- (7) 散布の際は薬液の飛散を防ぐため散布機は低圧で使用する事。
- (8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (9) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - ② 養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
- (10) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に薬剤がかかると変色するおそれがあるので、薬剤がかからないように注意すること。

[スミチオンスプレー]

- (1) 花卉に散布すると変色する恐れがあるので注意すること。
- (2) ばらの防除に使用する場合は、品種によっては（特にソニア）薬害を生じる場合があるので注意すること。
- (3) あぶらな科作物には薬害を生ずるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- (4) ミツバチ及び蚕に影響があるので、注意して使用すること。
- (5) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石等に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- (6) 本剤の使用に当っては使用方法を誤らないように注意すること。

3. 水産動植物に有毒な農薬については、その旨（主な単剤のみ収載）

[スミチオン乳剤]

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。  
本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 空中散布または無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。
- (4) 散布後は水管理に注意すること。
- (5) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[スミバイン乳剤]

- (1) 水産動植物（魚類、甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 空中散布又は無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[スミチオン乳剤70]

- (1) 水産動植物（魚類、甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[スミバッサ乳剤75]

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。  
比較的低濃度でも魚が平衡失調等を起こすので、養殖池等周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 空中散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (4) 散布後は水管理に注意すること。
- (5) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[ガットキラー乳剤]

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[サッチューコートS]

通常の使用方法では影響は少ないが、一時に広範囲に使用する場合は十分に注意すること。

[サッチューコートSセット]

通常の使用方法では影響は少ないが、一時に広範囲に使用する場合は十分に注意すること。

[ガットサイドS]

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[トラサイドA乳剤]

- (1) 水産動植物（魚類、甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[ラビキラー乳剤]

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用は避けること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[スミチオン水和剤40]

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 空中散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。
- (4) 散布後は水管理に注意すること。
- (5) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[パーマチオン水和剤]

- (1) 本剤はごく低濃度でも水産動物に強い影響を及ぼすので特に注意すること。
- (2) 河川、湖沼、海域及び養殖池に本剤が飛散・流入する恐れのある場所では使用しないこと。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[スミロディー水和剤]

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[スミチオン粉剤2]

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。養殖池等周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[スミチオン粉剤3DL]

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[スミトップM粉剤]

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[スミチオン微粒剤F]

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意し使用すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。  
また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[住化ラブサイドスミチオン微粒剤F]

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (3) 空中散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。
- (4) 散布後は水管理に注意すること。
- (5) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[スミバインMC]

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 空中散布または無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[スミチオンMC]

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 空中散布または無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[バインサイドS油剤C、パークサイドオイル]

通常の使用方法では影響が少ないが、一時に広範囲に使用する場合には十分注意すること。

[スミチオンスプレー]

水産動植物に影響を及ぼす恐れがあるので、池、水槽等に噴霧が入らないように注意すること。

## V. 残留性及び環境中予測濃度算定関係

### 1. 作物残留性試験

#### (1) 分析法の原理と操作概要

試料をアセトンで抽出し、アセトンを留去、食塩水で希釈した後、ジクロロメタンに転溶する。ジクロロメタン層を脱水、溶媒を留去した後、FPD ガスクロマトグラフィーを用いて定量する。

#### (2) 分析対象化合物

化学名：O,O-ジメチル O-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート

*O,O*-dimethyl *O*-(3-methyl-4-nitrophenyl) thiophosphate

分子式：C<sub>9</sub>H<sub>12</sub>NO<sub>5</sub>PS

分子量：277.24

#### (3) 残留分析結果（次頁）



作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)					
					公的分析機関		私的分析機関			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
					(財)残留農業研究所 HR-0496J		(財)日本食品分析センター HR-0497J			
水稻 露地 玄米 昭和48年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 地上散布 有効成分: BPMC 20%	富山病虫害防除協議会	0	—	< 0.002	< 0.002	0.001	0.001		
		千葉農試	1	31	< 0.002	< 0.002	0.005	0.004		
		宮崎農林航空事業対策協会	0	—	< 0.002	< 0.002	0.002	0.002		
		宮崎農林航空事業対策協会	1	28	0.003	0.003	0.002	0.002		
稲わら	MEP 50%	富山病虫害防除協議会	0	—	0.008	0.008	0.011	0.010		
		富山病虫害防除協議会	1	34	< 0.002	< 0.002	0.002	0.002		
		千葉農試	0	—	< 0.004	< 0.004	0.017	0.016		
		千葉農試	1	31	0.007	0.007	0.017	0.016		
稲わら	MEP 50%	千葉農試	0	—	< 0.004	< 0.004	0.005	0.005		
		千葉農試	1	28	0.019	0.018	0.043	0.040		
		宮崎農林航空事業対策協会	0	—	0.065	0.063	0.263	0.256		
		宮崎農林航空事業対策協会	1	34	0.033	0.032	0.068	0.064		
					(財)残留農業研究所 HR-0496J		(財)日本食品分析センター HR-0497J			
水稻 露地 玄米 昭和48年度	乳剤(50%) 20倍 3L/10a 空中散布 有効成分: BPMC 20% MEP 50%	富山病虫害防除協議会	0	—	< 0.002	< 0.002	0.001	0.001		
		富山病虫害防除協議会	1	31			0.007	0.007		
		千葉農試	1	42	< 0.002	< 0.002	0.005	0.004		
		千葉農試	0	—	< 0.002	< 0.002	0.002	0.002		
稲わら	MEP 50%	宮崎農林航空事業対策協会	1	28	< 0.002	< 0.002	0.002	0.002		
		宮崎農林航空事業対策協会	0	—	0.008	0.008	0.011	0.010		
		宮崎農林航空事業対策協会	1	34	< 0.002	< 0.002	0.002	0.002		
		富山病虫害防除協議会	0	—	< 0.004	< 0.004	0.017	0.016		
稲わら	MEP 50%	富山病虫害防除協議会	1	31			0.060	0.060		
		富山病虫害防除協議会	1	42	0.073	0.068	0.060	0.058		
		千葉農試	0	—	< 0.004	< 0.004	0.005	0.005		
		千葉農試	1	28	0.005	0.004	0.018	0.017		
稲わら	MEP 50%	宮崎農林航空事業対策協会	0	—	0.065	0.063	0.263	0.256		
		宮崎農林航空事業対策協会	1	34	0.049	0.046	0.087	0.086		
							(財)日本食品分析センター HR-0498J		(財)化学分析コンサリタント HR-0499J	
		水稻 露地 玄米 昭和50年度	粉剤(2%) 4kg/10a 散布	滋賀農試	0	—	< 0.002	< 0.002	< 0.005	< 0.005
滋賀農試	6			7	0.015	0.014	0.014	0.014		
長野農試	0			—	< 0.002	< 0.002	< 0.005	< 0.005		
長野農試	6			7	0.034	0.034	0.028	0.028		
稲わら	散布	滋賀農試	0	—	0.026	0.026	< 0.005	< 0.005		
		滋賀農試	6	7	0.444	0.423	0.595	0.593		
稲わら	散布	長野農試	0	—	0.024	0.023	< 0.005	< 0.005		
		長野農試	6	7	6.96	6.64	5.58	5.53		
					(財)日本食品分析センター HR-0500J		(財)化学分析コンサリタント HR-0501J			
水稻 露地 玄米 昭和51年度	粉剤(2%) 4kg/10a 散布	山形農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005		
		山形農試	6	7	0.16	0.16	0.147	0.140		
		千葉農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005		
		千葉農試	6	15	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005		
稲わら	散布	鳥取農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005		
		鳥取農試	1	7	< 0.01	< 0.01				
稲わら	散布	鳥取農試	6	7	0.07	0.07	0.076	0.074		
		山形農試	0	—	0.11	0.11	0.041	0.040		
稲わら	散布	山形農試	6	7	6.30	6.15	3.468	3.312		

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)残留農業研究所 HR-0502J		(株)住化分析センター	
水稲 露地 玄米 昭和53年度 稲わら	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 地上散布	岩手農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.002	< 0.002
			1	53	< 0.01	< 0.01	< 0.002	< 0.002
		福島農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			1	37	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
		岩手農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.002	< 0.002
			1	53	0.01	0.01	0.004	0.004
		福島農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			1	37	0.03	0.02	0.021	0.020
					(財)残留農業研究所 HR-0502J		(株)住化分析センター	
水稲 露地 玄米 昭和53年度 稲わら	液剤(60%) 125ml/10a(原液) 航空散布	岩手農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.002	< 0.002
			1	47	< 0.01	< 0.01	< 0.002	< 0.002
		福島農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			1	37	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
		岩手農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.002	< 0.002
			1	47	< 0.01	< 0.01	0.007	0.007
		福島農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			1	37	0.07	0.07	0.072	0.068
					(財)残留農業研究所 HR-0502J		(株)化学分析コンサルタント	
水稲 露地 玄米 昭和53年度 稲わら	乳剤(50%) 1000倍 100L/10a 散布	栃木農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			1	109	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			1	109	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
					(財)残留農業研究所 HR-0502J		(株)化学分析コンサルタント	
水稲 露地 玄米 昭和53年度 稲わら	乳剤(50%) 8倍 0.8L/10a 航空散布	栃木農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			1	109	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			1	109	0.01	0.01	0.005	0.005
					(財)日本食品分析センター HR-0503J		(株)住化分析センター HR-0504J	
水稲 露地 玄米 昭和53年度 稲わら	粉剤(3%) 4kg/10a 散布	新潟農試	0	—	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
			5	6	0.036	0.036	0.027	0.025
			5	14	0.039	0.039	0.020	0.020
		滋賀短大	0	—	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
			5	7	0.089	0.086	0.052	0.050
			5	14	0.062	0.062	0.037	0.036
		新潟農試	0	—	0.02	0.02	0.006	0.005
			5	6	1.94	1.94	1.860	1.848
	5	14	2.16	2.10	1.065	1.020		
	滋賀短大	0	—	0.07	0.07	0.033	0.032	
		5	7	1.40	1.40	2.035	1.935	
		5	14	0.83	0.82	0.667	0.631	

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					茨城県農業試験場		— —	
水稻 露地 玄米 昭和55年度	乳剤(50%) 1) 50倍、0.3%(重量)噴霧 2) 50倍、0.3%(重量)噴霧 +粉剤4kg/10a 6回散布	茨城農試	0 1 <sup>1)</sup> 7 <sup>2)</sup>	— 277 14	< 0.002 < 0.002 < 0.002	< 0.002 < 0.002 < 0.002		
					(財)日本食品分析センター HR-0508J		(株)化学分析コンサルタント HR-0509J、HR-0510J	
水稻 露地 玄米 平成元年度  稲わら	乳剤(50%) 800倍 (茨城) 100~150L/10a (滋賀)150L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
			4	21	0.031	0.030	0.024	0.022
			4	30	0.006	0.006	0.006	0.006
			6	21	0.027	0.026	0.022	0.021
		滋賀病害虫防除 所	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
			4	21	0.148	0.144	0.134	0.130
			4	30	0.047	0.046	0.042	0.041
			6	21	0.186	0.184	0.154	0.152
			6	30	0.055	0.052	0.045	0.043
			日植防(茨城)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01
4	21	0.57		0.56	0.42	0.42		
4	30	0.25		0.24	0.43	0.42		
6	21	0.66		0.64	1.05	1.04		
6	30	0.31		0.31	0.38	0.38		
滋賀病害虫防除 所	0	—		0.01	0.01	0.01	0.01	
	4	21		0.63	0.61	0.68	0.67	
	4	30		0.30	0.29	0.29	0.28	
	6	21	0.93	0.90	0.76	0.75		
6	30	0.32	0.30	0.44	0.44			
					— —		(株)住化分析センター HR-0513J	
水稻 露地 玄米 平成2年度  稲わら	マイクロカプセル剤(20%) 400倍 150L/10a 地上散布	日植防(茨城)	0	—			< 0.005	< 0.005
			4	7			0.096	0.095
			4	14			0.082	0.081
			4	21			0.056	0.055
		石川植防	0	—			< 0.005	< 0.005
			4	7			0.021	0.020
			4	14			0.013	0.012
			4	21			< 0.005	< 0.005
		日植防(茨城)	0	—			< 0.01	< 0.01
			4	7			2.72	2.59
			4	14			1.54	1.49
			4	21			0.46	0.45
石川植防	0		—			0.03	0.02	
	4		7			2.98	2.90	
	4		14			0.40	0.36	
	4		21			0.13	0.10	
					— —		(株)住化分析センター HR-0515J	
水稻 露地 玄米 平成2年度	乳剤(50%) 8倍 0.8L/10a 無人機散布	農水協(長野)	4	23			0.075	0.075
		農水協(静岡)	4	21			0.010	0.010

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター HR-0519J、HR-0521J		(株)住化分析センター HR-0520J、HR-0522J	
水稻 露地 玄米 平成3年度	マイクロバクセル剤(20%) 400倍 150L/10a 地上散布	日植防(茨城)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			4	21	0.07	0.06	0.066	0.065
			4	30	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			6	21	0.05	0.04	0.050	0.050
			6	30	< 0.01	< 0.01	0.008	0.008
			6	30	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
		千葉農試(北総)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			4	21	0.03	0.03	0.028	0.026
			4	30	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			6	21	0.01	0.01	0.014	0.014
			6	30	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			6	30	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
稲わら		日植防(茨城)	0	—	< 0.04	< 0.04	< 0.01	< 0.01
			4	21	1.17	1.16	0.78	0.76
			4	30	0.17	0.17	0.13	0.12
			6	21	0.38	0.38	0.35	0.34
			6	30	0.29	0.28	0.14	0.13
			6	30	< 0.04	< 0.04	< 0.01	< 0.01
		千葉農試(北総)	0	—	< 0.04	< 0.04	< 0.01	< 0.01
			4	21	0.44	0.42	0.30	0.28
			4	30	0.20	0.20	0.17	0.17
			6	21	0.23	0.23	0.13	0.12
			6	30	0.22	0.22	0.18	0.18
			6	30	< 0.04	< 0.04	< 0.01	< 0.01
					(財)日本食品分析センター HR-0523J		(株)住化分析センター HR-0524J	
水稻 露地 玄米 平成3年度	マイクロバクセル剤(20%) 3.2倍 0.8L/10a 無人へり散布	農水協(長野)	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
			4	21	0.016	0.014	0.020	0.018
		農水協(静岡)	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
			4	21	0.036	0.034	0.044	0.042
					(財)日本食品分析センター HR-0526J		(株)住化分析センター HR-0527J、HR-0528J	
水稻 露地 玄米 平成4年度	マイクロバクセル剤(20%) 3.2倍 0.8L/10a 無人へり散布	茨城植防	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01
			4	14			0.01	0.01
			4	21	0.011	0.010	0.01	0.01
			0	—	0.04	0.04	0.01	0.01
			4	14			3.16	3.02
			4	21	2.34	2.30	0.80	0.77
稲わら								

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター HR-0529J		株式会社分析センター HR-0530J、HR-0531J	
水稻 露地 玄米 平成4年度	マイクロカプセル剤(20%) 12倍 3L/10a 有人へり散布	茨城農総センター	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01
			1	46	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01
	マイクロカプセル剤(20%) 600倍 150L/10a 地上散布	新潟農試	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01
			1	46	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01
稲わら	マイクロカプセル剤(20%) 12倍 3L/10a 有人へり散布	茨城農総センター	0	—	< 0.02	< 0.02	< 0.01	< 0.01
			1	46	< 0.02	< 0.02	0.01	0.01
	マイクロカプセル剤(20%) 600倍 150L/10a 地上散布	新潟農試	0	—	< 0.02	< 0.02	< 0.01	< 0.01
			1	46	0.04	0.04	0.07	0.06
水稻 露地 青刈り 平成4年度	マイクロカプセル剤(20%) 12倍 3L/10a 空中散布	茨城農試	0	—			0.01	0.01
			0	—			< 0.01	< 0.01
	マイクロカプセル剤(20%) 600倍 150L/10a 地上散布	新潟農試	1	1			1.00	1.00
			1	3			0.09	0.09
水稻 露地 青刈り 平成4年度	マイクロカプセル剤(20%) 3.2倍 0.8L/10a 空中散布	新潟農試	1	16			0.08	0.08
			0	—			0.01	0.01
	マイクロカプセル剤(20%) 400倍 100L/10a 地上散布	新潟農試	0	—			< 0.01	< 0.01
			0	—			4.60	4.56
水稻 露地 青刈り 平成4年度	マイクロカプセル剤(20%) 3.2倍 0.8L/10a 空中散布	新潟農試	1	1			0.66	0.64
			1	3			0.02	0.02
	マイクロカプセル剤(20%) 400倍 100L/10a 地上散布	新潟農試	1	16			0.02	0.02
			0	—			< 0.01	< 0.01
水稻 露地 青刈り 平成4年度	マイクロカプセル剤(20%) 3.2倍 0.8L/10a 空中散布	新潟農試	0	—			0.02	0.02
			0	—			< 0.01	< 0.01
	マイクロカプセル剤(20%) 400倍 100L/10a 地上散布	新潟農試	1	2			2.69	2.62
			1	8			0.48	0.48
水稻 露地 青刈り 平成4年度	マイクロカプセル剤(20%) 400倍 100L/10a 地上散布	新潟農試	1	15			0.08	0.08
			1	22			0.03	0.02
	マイクロカプセル剤(20%) 400倍 100L/10a 地上散布	新潟農試	0	—			0.02	0.02
			0	—			< 0.01	< 0.01
水稻 露地 青刈り 平成4年度	マイクロカプセル剤(20%) 400倍 100L/10a 地上散布	新潟農試	1	2			6.38	6.34
			1	8			0.88	0.88
	マイクロカプセル剤(20%) 400倍 100L/10a 地上散布	新潟農試	1	15			0.21	0.20
			1	22			0.04	0.04

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		私的分析機関		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
					-		(株)住化分析センター HR-0538J		
水稲 露地 玄米 平成5年度	乳剤(50%) (1回目)100倍 10分間種子浸漬 (2回目以降)800倍 100L/10a 散布	滋賀農試	0 5	- 21			< 0.01 0.02	< 0.01 0.02	
					-		(株)住化分析センター HR-0537J		
水稲 露地 玄米 平成5年度	乳剤(50%) 100倍 10分間種子浸漬	滋賀農試	0 1	- 175			< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01	
					-		(株)住化分析センター HR-0537J		
水稲 露地 玄米 平成5年度	乳剤(50%) 1000倍 72時間種子浸漬	岩手農試	0 1	- 190			< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01	
					-		(株)住化分析センター HR-0536J		
水稲 露地 玄米 平成5年度	乳剤(50%) (1回目)1000倍 24時間種子浸漬 (2回目以降)800倍 150L/10a 散布	日植防(茨城)	0 5 5	- 21 30			< 0.01 0.05 < 0.01	< 0.01 0.05 < 0.01	
					-		(株)住化分析センター HR-0535J		
水稲 露地 玄米 平成5年度	乳剤(50%) 300倍 25L/10a 7-Δ77-V	日植防(茨城)	0 4	- 21			< 0.01 0.02	< 0.01 0.02	
					(財)日本食品分析センター HR-0227J		(株)化学分析コンサルタント HR-0533J, HR-0534J		
水稲 露地 玄米 平成5年度	乳剤(50%) (1回目)1000倍 24時間種子浸漬 (2回目以降) 1000倍 (千葉)100L/10a (広島)150L/10a	千葉農試(北総)	0	-	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
			5	15	0.16	0.16	0.11	0.11	
		広島植防	0	-	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			5	14	0.10	0.10	0.08	0.08	
稲わら	散布	千葉農試(北総)	5	21	0.04	0.04	0.03	0.03	
			5	21	0.03	0.03	0.03	0.03	
		広島植防	5	30	0.02	0.02	0.01	0.01	
			0	-	< 0.04	< 0.04	0.03	0.02	
		千葉農試(北総)	5	15	1.48	1.44	1.42	1.40	
			5	21	0.45	0.44	0.82	0.80	
		広島植防	0	-	< 0.04	< 0.04	< 0.02	< 0.02	
			5	14	1.10	1.08	0.99	0.98	
5	21	0.32	0.31	0.45	0.44				
5	30	0.32	0.31	0.36	0.35				

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(成分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター HR-0543J		(株)化学分析コンサルタント HR-0544J	
水稻 露地 玄米 平成6年度	マイコナフセブ剤(15%) 400倍 120L/10a 地上散布 有効成分: MEP 15% BPNC 10%	滋賀植防	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01
			4	21	0.035	0.034	0.04	0.04
		鹿児島農試	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01
			4	21	0.013	0.013	0.01	0.01
					—		(株)保土谷コンサルタント HR-0547J	
水稻 露地 玄米 平成6年度	(1回目) 乳剤(50%) 1000倍 24時間種子浸漬 (2回目以降) 粉剤(3%) 4kg/10a 散布	宮城農センター	0	—			< 0.01	< 0.01
			5	14			0.02	0.02
		千葉農試(北総)	0	—			< 0.01	< 0.01
			5	14			0.01	0.01
					—		(株)保土谷コンサルタント HR-0546J	
水稻 露地 玄米 平成6年度	(1回目) 乳剤(50%) 1000倍 24時間種子浸漬 (2回目以降) 粉剤(3%) 4kg/10a 散布	滋賀植防	0	—			< 0.01	< 0.01
			5	14			< 0.01	< 0.01
					—		(株)化学分析コンサルタント HR-0228J	
水稻 露地 玄米 平成6年度	乳剤(50%) (1回目)1000倍 24時間種子浸漬 (2回目以降)800倍 (秋田)100L/10a (広島)150L/10a 散布	秋田農試	0	—			< 0.01	< 0.01
			5	21			0.02	0.02
		広島植防	0	—			< 0.01	< 0.01
			5	20			0.05	0.05
					—		(株)住化分析センター HR-0545J	
水稻 露地 玄米 平成6年度	乳剤(50%) 300倍 25L/10a ブームスプレー	三重植防	0	—			< 0.01	< 0.01
			4	21			0.02	0.02
					—		(株)保土谷コンサルタント HR-0226J	
水稻 露地 玄米 平成7年度	乳剤(50%) (1回目)1000倍 24時間種子浸漬 (2回目以降)800倍 (秋田)100L/10a (山形)150L/10a 散布	秋田農試	0	—			< 0.01	< 0.01
			5	21			0.06	0.06
		山形農試	0	—			< 0.01	< 0.01
			5	21			0.01	0.01

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					—	—	保土谷コンタクト株式会社 HR-0225J	
水稻 露地 玄米 平成7年度	乳剤(50%) (1回目)1000倍 24時間種子浸漬 (2回目以降)800倍 (福島) 100~150L/10a (栃木)150L/10a 散布	福島植防(郡山)	0 5	— 21			< 0.01 0.09	< 0.01 0.09
		栃木農試	0 5	— 21			< 0.01 0.11	< 0.01 0.10
					—	—	保土谷コンタクト株式会社 HR-0224J	
水稻 露地 玄米 平成7年度	乳剤(50%) (1回目)1000倍 24時間種子浸漬 (2回目以降)800倍 100L/10a 散布	福井農試	0 5	— 21			< 0.01 0.07	< 0.01 0.07
		岐阜植防	0 5	— 21			< 0.01 0.01	< 0.01 0.01
					—	—	保土谷コンタクト株式会社 HR-0223J	
水稻 露地 玄米 平成7年度	乳剤(50%) (1回目)1000倍 24時間種子浸漬 (2回目以降)800倍 (三重)100L/10a (和歌山)150L/10a 散布	三重植防	0 5	— 21			< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01
		和歌山植防	0 5	— 21			< 0.01 0.12	< 0.01 0.12
					—	—	(株)エスコ HR-0222J, HR-0569J	
水稻 露地 玄米 平成8年度  稲わら	乳剤(50%) 8倍 (茨城) 0.74~0.85L/10a (岐阜,新潟,福井) 0.8L/10a 無人へり散布	茨城植防	0 4	— 21			< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01
		岐阜植防	0 4	— 21			< 0.01 0.08	< 0.01 0.08
		新潟植防	0 4	— 21			< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01
		福井植防	0 4	— 21			< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01
		茨城植防	0 4	— 21			< 0.01 0.14	< 0.01 0.14
		岐阜植防	0 4	— 21			< 0.01 0.85	< 0.01 0.83
		新潟植防	0 4	— 21			< 0.01 0.14	< 0.01 0.12
		福井植防	0 4	— 21			< 0.01 0.05	< 0.01 0.04





作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター HR-0720J, HR-0721J		(株)化学分析コンサルタント HR-0722J, HR-0723J	
水稲 露地 玄米 平成15年度	(1回目) 乳剤(50%) 1000倍 500ml/箱 灌注処理 (2回目以降) 水和剤(26%) 4倍	北海道植防	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	14	0.22	0.22	0.38	0.38
			4	21	0.05	0.05	0.04	0.04
			4	28	0.04	0.04	0.04	0.04
	秋田農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
		4	14	0.13	0.12	0.13	0.12	
		4	21	0.02	0.02	0.02	0.02	
		4	28	0.03	0.03	0.03	0.02	
稲わら	800ml/10a 無人へ散布 水和剤/有効成分: MEP 26% フサイト 12%	北海道植防	0	—	< 0.04	< 0.04	< 0.04	< 0.04
			4	14	1.53	1.46	1.92	1.90
			4	21	0.22	0.22	0.24	0.22
			4	28	0.24	0.23	0.29	0.28
	秋田農試	0	—	< 0.04	< 0.04	< 0.04	< 0.04	
		4	14	0.54	0.52	0.48	0.47	
		4	21	0.15	0.14	0.19	0.18	
		4	28	0.30	0.30	0.19	0.18	
					(財)残留農業研究所 HR-0291J, HR-0292J		住化テクノサービス(株) HR-0728J, HR-0729J	
水稲 露地 玄米 平成16年度	(1回目) 乳剤(50%) 1000倍 (日植防) 0.5L/育苗箱 (三重)10L/10a 育苗箱灌注処理 (2回目以降) 300倍 25L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			3	14	0.02	0.02	0.02	0.02
			3	21	0.02	0.02	0.03	0.03
			3	28	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	14	0.04	0.04	0.06	0.06
			4	21	0.02	0.02	0.02	0.02
		三重植防	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			3	13	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			3	20	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			3	27	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	13	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	20	0.01	0.01	< 0.01	< 0.01
	稲わら	日植防(茨城)	0	—	< 0.05	< 0.05	< 0.01	< 0.01
			3	14	0.41	0.40	0.28	0.27
			3	21	0.10	0.10	0.08	0.08
			3	28	< 0.05	< 0.05	0.06	0.06
			4	14	0.40	0.39	0.32	0.30
			4	21	0.12	0.12	0.11	0.10
		三重植防	0	—	< 0.05	< 0.05	< 0.01	< 0.01
			3	13	< 0.05	< 0.05	0.01	0.01
			3	20	< 0.05	< 0.05	< 0.01	< 0.01
			3	27	< 0.05	< 0.05	0.01	0.01
			4	13	< 0.05	< 0.05	0.01	0.01
			4	20	0.06	0.06	0.04	0.04
4	27	< 0.05	< 0.05	0.03	0.03			

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)					
					公的分析機関		私的分析機関			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
					(財)残留農薬研究所 HR-0730J, HR-0731J		住化テカサビス㈱ HR-0704J, HR-0705J			
水稻 露地 玄米 平成17年度	乳剤(50%) (1回目) 1000倍 0.5L/箱 育苗箱灌注 (2回目以降) 30倍 4L/10a 無人ヘリ散布	群馬植防	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
			3	14	0.05	0.05	0.06	0.06		
			3	21	0.09	0.09	0.10	0.10		
			3	28	0.08	0.08	0.09	0.08		
			4	14	0.10	0.10	0.12	0.12		
			4	21	0.16	0.16	0.16	0.16		
			4	28	0.09	0.09	0.11	0.11		
		鹿児島農環協	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
			3	14	0.01	0.01	0.02	0.02		
			3	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
			3	28	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
			4	14	0.02	0.02	0.02	0.02		
			4	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
			4	28	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
稲わら		群馬植防	0	—	< 0.05	< 0.05	< 0.01	< 0.01		
			3	14	0.81	0.80	0.74	0.70		
			3	21	0.27	0.26	0.28	0.26		
			3	28	0.26	0.26	0.37	0.34		
			4	14	0.76	0.74	1.08	1.05		
			4	21	0.58	0.58	0.94	0.94		
			4	28	0.91	0.89	0.50	0.48		
		鹿児島農環協	0	—	< 0.05	< 0.05	< 0.01	< 0.01		
			3	14	0.24	0.23	0.25	0.24		
			3	21	0.17	0.16	0.14	0.14		
			3	28	0.08	0.08	0.11	0.11		
			4	14	0.38	0.37	0.32	0.30		
			4	21	0.13	0.12	0.18	0.18		
			4	28	0.08	0.08	0.09	0.09		
					—	住化テカサビス㈱ HR-0757J, HR-0759J, HR-0758J, HR-0760J				
水稻 露地 玄米 平成18年度	乳剤(50%) (1回目) 1000倍 0.5L/箱 育苗箱灌注 (2回目以降) 30倍 4L/10a 無人ヘリ散布	広島植防	3	14			0.09	0.08		
			3	21			0.10	0.10		
			3	28			0.01	0.01		
		石川植防	3	14			0.03	0.03		
			3	21			0.04	0.04		
			3	28			0.02	0.02		
		鹿児島農環協	3	14			0.02	0.02		
			3	21			< 0.01	< 0.01		
			3	28			< 0.01	< 0.01		
		稲わら		広島植防	3	14			2.05	2.01
					3	21			0.84	0.84
					3	28			0.43	0.42
				石川植防	3	14			0.38	0.36
					3	21			0.09	0.09
3	28						0.14	0.14		
鹿児島農環協	3			14			0.50	0.48		
	3			21			0.25	0.22		
	3			28			0.19	0.19		

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					— —		住化分析センター HR-0786J, HR-0787J	
水稲 露地 玄米 平成19年度	乳剤(50%) (1回目) 1000倍 0.5L/箱 育苗箱灌注 (2回目以降) 30倍 4L/10a	石川植防	0	—			< 0.01	< 0.01
			3	14			0.01	0.01
			3	21			0.01	0.01
		鹿児島農環協会	3	28			< 0.01	< 0.01
			0	—			< 0.01	< 0.01
			3	14			0.03	0.03
稲わら	無人へ散布	石川植防	3	21			< 0.01	< 0.01
			3	28			0.14	0.12
			3	28			0.13	0.13
		鹿児島農環協会	3	28			0.06	0.06
			0	—			< 0.01	< 0.01
			3	14			0.27	0.26
					(財) 残留農薬研究所 HR-0369J		住化分析センター HR-0370J, HR-0371J	
小麦 露地 玄麦 昭和54年度	乳剤(50%) 8倍 0.8L/10a 空中散布	栃木農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.002	< 0.002
			1	6	0.04	0.04	0.052	0.048
			1	10	0.06	0.06	0.060	0.059
			1	15	0.10	0.10	0.059	0.057
			1	20	0.04	0.04	0.043	0.043
			1	35	0.05	0.04	0.016	0.016
		埼玉農試	0	—	< 0.01	< 0.01	0.006	0.006
			1	7	0.04	0.04	0.029	0.029
			1	13	0.03	0.03	0.029	0.027
			1	18	0.02	0.02	0.011	0.011
			1	21	< 0.01	< 0.01	0.010	0.010
			1	38	0.02	0.02	0.010	0.010
					(財) 残留農薬研究所 HR-0369J		住化分析センター HR-0370J, HR-0371J	
小麦 露地 玄麦 昭和54年度	乳剤(50%) 1000倍 (栃木) 100L/10a (埼玉) 150L/10a 散布	栃木農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.002	< 0.002
			1	6	0.13	0.12	0.056	0.050
			1	10	0.03	0.03	0.028	0.028
			1	15	< 0.01	< 0.01	0.003	0.003
			1	20	< 0.01	< 0.01	0.003	0.003
			1	35	< 0.01	< 0.01	0.002	0.002
		埼玉農試	0	—	< 0.01	< 0.01	0.006	0.006
			1	7	0.02	0.02	0.016	0.016
			1	13	0.03	0.02	0.014	0.014
			1	18	0.04	0.04	0.006	0.006
			1	38	< 0.01	< 0.01	0.006	0.006
								(財) 日本食品分析センター HR-0373J
小麦 露地 玄麦 昭和54年度	乳剤(50%) 1000倍 180L/10a 散布	栃木農試	0	—	0.006	0.006	0.005	0.005
			3	14	0.016	0.016	0.006	0.006
			3	21	0.058	0.058	0.029	0.028
		香川農試	0	—	< 0.005	< 0.005	0.002	0.002
			3	7	0.209	0.208	0.108	0.107
			3	15	0.071	0.070	0.031	0.030

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		私的分析機関		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
					(財)残留農薬研究所 HR-0375J		(株)化学分析コンサルタント HR-0376J		
小麦 露地 玄麦 昭和62年度	粉剤(3%) 4kg/10a 散布	道立中央農試	0	—	0.005	0.005	< 0.005	< 0.005	
			3	15	0.094	0.090	0.088	0.086	
			3	22	0.037	0.036	0.044	0.043	
		日植防(茨城)		0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
			3	14	0.008	0.007	0.009	0.008	
			3	21	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	
					(財)日本食品分析センター HR-0732J		(株)化学分析コンサルタント HR-0733J		
小麦 露地 玄麦 平成15年度	乳剤(50%) 250倍 25L/10a 散布	北海道植防 (札幌)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
			1	7	0.10	0.10	0.07	0.07	
			1	14	0.02	0.02	0.01	0.01	
			1	21	0.01	0.01	< 0.01	< 0.01	
		北海道植防 (音更)		0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
				1	7	0.42	0.40	0.27	0.27
		1	14	0.10	0.10	0.07	0.06		
			1	21	0.07	0.07	0.05	0.04	
					(財)日本食品分析センター HR-0379J		(株)化学分析コンサルタント HR-0230J		
大麦 露地 脱穀した種子 平成5年度	乳剤(50%) 1000倍 (茨城)150L/10a (徳島) 100~150L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
			3	7	1.22	1.21	1.36	1.34	
			3	14	0.19	0.19	0.17	0.16	
		徳島植防		0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
				3	7	0.85	0.84	0.79	0.78
				3	14	0.08	0.08	0.10	0.10
					(財)日本食品分析センター HR-0381J		保土谷コンサルタント(株) HR-0382J		
大麦 露地 脱穀した種子 平成7年度	粉剤(3%) 4kg/10a 散布	日植防(茨城)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
			3	7	0.16	0.16	0.17	0.16	
			3	14	0.07	0.07	0.07	0.07	
		福井植防		0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
				3	7	0.33	0.32	0.39	0.38
				3	14	0.05	0.04	0.05	0.05
					—		(株)化学分析コンサルタント HR-0383J		
大麦 露地 脱穀した種子 平成8年度	乳剤(50%) 8倍 0.8L/10a 無人へ散布	石川農総研	0	—			< 0.01	< 0.01	
			1	7			0.05	0.05	
		福岡植防		0	—			< 0.01	< 0.01
				1	7			0.43	0.42
					(財)日本食品分析センター HR-0837J, HR-0854J		(株)住化テクノサービス HR-0833J		
大麦 露地 脱穀した種子 平成20, 21年度	乳剤(50%) 8倍 0.8L/10a 無人へ散布	石川植防 (平成20年度)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
			1	7	1.09	1.05	0.75	0.73	
			1	14	0.14	0.14	0.18	0.18	
				1	21	0.01	0.01	0.01	0.01
		石川植防 (平成21年度)		0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
				1	7	0.36	0.36	0.35	0.35
				1	14	0.01	0.01	0.02	0.02
				1	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター HR-0672J		(株)化学分析コンサルタント HR-0673J	
未成熟とうもろこし 露地 種子 昭和57年度	乳剤(50%) 1000倍 (茨城)200L/10a (山梨) 250~300L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
			4	7	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
		山梨農試	4	14	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
			0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
とうもろこし(子実) 露地 乾燥子実 昭和57年度	乳剤(50%) 1000倍 (茨城)200L/10a (山梨)300L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
			4	7	0.005	0.005	< 0.005	< 0.005
		山梨農試	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
			4	7	0.045	0.044	< 0.005	< 0.005
					—		(株)化学分析コンサルタント HR-0696J	
とうもろこし(青刈) 露地 青刈 平成3年度	乳剤(50%) 1000倍 (茨城) 110~250L/10a (長野)250L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—			< 0.01	< 0.01
			4	7			0.43	0.42
		長野中信農試	4	14			0.15	0.15
			0	—			< 0.01	< 0.01
だいず 露地 乾燥子実 昭和46年度	乳剤(50%) 700倍 100L/10a 散布	日植防(東京)	0	—			< 0.001	< 0.001
			2	56			0.002	0.002
		道立十勝農試	3	43			0.002	0.002
			0	—			< 0.001	< 0.001
だいず 露地 乾燥子実 昭和55年度	乳剤(50%) 20倍 3L/10a 航空散布 乳剤(50%) 1000倍 180L/10a 地上散布	茨城農試 (水戸市)	0	—	< 0.005	< 0.005		
			3	45	< 0.005	< 0.005		
		茨城農試 (常陸太田市)	0	—	< 0.005	< 0.005		
			3	45	< 0.005	< 0.005		
だいず 露地 乾燥子実 昭和56年度	粉剤(3%) 4kg/10a 散布	茨城農試 (水戸市)	0	—	< 0.005	< 0.005		
			3	45	< 0.005	< 0.005		
		茨城農試 (常陸太田市)	0	—	< 0.005	< 0.005		
			3	45	< 0.005	< 0.005		
					(財)日本食品分析センター HR-0595J		(株)住化分析センター HR-0596J	
だいず 露地 乾燥子実 昭和56年度	粉剤(3%) 4kg/10a 散布	長野農総試	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.004	< 0.004
			4	11	< 0.005	< 0.005	< 0.004	< 0.004
		鳥取農試	4	18	< 0.005	< 0.005	< 0.004	< 0.004
			0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.004	< 0.004
だいず 露地 乾燥子実 昭和56年度	粉剤(3%) 4kg/10a 散布	鳥取農試	4	13	< 0.005	< 0.005	< 0.004	< 0.004
			4	20	< 0.005	< 0.005	< 0.004	< 0.004

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(成分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)残留農業研究所 HR-0599J		(株)化学分析コンサルタント HR-0600J	
だいず 露地 乾燥子実 平成2年度	乳剤(50%) 1000倍 250L/10a 散布	山形農試(最北)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
		石川植防	4	31	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
			4	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
					—	—	(株)化学分析コンサルタント HR-0602J	
だいず 露地 乾燥子実 平成9年度	乳剤(50%) 8倍 0.8L/10a 無人へ散布	宮城植防	0	—			< 0.01	< 0.01
			4	21			< 0.01	< 0.01
		埼玉農試	0	—			< 0.01	< 0.01
			4	21			< 0.01	< 0.01
					(財)残留農業研究所 HR-0257J		(株)住化分析センター HR-0258J	
あずき 露地 乾燥子実 昭和59年度	乳剤(50%) 1000倍 250L/10a 散布	道立中央農試	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.002	< 0.002
			4	14	0.051	0.048	0.029	0.029
			4	21	0.069	0.068	0.046	0.044
		道立十勝農試	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.002	< 0.002
			4	14	0.077	0.075	0.041	0.040
			4	21	0.061	0.061	0.039	0.038
					(財)日本食品分析センター HR-0736J		(株)化学分析コンサルタント HR-0737J	
あずき 露地 乾燥子実 平成15年度	乳剤(50%) 250倍 25L/10a 散布	北海道植防(札幌)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	14	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	28	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
		北海道植防(音更)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	14	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	28	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
					—	—	(株)住化分析センター HR-0738J	
あずき 露地 乾燥子実 平成16年度	乳剤(50%) 1000倍 (北海道)200L/10a (青森)160L/10a 散布	北海道植防	0	—			< 0.01	< 0.01
			5	14			0.03	0.03
			5	21			0.03	0.03
			5	28			0.01	0.01
		青森植防	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			5	14	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			5	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			5	28	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
					(財)残留農業研究所 HR-0259J		(株)化学分析コンサルタント HR-0260J	
いんげんまめ 露地 乾燥子実 平成2年度	乳剤(50%) 1000倍 250L/10a 散布	石川河北潟営農 センター	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	21	0.01	0.01	0.01	0.01
			4	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
		沖縄病害虫防除 所	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	21	0.02	0.02	0.02	0.02
			4	30	0.02	0.02	0.02	0.02

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター HR-0274J		(株)化学分析コンサルタント HR-0275J	
えんどうまめ 施設 乾燥子実 平成3年度	乳剤(50%) 1000倍 (千葉)200L/10a (長野)250L/10a 散布	千葉暖地園試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
		長野植防(南信)	4	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	21	0.03	0.03	0.06	0.06
			4	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
					—		(株)化学分析コンサルタント HR-0785J	
そらまめ 露地 乾燥子実 平成19年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a 散布	宮城植防	0	—			< 0.01	< 0.01
			3	3			0.03	0.03
			3	7			0.03	0.03
			3	14			0.02	0.02
		鹿児島農環協	0	—			< 0.01	< 0.01
			3	3			0.01	0.01
			3	7			< 0.01	< 0.01
			3	14			< 0.01	< 0.01
					(財)残留農薬研究所 HR-0583J		(株)化学分析コンサルタント HR-0584J	
らっかせい 露地 乾燥子実 平成2年度	乳剤(50%) 1000倍 (神奈川) 200~250L/10a (静岡)250L/10a 散布	神奈川農総研	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	20	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	29	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
		静岡農試 (海岸砂地)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
4	21		< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
		4	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
					(財)日本分析化学研究所 HR-0575J		八洲化学工業㈱ HR-0576J	
ばれいしょ 露地 塊茎 昭和48年度	乳剤(50%) 1000倍 (東京)150L/10a (北海道)100L/10a 散布	日植防(東京)	0	—	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
			3	3	< 0.002	< 0.002	0.002	0.002
			3	7	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
			3	14	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
			6	3	< 0.002	< 0.002	0.004	0.004
			6	7	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
		北海道農試	0	—	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
			3	3	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
			3	7	< 0.002	< 0.002	0.002	0.002
			3	14	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
			6	3	< 0.002	< 0.002	0.002	0.002
			6	7	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
		6	14	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	
					(財)日本食品分析センター HR-0734J		(株)化学分析コンサルタント HR-0735J	
ばれいしょ 露地 塊茎 平成15年度	乳剤(50%) 250倍 25L/10a 散布	北海道植防	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			6	3	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			6	7	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			6	14	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
		日本植防(高知)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			6	3	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			6	7	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			6	14	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005



作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		私的分析機関		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
					(財)日本食品分析センター HR-0304J		(株)化学分析コンサルタント HR-0305J		
かんしょ 露地 塊根 昭和61年度	乳剤(30%) 1000倍 200L/10a 散布 有効成分: 7-EP 10% MEP 30%	日植防(茨城)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005	
			5	7	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005	
			5	14	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005	
		鳥取園試(西伯)		0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005
			5	7	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005	
			5	14	< 0.01	< 0.01	< 0.005	< 0.005	
					日本医療食 HR-0306J		(株)住化分析センター HR-0307J		
かんしょ 露地 塊根 平成3年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	
			5	7	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	
			5	14	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	
		日植防(高知)		0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
				5	7	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
				5	14	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
			5	21	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	
					群馬農総試 HR-0654J		—		
こんにゃく 露地 球茎 昭和58年度	乳剤(50%) 1000倍 (吾妻郡) 150~200L/10a (富岡市) 220L/10a 散布	群馬農総試 (吾妻郡)	0	—	< 0.02	< 0.02			
			2	34	< 0.02	< 0.02			
		群馬農総試 (富岡市)		0	—	< 0.02	< 0.02		
				2	65	< 0.02	< 0.02		
					(財)日本食品分析センター HR-0656J		(株)住化分析センター HR-0657J		
こんにゃく 露地 球茎 平成3年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a 散布	福島植防	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	
			3	8	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	
			3	15	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	
		群馬農総試		0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
		こんにゃく分場		3	14	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
				3	21	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
					(財)日本分析化学研究所 HR-0633J		サカイ化学㈱ HR-0634J		
さとうきび 露地 茎 昭和47年度 *サカイ化学提出データ	微粒剤(3%) 4kg/10a 散布	鹿児島農試(大島)	0	—	< 0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	
			2	101	0.001	0.001	0.001	0.001	
		鹿児島農試 (徳之島)		0	—	0.001	0.001	0.001	0.001
				2	151	0.011	0.011	0.011	0.011
					—		サカイ化学㈱ HR-0636J		
さとうきび 露地 茎および葉 昭和49年度 *サカイ化学提出データ	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a 散布	沖縄農試	0	—			< 0.002	< 0.002	
			2	7			0.025	0.022	
			2	15			0.003	0.002	
			4	36			0.041	0.036	
		沖縄農試(名護)		0	—	< 0.002	< 0.002		
				2	7			0.017	0.013
				2	14			0.006	0.005
				4	98			0.057	0.052

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					-		炭化学分析コンサント	
さとうきび 露地 可食部 昭和54年度 *分析化学提出データ	マイクロセル(10%) 8倍 800ml/10a *アトリン20と混用	鹿児島農(大島)	0	-			< 0.005	< 0.005
			9	36			< 0.005	< 0.005
			9	63			< 0.005	< 0.005
					(財)残留農業研究所 HR-0638J		炭住化分析センター HR-0639J	
さとうきび 露地 茎 昭和59年度	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a 散布	鹿児島農試(大島)	0	-	< 0.005	< 0.005	< 0.002	< 0.002
			4	14	0.029	0.028	0.005	0.004
		沖縄農試	0	-	< 0.005	< 0.005	< 0.002	< 0.002
			4	14	0.012	0.012	0.012	0.012
					-		炭化学分析コンサント HR-0640J	
さとうきび 露地 茎部および葉 平成5年度	乳剤(50%) 12.5倍 3L/10a 空中散布	鹿児島農試(大島) (徳之島町神嶺)	0	-			< 0.005	< 0.005
			1	1			17.1	16.6
			1	30			0.008	0.008
		鹿児島農試(大島) (天城町浅間)	0	-			< 0.005	< 0.005
			1	1			2.17	2.17
			1	30			< 0.005	< 0.005
	乳剤(50%) 25倍 6L/10a 空中散布	鹿児島農試(大島) (徳之島町神嶺)	0	-			< 0.005	< 0.005
			1	1			9.87	9.80
			1	30			0.010	0.009
		鹿児島農試(大島) (天城町浅間)	0	-			< 0.005	< 0.005
			1	1			5.59	5.44
			1	30			< 0.005	< 0.005
					-		炭化学分析コンサント HR-0640J	
さとうきび 露地 茎部及び葉 平成5年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 地上散布	鹿児島農試(大島) (伊仙町面縄A区)	0	-			< 0.005	< 0.005
			1	1			4.34	4.24
			1	31			< 0.005	< 0.005
		鹿児島農試(大島) (伊仙町面縄B区)	0	-			< 0.005	< 0.005
			1	1			4.06	4.04
			1	31			< 0.005	< 0.005
					(財)日本食品分析センター HR-0641J		炭化学分析コンサント HR-0642J	
さとうきび 露地 茎部 平成6年度	マイクロセル剤(20%) 400倍 200L/10a 散布	鹿児島農試(大島)	0	-	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
			4	90	0.005	0.005	< 0.005	< 0.005
			4	120	0.006	0.006	< 0.005	< 0.005
		沖縄農試	0	-	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
			4	88	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
			4	119	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター HR-0830J		住友化学分析センター HR-0832J	
さとうきび 露地 茎部 平成20年度	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a 散布	鹿児島農総センター (大島)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	28	< 0.01	< 0.01	0.01	0.01
			4	42	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	56	< 0.01	< 0.01	0.01	0.01
		沖縄農研センター	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	28	0.01	0.01	0.02	0.02
			4	42	< 0.01	< 0.01	0.01	0.01
			4	56	< 0.01	< 0.01	0.02	0.02
					(財)残留農業研究所 HR-0367J		住友化学分析センター HR-0368J	
ごぼう 露地 根部 昭和59年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.002	< 0.002
			2	7	< 0.005	< 0.005	0.011	0.011
			2	14	0.007	0.006	0.003	0.002
		長野農総試	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.002	< 0.002
			2	7	0.026	0.024	0.026	0.026
			2	14	0.007	0.007	0.003	0.003
					日本医療食 HR-0670J		住友化学分析センター HR-0671J	
たまねぎ 露地 鱗茎 平成2年度	乳剤(50%) 700倍 (茨城) 120~150L/10a (宮崎)150L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
		日植防(宮崎)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
					—		住友化学工業(株) HR-0682J	
根深ねぎ 露地 茎葉 昭和46年度	乳剤(50%) 700倍 (千葉)80L/10a (鳥取)400L/10a 散布	千葉農試	0	—			0.001	0.001
			2	1			0.012	0.011
			2	3			0.005	0.004
			2	7			0.001	0.001
			2	14			< 0.001	< 0.001
			4	1			0.006	0.006
			4	3			0.003	0.003
			4	7			0.001	0.001
		4	14			< 0.001	< 0.001	
		鳥取農試(西伯)	0	—			0.001	0.001
			2	1			0.196	0.194
			2	3			0.188	0.188
			2	7			0.183	0.176
			2	14			0.023	0.023
			4	1			0.126	0.107
			4	3			0.089	0.088
4	7				0.085	0.085		
4	14			0.028	0.026			
					(財)日本食品分析センター HR-0683J		住友化学分析センター HR-0684J	
根深ねぎ 露地 茎葉 平成2年度	乳剤(50%) 700倍 150L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	14	< 0.01	< 0.01	0.01	0.01
			2	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
		埼玉植防	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	14	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)残留農業研究所 HR-0800J		(株)化学分析コンサルタント HR-0788J	
葉ねぎ 施設 茎葉 平成19年度	乳剤(50%) 700倍 200L/10a 散布	三重植防	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	14	0.14	0.14	0.15	0.15
			2	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
					(財)日本食品分析センター HR-0742J		—	
らっきょう 露地 鱗茎 平成17年度	乳剤(50%) 1000倍 (都城)200L/10a (田野)100L/10a 散布	宮崎総農試(都城)	0	—	< 0.02	< 0.02		
			2	14	< 0.02	< 0.02		
			2	21	< 0.02	< 0.02		
			2	30	< 0.02	< 0.02		
		宮崎総農試(田野)	0	—	< 0.02	< 0.02		
			2	14	< 0.02	< 0.02		
			2	21	< 0.02	< 0.02		
			2	30	< 0.02	< 0.02		
					—		(株)化学分析センター HR-0845J	
せり 露地 茎葉(可食部) 平成24年度	乳剤(50%) 2000倍 200 L/10 a 散布(親株養成期)	宮城県亘理農業 改良普及センター	0	—			< 0.01	< 0.01
			2	45			< 0.01	< 0.01
			2	52			< 0.01	< 0.01
			2	59			< 0.01	< 0.01
		宮城県石巻農業 改良普及センター	0	—			< 0.01	< 0.01
			2	45			< 0.01	< 0.01
			2	52			< 0.01	< 0.01
			2	59			< 0.01	< 0.01
					(財)残留農業研究所 HR-0676J		(株)化学分析コンサルタント HR-0677J	
トマト 施設 果実 平成2年度	乳剤(50%) 1000倍 250L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—	0.01	0.01	0.01	0.01
			3	1	0.56	0.54	0.40	0.40
			3	3	0.11	0.11	0.15	0.15
		長野中信農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			3	1	0.82	0.80	1.34	1.34
			3	3	0.32	0.31	0.61	0.61
	乳剤(50%) 2000倍 250L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—	0.01	0.01	0.01	0.01
			3	1	0.13	0.12	0.19	0.19
			3	3	0.09	0.08	0.06	0.06
		長野中信農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			3	1	0.56	0.54	0.53	0.52
			3	3	0.13	0.12	0.15	0.14
					(財)残留農業研究所 HR-0680J		(株)住化分析センター HR-0681J	
トマト 施設 果実 平成4年度	乳剤(50%) 2000倍 (茨城)250L/10a (高知)300L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	1	0.27	0.27	0.25	0.24
			2	3	0.14	0.14	0.17	0.16
			2	7	0.06	0.06	0.07	0.07
		日植防(高知)	2	14	0.03	0.03	0.03	0.02
			0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	1	0.20	0.20	0.22	0.22
			2	3	0.06	0.06	0.07	0.07
			2	7	0.04	0.03	< 0.01	< 0.01
			2	14	0.01	0.01	< 0.01	< 0.01

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		私的分析機関		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
					(財)日本分析化学研究所 HR-0697J		-		
なす 露地 果実 昭和47年度	乳剤(50%) 1000倍 (徳島)200L/10a (京都) 150~300L/10a 散布	徳島農試	0	-	< 0.001	< 0.001			
			3	3	0.002	0.002			
			3	7	0.002	0.002			
			3	14	0.002	0.002			
			6	3	0.010	0.010			
			6	7	0.006	0.006			
				6	14	0.002	0.002		
		京都農試	0	-	< 0.001	< 0.001			
			3	3	0.002	0.002			
			3	7	< 0.001	< 0.001			
			3	14	< 0.001	< 0.001			
			6	3	0.002	0.002			
			6	7	< 0.001	< 0.001			
			6	14	< 0.001	< 0.001			
					(財)残留農業研究所 HR-0122J		(株)住化分析センター HR-0702J		
なす 施設 果実 昭和60年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a 散布	長野農事試 (原村)	0	-	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002	
			5	1	0.132	0.128	0.157	0.157	
			5	3	0.042	0.040	0.062	0.062	
		滋賀短大	0	-	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002	
			5	1	0.015	0.014	0.098	0.098	
			5	3	0.004	0.004	0.007	0.007	
					-		(株)住化分析センター HR-0698J		
なす 施設 果実 平成元年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a 散布	長野野菜花き試	0	-			< 0.01	< 0.01	
			5	1			0.05	0.05	
			5	3			0.02	0.02	
		大阪農技センター	0	-			< 0.01	< 0.01	
			5	1			0.02	0.02	
			5	3			0.01	0.01	
					(財)残留農業研究所 HR-0313J		(株)住化分析センター HR-0314J		
きゅうり 施設 果実 昭和60年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a 散布	千葉農試	0	-	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	
			5	1	0.032	0.030	0.023	0.022	
			5	3	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	
		滋賀短大	0	-	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	
			5	1	0.058	0.058	0.059	0.059	
			5	3	0.010	0.010	0.005	0.005	
					(財)残留農業研究所 HR-0315J		(株)化学分析コンサルタント HR-0316J		
きゅうり 施設 果実 平成2年度	乳剤(50%) 700倍 250L/10a 散布	鯉淵学園	0	-	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
			3	1	0.02	0.02	0.03	0.03	
			3	3	< 0.01	< 0.01	0.02	0.02	
			5	1	0.02	0.02	0.03	0.02	
			5	3	< 0.01	< 0.01	0.02	0.02	
		日植防(高知)	0	-	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
			3	1	0.04	0.04	0.04	0.04	
			3	3	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
			5	1	0.02	0.02	0.02	0.02	
			5	3	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)					
					公的分析機関		私的分析機関			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
					日本医療食協会 HR-0300J		株式会社分析センター HR-0301J			
かぼちゃ 施設 果実 平成2年度	乳剤(50%) 700倍 200L/10a 散布	石川河北潟営農 センター	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
			5	1	0.33	0.32	0.30	0.30		
			5	3	0.19	0.18	0.23	0.22		
				日植防(宮崎)	0	—	0.02	0.02	0.03	0.03
					5	1	1.82	1.76	2.43	2.36
					5	3	1.00	1.00	1.76	1.73
					日本医療食協会 HR-0302J		株式会社分析センター HR-0303J			
かぼちゃ 施設 果実 平成3年度	乳剤(50%) 700倍 200L/10a 散布	茨城農試	0	—	0.005	0.005	0.008	0.006		
			3	3	0.093	0.092	0.167	0.158		
			3	7	0.043	0.042	0.071	0.070		
			3	14	0.033	0.031	0.032	0.032		
				石川河北潟営農 センター	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
					3	3	0.190	0.182	0.219	0.214
			3	7	0.056	0.053	0.072	0.072		
			3	14	0.009	0.009	0.011	0.010		
					(株)住化分析センター HR-0647J					
しろり 露地 果実 平成3年度	乳剤(50%) 1000倍 35~200L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—			< 0.01	< 0.01		
			5	3			< 0.01	< 0.01		
			5	7			< 0.01	< 0.01		
			5	14			< 0.01	< 0.01		
									< 0.01	< 0.01
					(株)住化分析センター HR-0648J		(株)住化分析センター HR-0650J			
しろり 露地 果実 平成4年度	乳剤(50%) 1000倍 (茨城) 85~200L/10a (千葉) 200L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
			5	1	0.02	0.02	0.02	0.02		
			5	3	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
			5	7	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
				千葉農試 (砂地野菜研)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
					5	1	0.01	0.01	0.01	0.01
			5	3	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
			5	7	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
					(財)日本食品分析センター HR-0651J		(株)住化分析センター HR-0652J			
すいか 露地 果肉 昭和51年度	乳剤(50%) 700倍 (茨城) 200L/10a (和歌山) 100~350L/10a 散布	茨城園試	0	—	< 0.002	< 0.002	< 0.001	< 0.001		
			6	3	< 0.002	< 0.002	< 0.001	< 0.001		
				和歌山農試	0	—	< 0.002	< 0.002	< 0.001	< 0.001
					6	3	< 0.002	< 0.002	< 0.001	< 0.001
					(財)残留農業研究所 HR-0585J		(株)住化分析センター HR-0586J			
メロン 施設 果肉 昭和59年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.002	< 0.002		
			5	1	< 0.005	< 0.005	< 0.002	< 0.002		
			5	3	< 0.005	< 0.005	< 0.002	< 0.002		
				石川砂丘地農試	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.002	< 0.002
					5	1	< 0.005	< 0.005	< 0.002	< 0.002
					5	3	< 0.005	< 0.005	< 0.002	< 0.002

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)						
					公的分析機関		私的分析機関				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
					(財)日本食品分析センター HR-0570J		(株)化学分析コンサルタント HR-0571J				
ほうれんそう 施設 茎葉 平成元年度	乳剤(50%) 1000倍 (茨城)150L/10a (奈良)200L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01			
			2	21	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01			
			2	30	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01			
		奈良農試	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01			
			2	21	0.006	0.006	0.02	0.02			
			2	30	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01			
	乳剤(50%) 2000倍 (茨城)150L/10a (奈良)200L/10a 散布	日植防(茨城)	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01			
			2	21	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01			
			2	30	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01			
		奈良農試	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01			
			2	21	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01			
			2	30	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01			
					(財)日本食品分析センター HR-0658J		八洲化学工業(株) HR-0659J				
さやえんどう さや 昭和49年度	乳剤(50%) 1000倍 (静岡)150L/10a (鹿児島)200L/10a 散布	静岡有用植物園	0	—	0.004	0.004	0.004	0.004			
			3	1	2.8	2.7	3.10	3.00			
			3	3	1.1	1.0	1.39	1.30			
			3	7	0.42	0.38	0.350	0.318			
			6	1	2.6	2.6	2.45	2.36			
			6	3	2.0	2.0	2.01	1.94			
			6	7	0.80	0.75	0.608	0.588			
			鹿児島農試	0	—	0.018	0.017	0.010	0.009		
				3	1	6.0	5.8	4.51	4.44		
		3		3	1.4	1.4	2.13	1.97			
		3		7	0.096	0.088	0.118	0.117			
		6		1	4.0	3.9	6.16	5.98			
		6		3	1.0	1.0	0.961	0.954			
		6		7	0.12	0.11	0.106	0.106			
							(財)日本食品分析センター HR-0660J		(株)化学分析コンサルタント HR-0661J		
		さやえんどう 施設 さや 平成3年度		乳剤(50%) 1000倍 (千葉)200L/10a (長野)250L/10a 散布	千葉暖地園試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4			21	< 0.01	< 0.01	0.07	0.07	
			4			28	< 0.01	< 0.01	0.02	0.02	
長野植防(南信)	0		—		< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01			
	4		21		< 0.01	< 0.01	0.02	0.02			
	4		30		< 0.01	< 0.01	0.01	0.01			
						(財)残留農業研究所 HR-0662J		(株)化学分析コンサルタント HR-0663J			
	さやいんげん 露地 さや 平成2年度		乳剤(50%) 1000倍 250L/10a 散布		石川河北潟営農 センター	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
4		21		0.01		0.01	< 0.01	< 0.01			
4		30		< 0.01		< 0.01	< 0.01	< 0.01			
沖縄病害虫防除 所		0		—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01			
		4		21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01			
		4		29	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01			

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					-		住友化学工業㈱ HR-0269J	
えだまめ 露地 さや 昭和46年度	乳剤(50%) 700倍 100L/10a 散布	日植防(東京)	0	-			< 0.001	< 0.001
			2	3			0.029	0.028
			2	13			0.002	0.002
			3	3			0.018	0.018
		道立十勝農試	0	-			< 0.001	< 0.001
			2	7			0.020	0.019
			2	14			0.010	0.010
			3	7			0.050	0.049
			3	14			0.006	0.006
					(財)残留農業研究所 HR-0272J		㈱化学分析コンサート HR-0273J	
えだまめ 露地 さや 平成2年度	乳剤(50%) 1000倍 250L/10a 散布	山形農試(最北)	0	-	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	21	0.12	0.12	0.07	0.07
			4	30	0.10	0.09	0.10	0.10
		石川植防	0	-	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	21	0.19	0.18	0.15	0.15
			4	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
					(財)残留農業研究所 HR-0644J		㈱化学分析コンサート HR-0645J	
しいたけ 露地・施設 子実体 昭和57年度	乳剤(50%) 200倍 (大分) 0.53L/m <sup>2</sup> ほだ木 (福岡) 0.63L/m <sup>2</sup> ほだ木 散布	大分林試 (露地)	0	-	< 0.004	< 0.004	< 0.005	< 0.005
			2	605	0.004	0.004	< 0.005	< 0.005
		福岡林試 (施設)	0	-	< 0.004	< 0.004	< 0.005	< 0.005
			2	592	< 0.004	< 0.004	< 0.005	< 0.005
					愛媛農試 HR-0668J		㈱住化分析センター HR-0669J	
未成熟そらまめ 露地 子実 平成7年度	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a 散布	香川病害虫防除所	0	-	< 0.001	< 0.001	< 0.01	< 0.01
			3	3	0.031	0.030	0.04	0.04
			3	7	0.016	0.016	0.02	0.02
			3	13	0.005	0.004	< 0.01	< 0.01
		愛媛病害虫防除所	0	-	< 0.001	< 0.001	< 0.01	< 0.01
			3	3	0.007	0.006	0.01	0.01
			3	7	0.009	0.009	0.01	0.01
			3	14	0.002	0.002	< 0.01	< 0.01
					栃木農試環境保全部 HR-0261J		群馬農試環境部 HR-0262J	
うど 露地・施設 茎 平成6年度	乳剤(50%) 1000倍 (栃木)200L/10a (群馬) 375~425L/10a 茎葉散布 株養成期：露地 収穫期：施設	栃木県大田原市 荒井	0	-	< 0.002	< 0.002	< 0.02	< 0.02
			4	226	< 0.002	< 0.002	< 0.02	< 0.02
		群馬農試	0	-	< 0.002	< 0.002	< 0.02	< 0.02
			4	139	< 0.002	< 0.002	< 0.02	< 0.02



作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(成分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)						
					公的分析機関		私的分析機関				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
					奈良農試		㈱化学分析コンサルタント HR-0263J				
たらのき 露地 可食部 平成6年度	乳剤(50%) 100倍 180L/10a 茎葉散布	奈良農試宝生村 青葉	0 2	— 277	< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01			
		奈良農試宝生村 上笠間	0 2	— 277	< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01			
					神奈川農総研 HR-0572J		保土谷コンサルタント(株) HR-0574J				
モロヘイヤ 露地 茎葉 平成7年度	乳剤(50%) 1000倍 400L/10a 茎葉散布	神奈川農総研	0 2	— 7	< 0.03 0.16	< 0.03 0.15	< 0.01 0.09	< 0.01 0.09			
			2 2	14 21	< 0.03 < 0.03	< 0.03 < 0.03	< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01			
								三重農技センター HR-0573J		保土谷コンサルタント(株) HR-0574J	
			0 2 2 2	— 7 14 21	< 0.02 0.02 < 0.02 < 0.02	< 0.02 0.02 < 0.02 < 0.02	< 0.01 < 0.01 < 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01 < 0.01 < 0.01			
					栃木県農業試験場 HR-0706J		— —				
わらび 露地・施設 茎葉 平成16年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a 株養成期：露地 収穫期：施設 茎葉散布	栃木農試 (湯津上村)	0 2	— 83	< 0.005 < 0.005	< 0.005 < 0.005					
								栃木県農業試験場 HR-0707J		— —	
わらび 露地・施設 茎葉 平成17年度	乳剤(50%) 1000倍 200L/10a 株養成期：露地 収穫期：施設 茎葉散布	栃木農試 (大田原)	0 2	— 89	< 0.005 < 0.005	< 0.005 < 0.005					

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本分析化学研究所 HR-0323J		— —	
みかん 露地 果肉 昭和47年度 *サンケイ化学のデータ	乳剤(50%) 100倍 (鹿児島)450L/10a 散布	鹿児島果試	0	—	< 0.001	< 0.001		
			1	10	< 0.001	< 0.001		
			1	30	< 0.001	< 0.001		
		佐賀果試	0	—	< 0.001	< 0.001		
			1	10	< 0.001	< 0.001		
			1	30	< 0.001	< 0.001		
	乳剤(50%) 100倍 樹幹散布	宮崎農試	0	—	< 0.001	< 0.001		
			1	159	< 0.001	< 0.001		
	乳剤(50%) 200倍 (鹿児島)50ml/1樹 樹幹散布	鹿児島果試	0	—	< 0.001	< 0.001		
			1	106	< 0.001	< 0.001		
		宮崎農試	0	—	< 0.001	< 0.001		
			1	159	< 0.001	< 0.001		
果皮	乳剤(50%) 100倍 (鹿児島)450L/10a 散布	鹿児島果試	0	—	0.009	0.008		
			1	10	0.005	0.005		
			1	30	0.009	0.009		
		佐賀果試	0	—	0.004	0.004		
			1	10	0.103	0.100		
			1	30	0.008	0.008		
	乳剤(50%) 100倍 樹幹散布	宮崎農試	0	—	0.006	0.005		
			1	159	0.004	0.004		
	乳剤(50%) 200倍 (鹿児島)50ml/1樹 樹幹散布	鹿児島果試	0	—	< 0.003	< 0.003		
			1	106	0.003	0.003		
		宮崎農試	0	—	0.006	0.005		
			1	159	0.007	0.007		
					(財)残留農業研究所 HR-0323J, HR-0325J		山本農業㈱ HR-0317J, HR-0318J	
みかん 果肉 昭和47年度	乳剤(1%) 原液塗布 地上30cmまで十分量	三重農技研	0	—	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004
			1	165	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004
		高知農技研	0	—	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004
			1	107	< 0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004
果皮		三重農技研	0	—	< 0.002	< 0.002	< 0.004	< 0.004
			1	165	< 0.002	< 0.002	< 0.004	< 0.004
		高知農技研	0	—	< 0.002	< 0.002	< 0.004	< 0.004
			1	107	< 0.002	< 0.002	< 0.004	< 0.004

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		私的分析機関		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
					(財)残留農業研究所 HR-0326J		(株)化学分析コンサルタント HR-0327J		
みかん 露地 果肉 昭和49年度	乳剤(50%) 30倍 8L/10a 空中散布	熊本果試	0	—	< 0.001	< 0.001	< 0.003	< 0.003	
			1	202	< 0.001	< 0.001	< 0.003	< 0.003	
	乳剤(50%) 1000倍 500L/10a 地上散布		0	—	< 0.001	< 0.001	< 0.003	< 0.003	
			1	202	< 0.001	< 0.001	< 0.003	< 0.003	
果皮	乳剤(50%) 30倍 8L/10a 空中散布	0	—	< 0.002	< 0.002	0.003	0.003		
		1	202	< 0.002	< 0.002	0.004	0.004		
果皮	乳剤(50%) 1000倍 500L/10a 地上散布	0	—	< 0.002	< 0.002	0.003	0.003		
		1	202	< 0.002	< 0.002	0.004	0.004		
					—		住友化学工業(株) HR-0756J		
みかん 露地 果肉 昭和57年度	乳剤(50%) 333倍 600L/10a	愛媛果試	0	—			< 0.005	< 0.005	
			1	0			0.009	0.009	
			1	7			< 0.005	< 0.005	
			1	14			< 0.005	< 0.005	
			1	21			< 0.005	< 0.005	
			1	28			< 0.005	< 0.005	
			果皮	0	—			0.03	0.03
1	0				7.13	7.13			
1	7				4.16	4.09			
1	14				3.73	3.56			
1	21				2.53	2.50			
1	28				2.46	2.44			
					—		(株)化学分析コンサルタント HR-0329J, HR-0332J		
みかん 露地 果肉 昭和63年度	乳剤(50%) 1000倍 600L/10a 散布	大分柑橘試	0	—			< 0.01	< 0.01	
			3	14			< 0.01	< 0.01	
			3	21			< 0.01	< 0.01	
			3	30			< 0.01	< 0.01	
			3	45			< 0.01	< 0.01	
			5	14			< 0.01	< 0.01	
			5	21			< 0.01	< 0.01	
			5	30			< 0.01	< 0.01	
			5	45			< 0.01	< 0.01	
			果皮	0	—			< 0.01	< 0.01
				3	14			8.82	8.71
				3	21			8.45	8.42
				3	30			7.49	7.42
3	45				5.97	5.94			
5	14				19.2	18.8			
5	21			17.5	17.3				
5	30			16.1	16.0				
5	45			12.7	12.6				

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)					
					公的分析機関		私的分析機関			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
					(財)日本食品分析センター HR-0335J		(株)化学分析センター HR-0336J, HR-0337J			
みかん 露地 果肉 平成元年度	乳剤(50%) 1000倍 400L/10a 散布	静岡柑橘試	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01		
			3	14	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01		
			3	21	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01		
			3	30	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01		
			3	44	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01		
			5	14	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01		
			5	21	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01		
			5	30	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01		
			5	44	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01		
				和歌山果園試	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01
		3	14		< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01		
		3	21		< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01		
		3	30		< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01		
		3	45		< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01		
		5	14		< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01		
		5	21		< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01		
		5	30		< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01		
		5	45		< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01		
果皮		静岡柑橘試	0	—	0.02	0.02	0.03	0.03		
			3	14	7.42	7.24	5.56	5.46		
			3	21	4.94	4.78	6.32	6.03		
			3	30	7.09	7.08	6.12	5.92		
			3	44	5.78	5.68	5.05	4.79		
			5	14	6.56	6.48	7.56	7.24		
			5	21	8.03	7.95	9.42	9.30		
			5	30	8.46	8.17	7.78	7.58		
			5	44	6.30	6.30	6.70	6.61		
				和歌山果園試	0	—	< 0.01	< 0.01	0.01	0.01
		3	14		4.99	4.76	5.02	4.98		
		3	21		4.03	3.92	4.54	4.40		
		3	30		5.14	4.90	4.76	4.71		
		3	45		4.35	4.21	4.82	4.68		
		5	14		7.24	7.22	7.20	7.16		
		5	21		6.16	6.08	6.28	6.22		
		5	30		7.43	7.35	7.68	7.68		
		5	45		6.91	6.58	6.27	6.16		
					(財)日本食品分析センター HR-0342J		(株)住化分析センター HR-0343J, HR-0344J			
みかん 露地 果肉 平成6年度	乳剤(50%) 10倍 5L/10a 無人へ散布	和歌山果園試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
			5	14	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
		愛媛果試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
			5	14	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
果皮		和歌山果園試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.02	< 0.01		
			5	14	1.07	1.04	0.79	0.75		
		愛媛果試	0	—	0.03	0.02	0.03	0.02		
			5	14	1.85	1.84	1.45	1.44		

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		私的分析機関		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
					(財)日本食品分析センター HR-0389J		(株)化学分析コンサルタント HR-0390J		
なつみかん 露地 果肉 昭和60年度	乳剤(50%) 1000倍 500L/10a 散布	三重農技センター (紀南柑橘)	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	
			6	9	< 0.005	< 0.005	0.006	0.006	
			6	14	< 0.005	< 0.005	0.006	0.006	
		果皮	山口農試 萩柑きつ試	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
				6	7	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
				6	14	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
果実全体 (申請者算出*) *果肉:果皮=7:3	三重農技センター (紀南柑橘)	0	—	< 0.01	< 0.01	0.01	0.01		
		6	9	4.51	4.32	4.71	4.59		
		6	14	3.92	3.77	5.46	5.43		
		山口農試 萩柑きつ試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
			6	7	5.83	5.60	4.44	4.38	
			6	14	4.67	4.48	5.70	5.67	
					(財)日本食品分析センター HR-0393J		(株)住化分析センター HR-0394J		
なつみかん 露地・無袋 果実全体 平成6年度	乳剤(50%) 1000倍 500L/10a 散布	静岡柑橘試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
			3	14	0.51	0.51	0.40	0.38	
			3	21	0.57	0.54	0.56	0.56	
			5	14	0.52	0.50	0.46	0.45	
			5	21	0.59	0.58	0.55	0.54	
		山口農試 萩柑きつ試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
			3	14	1.29	1.22	0.92	0.87	
			3	21	0.88	0.86	0.67	0.66	
			5	14	1.90	1.90	1.70	1.66	
			5	21	1.45	1.44	1.20	1.08	
					(財)日本食品分析センター HR-0241J		(株)住化分析センター HR-0242J		
伊予柑 露地・無袋 果肉 平成6年	乳剤(50%) 10倍 5L/10a 無人へり散布	愛媛果試 (松山市下伊台町)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
			5	13	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
		愛媛果試 (松山市石手)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
			5	13	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
		果皮	愛媛果試 (松山市下伊台町)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.02	< 0.02
				5	13	1.38	1.36	0.42	0.39
		愛媛果試 (松山市石手)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.02	< 0.02	
			5	13	1.03	1.03	0.62	0.59	
		果実全体 (申請者算出)	愛媛果試 (松山市下伊台町)	0	—	—	< 0.01	—	< 0.01
				5	13	—	0.50	—	0.14
0	—			—	< 0.01	—	< 0.01		
		愛媛果試 (松山市石手)	5	13	—	0.41	—	0.20	

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					—		—	
					(財)日本分析化学研究所 HR-0836J			
かぼす 露地・無袋 果実全体 平成21年度	乳剤(50%) 1000倍 617L/10a 散布	大分肥料植防	0	—			< 0.01	< 0.01
			3	14			3.82	3.74
			3	21			2.15	2.14
			3	28			1.74	1.72
			3	35			2.05	2.00
すだち 露地・無袋 果実全体 平成21年度	乳剤(50%) 1000倍 500L/10a 散布	徳島植防	0	—			< 0.01	< 0.01
			3	14			1.92	1.84
			3	21			2.15	2.13
			3	28			2.54	2.43
			3	35			0.02	0.02
					(財)日本分析化学研究所 —			
りんご 露地 果実 昭和47年度	乳剤(50%) 1000倍 500~600L/10a 散布	長野園試(須坂)	0	—	< 0.001	< 0.001		
			1	7	0.096	0.092		
			1	14	0.024	0.024		
			1	21	0.014	0.014		
			3	7	0.045	0.043		
			3	14	0.010	0.010		
			3	21	0.004	0.004		
		長野園試(須坂)	0	—	< 0.001	< 0.001		
			3	10	0.107	0.102		
			3	20	0.097	0.096		
			3	30	0.046	0.044		
			6	10	0.091	0.090		
			6	20	0.085	0.084		
			6	30	0.038	0.037		
					(財)日本分析化学研究所 —			
りんご 露地 果実 昭和47年度	乳剤(50%) 1000倍 540L/10a 散布	青森りんご試	0	—	< 0.001	< 0.001		
			3	9	0.111	0.110		
			3	20	0.036	0.036		
			3	29	0.052	0.052		
			6	9	0.305	0.303		
			6	20	0.062	0.060		
			6	29	0.059	0.057		
					(財)日本食品分析センター HR-0348J			
りんご 露地 果実 昭和51年度	乳剤(50%) 100倍 30L/10a 少量散布	岩手園試(花巻市)	0	—	0.01	0.01	< 0.005	< 0.005
			3	14	1.07	1.04	0.850	0.840
			3	21	0.26	0.26	0.197	0.194
			3	28	0.09	0.08	0.139	0.130
			6	14	0.79	0.78	1.58	1.54
			6	21	0.71	0.70	0.619	0.578
			6	28	0.56	0.54	0.356	0.349
		岩手園試(北上市)	0	—	0.01	0.01	< 0.005	< 0.005
			3	14	0.88	0.86	0.758	0.736
			3	21	0.49	0.48	0.509	0.500
			3	28	0.12	0.12	0.178	0.174
			6	14	0.98	0.98	1.45	1.44
			6	21	1.06	1.02	0.900	0.850
			6	28	0.58	0.54	0.599	0.591

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)				
					公的分析機関		私的分析機関		
					最高値	平均値	最高値	平均値	
					—		山本農業㈱ HR-0350J		
りんご 露地・無袋 果肉 昭和53年度	乳剤(1%) 2kg/10a 主幹部塗布	長野総農試果試	0	—			< 0.002	< 0.002	
			1	7			< 0.002	< 0.002	
果皮			0	—			< 0.002	< 0.002	
			1	7			< 0.002	< 0.002	
					—		磯化学分析コンサルタント HR-0351J		
りんご 露地・無袋 可食部 昭和56年度	乳剤(50%) 100倍 (岩手)30L/10a (山形) 25~35L/10a 少量散布	岩手園試	0	—			< 0.005	< 0.005	
			5	14			0.503	0.482	
		5	28			0.224	0.224		
		山形園試	0	—			< 0.005	< 0.005	
	5		14			0.560	0.552		
	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a 散布	岩手園試	0	—			< 0.005	< 0.005	
			5	14			0.170	0.164	
		5	28			0.072	0.070		
山形園試		0	—			< 0.005	< 0.005		
	5	14			0.135	0.132			
5	28			0.044	0.044				
					(財)日本食品分析センター		サカイ化学㈱		
りんご 露地・無袋 果実 昭和58年度 *サカイ化学提出データ	乳剤(40%) 100倍 1L/樹 樹幹散布	岩手園試	0	—	< 0.005	< 0.005	0.006	0.005	
			5	7	< 0.005	< 0.005	0.008	0.008	
		5	14	< 0.005	< 0.005	0.007	0.006		
		5	21	< 0.005	< 0.005	0.007	0.006		
	長野植防研	0	—	< 0.005	< 0.005	0.009	0.009		
		5	7	0.015	0.015	0.032	0.028		
		5	14	0.142	0.140	0.010	0.010		
		5	21	0.093	0.092	0.013	0.011		
					(財)残留農業研究所 HR-0355J		磯化学分析コンサルタント HR-0356J		
りんご 露地・無袋 果実 平成2年度	乳剤(50%) 1000倍 400L/10a 散布	岩手園試(大迫)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
			3	14	0.32	0.32	0.29	0.28	
			3	21	0.16	0.16	0.14	0.14	
			3	30	0.13	0.13	0.11	0.11	
			5	14	0.31	0.30	0.32	0.32	
			5	21	0.25	0.25	0.26	0.25	
			5	30	0.18	0.17	0.16	0.16	
			富山農技センター果試	0	—	0.06	0.06	0.06	0.06
		2		14	0.25	0.24	0.32	0.32	
		2		21	0.12	0.12	0.16	0.16	
		2		30	0.11	0.10	0.12	0.12	
		5		14	0.52	0.52	0.51	0.50	
		5		21	0.27	0.27	0.36	0.36	
		5		30	0.10	0.10	0.12	0.12	





作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)残留農薬研究所 HR-0410J		(株)化学分析コンサルタント HR-0411J	
日本なし 露地・有袋 果実 平成2年度	乳剤(50%) 1000倍 400L/10a 散布	長野植防(南信)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			6	7	0.07	0.06	0.05	0.04
		鳥取果野菜試	6	14	0.03	0.03	0.04	0.04
			0	—	< 0.01	< 0.01	0.02	0.02
6	7	0.20	0.20	0.12	0.12			
6	14	0.08	0.08	0.10	0.10			
					—		(株)化学分析コンサルタント HR-0412J	
日本なし 露地 果実 平成5年度	乳剤(50%) 1000倍 (新潟)500L/10a (徳島)400L/10a 散布	新潟園試	0	—			< 0.01	< 0.01
			6	21			0.12	0.11
		徳島植防	6	30			0.02	0.02
			0	—			< 0.01	< 0.01
6	21			0.12	0.12			
6	30			0.05	0.05			
					—		保土谷コンサルタント(株) HR-0415J	
日本なし 露地・無袋 果実 平成6年度	乳剤(50%) 1000倍 400L/10a 散布	群馬園試	0	—			< 0.01	< 0.01
			6	21			0.06	0.05
		愛知農総試	0	—			< 0.01	< 0.01
			6	21			0.05	0.05
					—		保土谷コンサルタント(株) HR-0416J	
日本なし 露地・有袋 果実 平成6年度	乳剤(50%) 1000倍 400L/10a 散布	新潟園試	0	—			< 0.01	< 0.01
			6	14			< 0.01	< 0.01
		兵庫北部農技センター	0	—			< 0.01	< 0.01
			6	14			0.03	0.02
		大分植防	0	—			0.01	0.01
			6	10			0.10	0.10
6	14			0.04	0.04			
					—		保土谷コンサルタント(株) HR-0418J	
日本なし 露地・無袋 果実 平成7年度	乳剤(50%) 1000倍 400L/10a 散布	栃木農試	0	—			< 0.01	< 0.01
			6	21			0.08	0.08
		静岡柑橘試 (落葉果樹)	0	—			< 0.01	< 0.01
			6	21			0.06	0.06
		石川植防	0	—			< 0.01	< 0.01
			6	21			0.03	0.03
6	21			< 0.01	< 0.01			
6	21			0.09	0.08			
					—		保土谷コンサルタント(株) HR-0419J	
日本なし 露地・有袋 果実 平成7年度	乳剤(50%) 1000倍 400L/10a 散布	群馬園試	0	—			< 0.01	< 0.01
			6	14			0.03	0.03
					(財)日本食品分析センター HR-0838J		(株)化学分析コンサルタント HR-0834J	
日本なし 露地・無袋 果実 平成21年度	乳剤(50%) 250倍 (愛知)350mL/樹 (三重)500mL/樹 樹幹部散布	愛知農総試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			6	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
		三重植防	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			6	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本分析化学研究所 HR-0621J		-	
もも 露地・無袋 果肉 昭和47年度	乳剤(50%) 1000倍 (山形)400L/10a (長野)500L/10a 散布	山形園試	0	—	< 0.001	< 0.001		
			3	3	0.073	0.070		
			3	7	0.032	0.030		
			3	14	0.005	0.005		
			6	3	0.080	0.074		
			6	7	0.067	0.064		
			6	14	0.009	0.008		
		長野園試	0	—	< 0.001	< 0.001		
			3	3	0.073	0.071		
			3	7	0.057	0.056		
			3	14	0.011	0.010		
			6	3	0.071	0.070		
			6	7	0.054	0.053		
			6	14	0.015	0.014		
果皮		山形園試	0	—	0.010	0.010		
			3	3	2.24	2.24		
			3	7	1.10	1.08		
			3	14	0.416	0.364		
			6	3	2.91	2.74		
			6	7	1.56	1.54		
			6	14	0.580	0.540		
		長野園試	0	—	0.016	0.015		
			0	—	< 0.001	< 0.001		
			3	3	5.59	5.52		
			3	7	6.15	6.02		
			3	14	2.09	1.98		
			6	3	6.11	5.93		
			6	7	5.66	5.58		
					(財)残留農薬研究所		サカイ化学㈱	
もも 果肉 昭和47年度 *サカイ化学提出データ	乳剤(50%) 200倍 (福島)200L/10a	福島園試	0	—	< 0.0008	< 0.0008	< 0.001	< 0.001
			1	85	0.0027	0.0020	< 0.001	< 0.001
			2	50	0.0032	0.0026	0.002	0.002
		岡山農試	0	—	< 0.0008	< 0.0008	< 0.001	< 0.001
			1	119	< 0.0008	< 0.0008	< 0.001	< 0.001
			2	88	< 0.0008	< 0.0008	< 0.001	< 0.001
					日本医療食協会 HR-0622J		山本農薬㈱ HR-0623J	
もも 露地 果肉 昭和50年度	乳剤(1%) 1.5倍 樹幹塗布	奈良農試 (無袋)	0	—	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
			1	30	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
			1	45	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
		岡山農試 (有袋)	0	—	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
			1	30	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
			1	45	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002
果皮		奈良農試 (無袋)	0	—	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002
			1	30	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002
			1	45	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002
		岡山農試 (有袋)	0	—	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002
			1	30	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002
			1	45	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財) 残留農業研究所 HR-0627J		(株) 住化分析センター HR-0628J, HR-0629J	
もも 露地・無袋 果肉 平成10年度  果皮	乳剤(50%) 1000倍 400L/10a 散布	福島植防	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			6	3	0.04	0.04	0.10	0.10
			6	7	0.04	0.04	0.03	0.03
			6	14	0.03	0.03	< 0.01	< 0.01
		長野植防(南信)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			6	3	0.03	0.03	0.01	0.01
			6	8	0.01	0.01	< 0.01	< 0.01
			6	14	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
福島植防	0	—	< 0.02	< 0.02	< 0.01	< 0.01		
	6	3	26.4	25.5	23.1	22.9		
	6	7	13.8	13.6	8.33	7.96		
	6	14	9.12	9.11	4.96	4.15		
長野植防(南信)	0	—	0.25	0.24	< 0.01	< 0.01		
	6	3	4.83	4.78	2.19	2.12		
	6	8	1.95	1.89	1.51	1.45		
	6	14	0.48	0.47	0.64	0.64		
					(財) 残留農業研究所 HR-0626J		(株) 住化分析センター HR-0628J, HR-0629J	
もも 露地・無袋 果肉 平成10年度  果皮	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a 散布	岐阜植防	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			6	3	0.04	0.04	0.04	0.04
			6	7	0.04	0.04	0.02	0.02
			6	14	0.04	0.04	< 0.01	< 0.01
		果皮	0	—	< 0.02	< 0.02	< 0.01	< 0.01
			6	3	10.9	10.6	6.34	6.28
			6	7	12.7	12.1	2.25	2.06
			6	14	7.49	7.32	6.36	6.30
					(財) 残留農業研究所 HR-0624J		—	
もも 露地・有袋 果肉 平成10年度  果皮	乳剤(50%) 1000倍 400L/10a 散布	群馬園試	0	—	< 0.01	< 0.01		
			6	3	0.07	0.07		
			6	7	0.06	0.06		
			6	14	0.03	0.03		
		果皮	0	—	< 0.02	< 0.02		
			6	3	16.2	15.7		
			6	7	15.9	15.5		
			6	14	8.51	8.32		
					—		(株) 住化分析コンサルタント HR-0743J	
ネクタリン 露地・無袋 果実 平成17年度	乳剤(15%) 50倍 80L/10a 散布	山梨果試(甲州市)	0	—			< 0.01	< 0.01
			3	124			< 0.01	< 0.01
			3	131			< 0.01	< 0.01
			3	138			< 0.01	< 0.01
		山梨果試(山梨市)	0	—			< 0.01	< 0.01
			3	124			< 0.01	< 0.01
			3	131			< 0.01	< 0.01
			3	138			< 0.01	< 0.01

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)					
					公的分析機関		私的分析機関			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
					(財)日本食品分析センター HR-0243J		株式会社分析センター HR-0244J			
あんず 露地・無袋 果実 平成4,5年	乳剤(15%) 50倍 (岩手)250L/10a (長野)5L/1樹 樹幹および主枝 に散布	岩手植防 (平成5年)	0 1	- 105	< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01		
		長野果試 (平成4年)	0 1	- 118	< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01	< 0.01 < 0.01		
							—		株式会社分析センター HR-0818J	
すもも 露地 果実 平成19年度	乳剤(40%) 133倍 200L/10a 散布	山梨果樹試	0 2	- 128			< 0.005 < 0.005	< 0.005 < 0.005		
		日植防(山梨)	0 2	- 104			< 0.005 < 0.005	< 0.005 < 0.005		
							—		山本農業㈱ HR-0264J	
うめ 露地 核を除く 昭和53年度	乳剤(15%) 30倍 樹幹散布 乳剤(15%) 50倍 樹幹散布 乳剤(15%) 100倍 樹幹散布	和歌山果園試	0 1	- 79			0.004 < 0.004	0.004 < 0.004		
			0 1	- 79			0.004 < 0.004	0.004 < 0.004		
			0 1	- 79			0.004 < 0.004	0.004 < 0.004		
					(財)残留農業研究所 HR-0265J		株式会社分析センター HR-0266J			
うめ 露地 果肉 昭和61,62年度	乳剤(50%) 100倍 (長野)250L/10a (和歌山)100L/10a 樹幹散布 乳剤(50%) 500倍 400L/10a 散布	長野植防(南信) (昭和61年度)	0 1	- 99	0.018 0.024	0.015 0.023	< 0.005 0.006	< 0.005 0.006		
		和歌山果園試 (昭和61年度)	0 1	- 95	< 0.005 < 0.005	< 0.005 < 0.005	< 0.005 < 0.005	< 0.005 < 0.005		
		和歌山果園試 (昭和62年度)	0 2 2 2	- 21 30 45	0.018 0.044 0.014 0.064	0.015 0.044 0.013 0.064	< 0.005 0.059 0.023 0.008	< 0.005 0.058 0.020 0.007		
			0 2 2 2	- 21 30 45	< 0.005 0.115 0.008 < 0.005	< 0.005 0.112 0.008 < 0.005	< 0.005 0.080 < 0.005 < 0.005	< 0.005 0.078 < 0.005 < 0.005		
							日本医療食 HR-0187J		株式会社分析センター HR-0188J	
うめ 露地 果実 平成3年度	乳剤(50%) 1000倍 (福井)600L/10a (和歌山)400L/10a 散布	福井園試	0 2 2 2	- 7 13 21	< 0.005 0.108 0.014 0.006	< 0.005 0.104 0.014 0.006	< 0.005 0.561 0.046 0.007	< 0.005 0.560 0.044 0.006		
			和歌山果園試	0 2 2 2	- 7 14 21	< 0.005 0.109 0.022 < 0.005	< 0.005 0.109 0.021 < 0.005	< 0.005 0.138 0.031 0.007	< 0.005 0.136 0.031 0.006	

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター HR-0796J		住化ラボサービス㈱ HR-0817J	
うめ 露地 果実 平成19年度	乳剤(50%) 250倍 (福島) 3L/樹 (長野) 5L/樹 樹幹および主枝 に散布	福島植防	0	-	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	90	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	97	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
		長野植防	0	-	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	90	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	97	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
おうとう 露地 果肉 昭和61年度	乳剤(40%) 200倍 (青森) 100L/10a (福島) 140L/10a 樹幹散布 有効成分: MEP 40% PAP 10%	青森畑作園試	0	-	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002
			1	68	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002
			0	-	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002
		福島植防	1	80	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002
			0	-	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002
			1	80	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002
おうとう 施設 果実 平成2年度	乳剤(50%) 1000倍 (山梨) 300L/10a (新潟) 400L/10a 散布	山梨果試	0	-	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	14	0.04	0.04	0.06	0.06
			2	21	0.02	0.02	< 0.01	< 0.01
			2	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
		新潟園試	0	-	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	14	0.04	0.04	0.04	0.04
			2	21	0.02	0.02	0.01	0.01
			2	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
いちご 施設 果実 平成2年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	栃木植防	0	-	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	1	2.29	2.23	2.43	2.42
			2	3	1.72	1.72	1.50	1.48
			4	1	2.44	2.42	1.96	1.92
			4	3	1.54	1.52	1.85	1.82
		埼玉植防	0	-	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	1	0.64	0.64	0.57	0.56
			2	3	0.22	0.22	0.18	0.18
			4	1	0.94	0.91	0.68	0.66
			4	3	0.52	0.50	0.39	0.38
	乳剤(50%) 2000倍 150L/10a 散布	栃木植防	0	-	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	1	3.06	2.99	1.91	1.90
			2	3	1.36	1.34	1.36	1.30
			4	1	1.44	1.42	1.23	1.21
			4	3	0.73	0.73	1.05	1.04
		埼玉植防	0	-	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	1	0.16	0.16	0.14	0.13
			2	3	0.08	0.08	0.08	0.08
			4	1	0.32	0.30	0.24	0.24
			4	3	0.14	0.13	0.12	0.12

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター HR-0253J		㈱住化分析センター HR-0254J	
いちご 露地 果実 平成4年度	乳剤(50%) 1000倍 150L/10a 散布	道立道南農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	1	0.43	0.42	0.49	0.48
			2	3	0.20	0.20	0.35	0.34
			2	7	0.06	0.06	0.08	0.08
			4	1	0.39	0.38	0.50	0.50
			4	3	0.29	0.28	0.25	0.24
		4	7	0.06	0.06	0.08	0.08	
		長野植防(南信)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	1	2.19	2.16	2.41	2.38
			4	3	1.06	1.02	1.23	1.22
			4	7	0.15	0.14	0.17	0.17
		乳剤(50%) 2000倍 150L/10a 散布	道立道南農試	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01
	2			1	0.13	0.13	0.20	0.20
	2			3	0.08	0.08	0.10	0.10
	2			7	0.03	0.02	0.03	0.03
	4			1	0.33	0.32	0.30	0.30
4	3			0.14	0.14	0.18	0.18	
4	7		0.05	0.04	0.06	0.06		
長野植防(南信)	0		—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01	
	4		1	0.81	0.80	0.94	0.94	
	4		3	0.50	0.49	0.50	0.50	
	4	7	0.18	0.18	0.20	0.20		
					—	サカイ化学㈱ HR-0426J		
ぶどう 果実 昭和48年度 *サカイ化学提出データ	乳剤(50%) **300倍1回 200倍1回、2回 (山形)250L/10a (山梨)200L/10a 散布	山形園試 (小粒種)	0	—			< 0.002	< 0.002
			**1	113			< 0.002	< 0.002
			2	113			< 0.002	< 0.002
		山梨果試 (小粒種)	0	—			< 0.002	< 0.002
			1	149			< 0.002	< 0.002
			2	137			< 0.002	< 0.002
					中央大学 HR-0429J		山本農業㈱ HR-0430J	
ぶどう 露地 可食部 昭和53年度	乳剤(1%) 原液2L/1樹 樹幹塗布	岩手園試 (大粒種)	0	—	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002
			1	3	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002
			1	103	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002
		香川農試(府中) (有袋) (大粒種)	0	—	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002
			1	3	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002
			1	82	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002
					—	㈱住化分析センター HR-0431J		
ぶどう 施設・無袋 果実 昭和63年度	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a 散布	住友化学 加西試験農場 (大粒種)	0	—			< 0.005	< 0.005
			2	15			0.076	0.075
			2	22			0.046	0.043
			2	29			0.024	0.022
		福岡農総試 (大粒種)	0	—			< 0.005	< 0.005
			2	14			0.007	0.006
			2	21			0.007	0.006
			2	30			< 0.005	< 0.005

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)残留農業研究所 HR-0432J		(株)化学分析コンサルタント HR-0433J	
ぶどう 施設 果実 平成元年度	乳剤(50%) 1000倍 (秋田)十分量 (岡山)300L/10a 散布	秋田果試(天王) (大粒種)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	14	0.13	0.12	0.08	0.08
			2	21	0.07	0.06	0.05	0.05
			2	30	0.05	0.04	0.04	0.04
		岡山農試 (大粒種)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	14	0.10	0.10	0.08	0.08
					(財)残留農業研究所 HR-0434J		(株)化学分析コンサルタント HR-0435J	
ぶどう 施設 果実 平成2年度	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a 散布	秋田果試(天王) (小粒種)	0	—	0.01	0.01	< 0.01	< 0.01
			2	14	0.88	0.88	1.14	1.10
			2	21	0.81	0.81	0.78	0.78
			2	30	0.24	0.24	0.57	0.56
		山梨果試 (小粒種)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	14	1.94	1.93	1.76	1.74
					(財)日本食品分析センター HR-0442J		(株)住化分析センター HR-0443J	
ぶどう 施設・無袋 果実 平成5年度	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a 休眠期2回, 生育期2回散布	秋田果試(天王) (小粒種)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	45	1.06	1.05	0.81	0.81
			4	60	0.06	0.06	0.07	0.07
			4	90	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
		滋賀農試(園芸) (小粒種)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	45	0.07	0.06	0.05	0.05
					(社)日本植物防疫協会研究所 HR-0739J		(株)化学分析コンサルタント HR-0740J	
ぶどう 施設・無袋 果実 平成16年度	乳剤(1%) (秋田) 原液、0.2L/樹 (石川) 原液、充分量 樹幹塗布	秋田果試(天王) (小粒種)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	14	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	28	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
		石川農総研センター (砂丘地) (小粒種)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	14	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
					(財)日本食品分析センター HR-0808J		(株)化学分析コンサルタント HR-0784J	
ぶどう 施設・無袋 果実 平成18年度	乳剤(15%) 50倍 1~2回目 主枝散布 (山梨)300L/10a (石川)500L/10a 3~4回目:乳剤(1%) 原液、主幹部噴射 (山梨)0.2L/1樹 (石川)70g/1樹	日植防研(山梨) (小粒種)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	45	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
		石川植防 (小粒種)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター HR-0809J		(株)化学分析コンサルタント HR-0748J	
ぶどう 施設・無袋 果実 平成18年度	乳剤(15%) 50倍 1~2回目 主枝散布 (福島)100L/10a (長野)300L/10a 3~4回目:乳剤(1%) 原液、主幹部噴射 (福島)250g/1樹 (長野)400g/1樹	福島植防 (大粒種)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	45	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
		長野植防 (大粒種)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			4	45	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
					(財)日本分析化学研究所 HR-0282J		—	
かき 露地 可食部 昭和47年度	乳剤(50%) 1000倍 (岐阜)200L/10a (和歌山)300L/10a 散布	岐阜農試 (無袋)	0	—	< 0.001	< 0.001		
			3	21	0.020	0.019		
			3	31	0.010	0.010		
			3	41	0.007	0.006		
			6	21	0.057	0.056		
			6	31	0.025	0.025		
			6	41	0.008	0.008		
			和歌山果試(紀北)	0	—	< 0.001	< 0.001	
		3		23	0.041	0.040		
		3		33	0.012	0.012		
		3		46	0.003	0.003		
		6		23	0.030	0.028		
		6		33	0.024	0.023		
							(財)日本食品分析センター HR-0283J	
かき 露地・無袋 果実 昭和49年度	乳剤(50%) 500倍 (岐阜)300L/10a (和歌山)600L/10a 散布	岐阜農試	0	—	0.002	0.002	< 0.001	< 0.001
			3	14	0.60	0.60	0.413	0.389
			3	21	0.084	0.078	0.116	0.114
			3	27	0.010	0.008	< 0.001	< 0.001
			6	14	0.64	0.60	0.542	0.512
			6	21	0.18	0.18	0.141	0.138
			6	27	0.12	0.12	0.024	0.024
			和歌山果試(紀北)	0	—	< 0.002	< 0.002	0.001
		3		14	0.84	0.82	0.544	0.536
		3		21	0.54	0.54	0.337	0.336
		6		14	0.60	0.58	0.637	0.607
		6		21	0.32	0.31	0.391	0.380
		6		29	0.39	0.39	0.174	0.174
							—	
かき 露地・無袋 可食部 昭和53年度	塗布剤(1%) 樹幹塗布	和歌山果試(紀北)	0	—			< 0.002	< 0.002
			1	73			< 0.002	< 0.002
			2	6			< 0.002	< 0.002



作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)								
					公的分析機関		私的分析機関						
					最高値	平均値	最高値	平均値					
					(財)日本食品分析センター HR-0296J		(株)化学分析コンサルタント HR-0297J						
かき 露地・無袋 果実 平成元年度	水和剤(40%) 800倍 400L/10a 散布	静岡柑橘試 (落葉果樹)	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01					
			3	30	0.054	0.053	0.13	0.12					
			3	45	0.010	0.009	0.03	0.03					
			3	45	0.043	0.041	0.03	0.03					
		福岡農総試 (豊前)	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.01	< 0.01					
			3	30	0.082	0.080	0.08	0.08					
			3	30	0.082	0.080	0.08	0.08					
			3	45	0.043	0.041	0.03	0.03					
					日植防研 HR-0295J		—						
かき 露地・無袋 果実 平成11年度	乳剤(50%) 1000倍 300L/10a 散布	福島植防	0	—	< 0.01	< 0.01							
			3	21	0.11	0.10							
			3	28	0.04	0.04							
			3	42	0.01	0.01							
		新潟農総研 (園芸研セ)	0	—	< 0.01	< 0.01							
			3	21	0.57	0.57							
			3	29	0.17	0.16							
			3	43	0.04	0.04							
		愛知農総試 (豊橋)	0	—	< 0.01	< 0.01							
			3	20	0.02	0.02							
			3	28	0.03	0.03							
		岐阜植防	0	—	< 0.01	< 0.01							
			3	21	0.18	0.18							
			3	28	0.12	0.12							
		和歌山県植防	0	—	< 0.01	< 0.01							
			3	21	0.26	0.26							
			3	28	0.23	0.22							
		山口萩柑きつ試	0	—	< 0.01	< 0.01							
			3	21	0.05	0.05							
			3	28	0.01	0.01							
					3	42	< 0.01	< 0.01					
										(財)残留農業研究所 HR-0797J		住化テクノサービス(株) HR-0790J	
					岐阜植防	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
						3	28	0.17	0.16	0.15	0.14		
3	42	0.03	0.02	0.01		0.01							
3	56	0.01	0.01	< 0.01		< 0.01							
和歌山植防	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01							
	3	28	0.53	0.52	0.43	0.41							
	3	42	0.10	0.10	0.10	0.10							
	3	56	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01							
					—		山本農業(株) HR-0247J						
いちじく 果実 昭和53年度	乳剤(1%) 大阪農技セ 原液、樹幹塗布 0.8~1kg/樹	大阪農技セ	0	—			< 0.004	< 0.004					
			1	30			< 0.004	< 0.004					
			2	3			< 0.004	< 0.004					
			1	3			< 0.004	< 0.004					

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					千葉県農業試験場 HR-0246J		-	
いちじく 果実 昭和53年度	乳剤(15%) 100倍、3L/樹	千葉県農試 A圃場	0	-	< 0.002	< 0.002		
			1	7	果実毎に測定 0.004	0.015		
			1	14	0.004	0.004		
			1	21	< 0.002	< 0.002		
			3	7	0.007	0.006		
			3	14	0.003	0.003		
			3	21	< 0.002	< 0.002		
			5	7	0.019	0.018		
			5	14	0.005	0.004		
			5	21	< 0.002	< 0.002		
		千葉県農試 B圃場	0	-	0.004	0.004		
			1	7	0.105	0.100		
			1	14	0.014	0.014		
			1	21	0.011	0.010		
いちじく 果実 昭和53年度	乳剤(1%) 原液、700g/樹 樹幹塗布	千葉県農試 A圃場	0	-	< 0.002	< 0.002	< 0.004	< 0.004
			1	7	0.008	0.008	< 0.004	< 0.004
			1	14	0.012	0.012		
			1	21	0.003	0.003		
			1	144	0.009	0.008	< 0.004	< 0.004
			1	151	0.003	0.003		
			1	159	0.004	0.004		
		千葉県農試 B圃場	0	-	0.004	0.004	< 0.004	< 0.004
			1	7	0.013	0.013	< 0.004	< 0.004
			1	14	0.012	0.012		
			1	21	0.007	0.006		
			1	144	0.005	0.005	< 0.004	< 0.004
			1	151	0.008	0.008		
			1	159	0.005	0.004		

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)					
					公的分析機関		私的分析機関			
					最高値	平均値	最高値	平均値		
					千葉県農業試験場		サカイ化学㈱			
いちじく 果実 露地・無袋 昭和56年度 *サカイ化学提出データ	乳剤(40%) 100倍、200mL/樹	千葉農試 (市原市)	0	—	< 0.004	< 0.004	< 0.002	< 0.002		
			1	7	0.180	0.178	0.182	0.166		
			1	15	0.148	0.138	0.085	0.082		
			1	21	0.015	0.014	0.012	0.012		
			3	7	0.024	0.024	0.022	0.022		
			3	15	0.128	0.116	0.121	0.108		
			3	21	< 0.004	< 0.004	0.004	0.004		
			(部位毎分析)							
				(果皮)	1	15	0.44	0.44		
				(果肉)	1	15	< 0.004	< 0.004		
				(果実計算)	1	15		0.094		
				(果皮)	1	21	0.017	0.016		
				(果肉)	1	21	< 0.004	< 0.004		
				(果実計算)	1	21		0.007		
	(果皮)	3	21	0.030	0.028					
	(果肉)	3	21	< 0.004	< 0.004					
	(果実計算)	3	21		0.009					
					千葉県農業試験場		サカイ化学㈱*			
いちじく 果実 露地・無袋 昭和57年度 *サカイ化学提出データ  社内分析データ※ 果肉：果皮＝ 8：2	乳剤(40%) 100倍、1.2L/樹	千葉農試	0	—	0.001	0.001	0.004	0.004		
			1	7	0.171	0.149	0.034	0.031		
			1	14	0.075	0.068	0.015	0.015		
			1	21	0.004	0.004	0.005	0.005		
			3	7	0.037	0.034	0.015	0.015		
			3	14	0.015	0.014	0.017	0.016		
			3	21	0.010	0.010	0.009	0.009		
			(部位毎分析)							
				(果皮)	1	7	0.82	0.77		
				(果肉)	1	7	0.027	0.026		
				(果実計算)	1	7		0.145		
					鳥取園試 HR-0248J		㈱住化分析センター HR-0248J			
いちじく 施設 果実 平成7年度	乳剤(1%) 60kg/10a 樹幹塗布	鳥取園試(北条)	0	—	< 0.02	< 0.02	< 0.01	< 0.01		
			3	7	< 0.02	< 0.02	0.04	0.04		
			3	14	< 0.02	< 0.02	< 0.01	< 0.01		
			3	21	< 0.02	< 0.02	0.02	0.02		
		鳥取園試(淀江)	0	—	< 0.02	< 0.02	< 0.01	< 0.01		
			3	7	< 0.02	< 0.02	< 0.01	< 0.01		
			3	14	< 0.02	< 0.02	< 0.01	< 0.01		
			3	21	< 0.02	< 0.02	< 0.01	< 0.01		
					香川農試 HR-0280J		㈱化学分析コンサルタント HR-0281J			
オリーブ 露地 果実 平成6年度	乳剤(50%) 50倍 2L/樹 樹幹散布	香川農試(小豆)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
			2	60	0.01	0.01	< 0.01	< 0.01		
			3	21	0.01	0.01	0.01	0.01		
			3	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
		小豆郡池田町 柴田氏圃場	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
			2	60	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
			3	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
			3	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					香川県農業試験場 HR-0708J, HR-0709J		-	
オリーブ 露地・無袋 葉 平成16年度	乳剤(50%) 50倍 40L/10a 樹幹散布	香川県農試	0	-	< 0.02	< 0.02		
			3	60	< 0.02	< 0.02		
			3	90	< 0.02	< 0.02		
			3	120	< 0.02	< 0.02		
		香川農試(小豆)	0	-	< 0.02	< 0.02		
			3	60	0.12	0.12		
			3	90	0.06	0.06		
			3	120	0.04	0.04		
					岡山県農業総合センター HR-0741J		-	
いちょう(種子) 露地 種実 平成15年度	乳剤(50%) 100倍 1L/樹 樹幹散布	岡山農総センター	0	-	< 0.01	< 0.01		
			3	60	< 0.01	< 0.01		
			3	74	< 0.01	< 0.01		
			3	88	< 0.01	< 0.01		
		岡山農総センター (北部)	0	-	< 0.01	< 0.01		
			3	60	< 0.01	< 0.01		
			3	74	< 0.01	< 0.01		
			3	88	< 0.01	< 0.01		
					(財)残留農薬研究所 HR-0317J		山本農業㈱ HR-0318J	
くり 露地 可食部 昭和47年度	乳剤(1%) 樹幹塗布	兵庫農試	0	-	< 0.002	< 0.002	< 0.004	< 0.004
			1	139	< 0.002	< 0.002	< 0.004	< 0.004
			1	153	< 0.002	< 0.002	< 0.004	< 0.004
		石川農試	0	-	< 0.002	< 0.002	< 0.004	< 0.004
1	78		< 0.002	< 0.002	< 0.004	< 0.004		
					(財)日本分析化学研究所 HR-0345J		-	
くり 露地・無袋 果実 昭和47年度	乳剤(50%) 1000倍 十分量 散布	徳島果試(上板)	0	-	< 0.001	< 0.001		
			2	20	< 0.001	< 0.001		
			4	19	< 0.001	< 0.001		
					(財)日本分析化学研究所 HR-0319J		八洲化学工業㈱ HR-0320J	
くり 露地 果実 昭和48年度	乳剤(50%) 1000倍 十分量 散布	茨城水戸病虫害 防除所	0	-	< 0.002	< 0.002	< 0.001	< 0.001
			2	10	< 0.002	< 0.002	0.005	0.005
			2	20	< 0.002	< 0.002	0.003	0.003
			4	10	< 0.002	< 0.002	0.006	0.006
			4	20	< 0.002	< 0.002	0.003	0.003
		徳島果試(上板)	0	-	< 0.002	< 0.002	0.002	0.002
			2	10	< 0.002	< 0.002	0.002	0.002
			2	20	< 0.002	< 0.002	0.004	0.003
			4	10	< 0.002	< 0.002	0.002	0.002
			4	20	< 0.002	< 0.002	0.004	0.004

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)						
					公的分析機関		私的分析機関				
					最高値	平均値	最高値	平均値			
					(財)日本食品分析センター HR-0321J		八洲化学工業(株) HR-0322J				
くり 露地 果実 昭和49年度	微粒剤(3%) 6kg/10a 散布	茨城水戸病虫害 防除所	0	—	0.004	0.004	< 0.001	< 0.001			
			2	7	0.14	0.13	0.005	0.005			
			2	14	0.002	0.002	< 0.001	< 0.001			
			4	7	0.020	0.017	0.004	0.004			
			4	14	0.006	0.006	0.001	0.001			
				徳島果試(上板)	0	—	< 0.002	< 0.002	< 0.001	< 0.001	
					2	6	0.010	0.008	0.001	0.001	
					2	12	0.002	0.002	< 0.001	< 0.001	
					4	6	0.004	0.003	0.001	0.001	
					4	12	< 0.002	< 0.002	0.001	0.001	
					(財)日本分析化学研究所		サカイ化学(株)				
くり 露地 可食部 昭和49年度 サカイ化学提出データ	乳剤(50%) 1) 200倍1回+100倍1回 2) 200倍1回+100倍2回	茨城園試	0	—	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002			
			2 <sup>1)</sup>	76	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002			
			3 <sup>2)</sup>	67	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002			
				岐阜農七	0	—	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	
					2 <sup>1)</sup>	79	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	
					2 <sup>1)</sup>	85	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	
					3 <sup>2)</sup>	64	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	
					3 <sup>2)</sup>	70	< 0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	
							静岡茶試 HR-0605J		(株)住化分析センター HR-0608J, HR-0609J		
		茶 露地 製茶 昭和63年度 浸出液	乳剤(70%) 1000倍 (菊川町) 5000L/10a (金谷町) 8890L/10a 土壌処理		静岡茶試 (菊川町)	0	—			< 0.005	< 0.005
1	92						< 0.005	< 0.005			
				農水省野菜茶試 (金谷町)	0	—			< 0.005	< 0.005	
					1	195			< 0.005	< 0.005	
				静岡茶試 (菊川町)	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	
					1	92	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	
					農水省野菜茶試 (金谷町)	0	—	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
						1	195	< 0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005
					—		(株)住化分析センター HR-0607J				
茶 露地 製茶 昭和63年度 浸出液	乳剤(70%) 1000倍 250L/10a 散布	長野植防(南信)	0	—			0.010	0.010			
			2	16			0.033	0.032			
			2	21			0.017	0.017			
			2	30			0.011	0.011			
					三重農技社(茶業)	0	—			< 0.005	< 0.005
						2	20			0.187	0.182
					長野植防(南信)	0	—			< 0.005	< 0.005
						2	16			0.013	0.012
				2		21			< 0.005	< 0.005	
				2		30			< 0.005	< 0.005	
				三重農技社(茶業)		0	—			< 0.005	< 0.005
						2	20			0.036	0.034

作物名 栽培形態 分析部位 年 度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター HR-0613J		㈱化学分析センター HR-0614J, HR-0615J	
茶 露地 荒茶 平成元年度 浸出液	乳剤(70%) 1000倍 200L/10a 散布	神奈川園試 (津久井)	0	—	< 0.01	< 0.01	0.01	0.01
			2	20	0.15	0.14	0.12	0.12
		宮崎総農試(茶業)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	20	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
		神奈川園試 (津久井)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	20	0.04	0.04	0.04	0.04
		宮崎総農試(茶業)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	20	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
茶 露地 荒茶 平成元年度 浸出液	乳剤(70%) 1500倍 200L/10a 散布	神奈川園試 (津久井)	2	20	0.09	0.08	0.07	0.07
		宮崎総農試(茶業)	2	20	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
		神奈川園試 (津久井)	2	20	0.03	0.03	0.02	0.02
		宮崎総農試(茶業)	2	20	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
					(財)日本食品分析センター HR-0618J		保土谷コンタクト㈱ HR-0619J	
茶 露地 荒茶 平成9年度	乳剤(50%) 700倍 200L/10a 散布	神奈川園試 (津久井)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			1	21	0.01	0.01	0.02	0.02
			1	30	0.01	0.01	0.02	0.02
			2	30	0.03	0.03	0.04	0.04
		三重農技センター (茶業)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			1	21	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
1	30		< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
	2	30	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01		
					(財)日本食品分析センター HR-0610J		保土谷コンタクト㈱ HR-0611J	
茶 露地 荒茶 平成9年度	乳剤(70%) 2000倍 5000L/10a 散布	三重農技センター (茶業)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	60	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
					(財)日本食品分析センター HR-0610J		保土谷コンタクト㈱ HR-0611J	
茶 露地 荒茶 平成9年度	乳剤(50%) 1400倍 5000L/10a 土壌灌注	茨城農総七 (山間地帯特産)	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			2	50	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
					(財)日本食品分析センター HR-0798J		住化テクノサービス㈱ HR-0799J	
茶 露地 荒茶 平成19年度	乳剤(70%) 2000倍 5000L/10a 土壌灌注	埼玉農総研	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			1	90	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
		神奈川農技七	0	—	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01
			1	90	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.01

作物名 栽培形態 分析部位 年度	剤型(分量) 希釈倍数 使用方法 分析成分	試料調製場所	使用回数	経過日数	分析結果 (ppm)			
					公的分析機関		私的分析機関	
					最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター HR-0487J		株式会社分析センター HR-0489J	
いね科牧草 露地 葉および茎 昭和51年度	乳剤(50%) 1000倍 (東京) 100~150L/10a (宮崎)150L/10a 散布	日植防(東京)	0	—	< 0.008	< 0.008	0.003	0.002
			5	3	3.92	3.88	1.90	1.88
			5	7	0.520	0.488	0.134	0.129
		宮崎総農試	0	—	0.012	0.012	< 0.002	< 0.002
			5	3	1.08	1.06	0.445	0.420
			5	7	0.120	0.118	0.292	0.286
			5	14	0.128	0.127	0.038	0.025
								(財)日本食品分析センター HR-0487J
まめ科牧草 露地 葉および茎 昭和51年度	乳剤(50%) 1000倍 (東京) 100~150L/10a (宮崎)150L/10a 散布	日植防(東京)	0	—	< 0.008	< 0.008	0.007	0.006
			5	3	1.89	1.88	0.557	0.544
			5	7	0.213	0.201	0.043	0.038
		宮崎総農試	0	—	0.026	0.025	0.008	0.008
			5	3	16.4	15.6	14.0	13.6
			5	7	10.2	9.70	12.0	11.8
			5	14	1.32	1.33	1.06	1.03
								(財)日本食品分析センター HR-0750J
飼料用とうもろこし 露地 茎葉 平成16年度	乳剤(50%) 2000倍 200L/10a 散布	静岡植防	0	—	< 0.02	< 0.02	< 0.02	< 0.02
			2	28	0.33	0.32	0.15	0.15
			2	42	0.02	0.02	< 0.02	< 0.02
			2	56	< 0.02	< 0.02	< 0.02	< 0.02
		福井植防	2	84	< 0.02	< 0.02	< 0.02	< 0.02
			0	—	< 0.02	< 0.02	< 0.02	< 0.02
			2	28	0.17	0.17	0.15	0.14
			2	42	< 0.02	< 0.02	0.06	0.06
			2	56	0.02	0.02	0.03	0.03
			2	84	< 0.02	< 0.02	< 0.02	< 0.02

## 2. 乳汁移行性試験

### 1) 試験の概要

#### ① 被験物質

MEP: 50%乳剤

#### ② 供試動物

ジャージー種乳牛を投与量群毎に2頭(2投与群合計4頭)用いて試験を実施した。投与開始時の体重は390~450 kgであった。

#### ③ 投与量

1日に乳牛体重1 kgあたり MEP 1 mg または 3 mg となるよう投与した。

#### ④ 投与方法

小麦粉に各投与用量の半量の MEP を混合したものを、1日2回、朝夕の定期搾乳直後に強制経口投与した。投与は連続7日間行った。

#### ⑤ 試料の採取

搾乳は投与開始1、2および3日前、投与開始1、2、3、5および7日後、最終投与1、3、5および7日後に実施した。試料は採取後、直ちに冷却した。

#### ⑥ 分析法の原理と操作概要

試料にメタノールおよびアセトニトリルを加えて振とう抽出後、遠心分離を行い、その上清に塩化ナトリウムおよびクロロホルムを加えて分配する。クロロホルム層を脱水ろ過後、濃縮し、濃縮残渣に*n*-ヘキサンおよびアセトニトリルを加えて分配し、アセトニトリル層を濃縮する。濃縮残渣をアセトンに溶解させ、ガスクロマトグラフ(STD, sodium thermoionic detector)を用いて定量する。

### 2) 分析対象の化合物

MEP

化学名: *O,O*-ジメチル *O*-4-ニトロ-*m*-トイル ホスホロチオエート

*O,O*-dimethyl *O*-4-nitro-*m*-tolyl phosphorothioate

分子式:  $C_9H_{12}NO_5PS$

分子量: 277.23

### 3) 乳汁試験結果

#### ① 分析

MEP を 0.1 ppm になるように生乳に添加して実施した回収試験の結果、102% の回収率を得た。

乳汁中の被験物質は 1 mg/kg 投与群で検出限界 (0.001 ppm) 未満であった。

3 mg/kg 投与群では 0.002 ppm 以下検出された。



i) 1 mg/kg 投与群

試験機関	分析試験機関：住友化学工業株式会社		
結果	経過日数		
投与量** (mg/kg 体重・日)		MEP : 1	
分析結果 (ppm)	開始前*	0.001	0.001
	投与開始 1 日後	<0.001	<0.001
	投与開始 2 日後	<0.001	<0.001
	投与開始 3 日後	<0.001	<0.001
	投与開始 5 日後	<0.001	<0.001
	投与開始 7 日後	<0.001	<0.001
	投与終了 1 日後	<0.001	<0.001
	投与終了 3 日後	<0.001	<0.001
	投与終了 5 日後	<0.001	<0.001
	投与終了 7 日後	<0.001	<0.001

\* : 投与開始前 3 日間に採取した試料の平均値

\*\* : 乳牛体重 1 kg あたりの 1 日の投与量

ii) 3 mg/kg 投与群

試験機関	分析試験機関：住友化学工業株式会社		
結果	経過日数		
投与量** (mg/kg 体重・日)		MEP : 3	
分析結果 (ppm)	開始前*	0.001	0.001
	投与開始 1 日後	<0.001	<0.001
	投与開始 2 日後	0.002	<0.001
	投与開始 3 日後	<0.001	0.001
	投与開始 5 日後	<0.001	<0.001
	投与開始 7 日後	<0.001	0.001
	投与終了 1 日後	<0.001	0.002
	投与終了 3 日後	<0.001	<0.001
	投与終了 5 日後	<0.001	<0.001
	投与終了 7 日後	<0.001	<0.001

\* : 投与開始前 3 日間に採取した試料の平均値

\*\* : 乳牛体重 1 kg あたりの 1 日の投与量

### 3. 土壌残留

#### 3.1 微粒剤およびマイクロカプセル剤を対象とした土壌残留試験結果

##### (1) 分析法の原理と操作概要

###### (i) 水田土壌

###### [3%微粒剤]

土壌と水を濾別し、土壌にジクロロメタン：アセトン(2:1)を加えて振盪し、抽出液を先の水層と合わせ分液抽出した後、ガスクロマトグラフィー(FTD)にて定量する。圃場試験の水部分については、クロロホルムで抽出し、濃縮する。

###### [20%マイクロカプセル剤]

試料にアセトンを加えて振盪し、超音波抽出し、濾過する。濾液に塩化ナトリウム水溶液およびヘキサンを加えて転溶し、減圧濃縮後、フロリジルカラムクロマトグラフィーあるいは MEGA BOND ELUT FL にて精製し、ガスクロマトグラフィー(FPD)にて定量する。

(ii) 畑地土壌……無水硫酸ナトリウムとジクロロメタン：アセトン(2:1)を加えて振盪し、減圧濾過する。濾液を濃縮後、ガスクロマトグラフィー(FTD)にて定量する。

##### (2) 分析対象の化合物

化学名：O,O-ジメチル-O-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート

[ O,O-Dimethyl O-(3-methyl-4-nitrophenyl)thiophosphate ]

分子式：C<sub>9</sub>H<sub>12</sub>NO<sub>3</sub>PS

分子量：277.24

(3) 残留試験結果

(i) - a 水田状態の圃場試験 (3%微粒剤)

半減期：滋賀県立短期大学……………<7 日

鳥取県農業試験場……………<3 日

分析機関：住友化学工業株式会社

試料調製 および 採取場所	供試薬剤の 濃度・量・ 回数	薬剤施用 年月日	使用 回数	経過 日数	分析値 (ppm)		
					最高値	回 数	平均値
滋賀県立 短期大学 (沖積壤土)	微粒剤(3%) 4 kg/10a 3 回	昭和47年	0	—	<0.01	2	<0.01
		6月10日	3	0	0.02	2	0.02
		6月17日	3	7	<0.01	2	<0.01
		6月24日	3	28	<0.01	2	<0.01
鳥取県 農業試験場 (沖積砂壤土)		昭和47年	0	—	(土壌) <0.01	2	(土壌) <0.01
		6月29日	0	—	(水分) <0.01	2	(水分) <0.01
		7月 6日	3	0	(土壌) 0.07	2	(土壌) 0.07
		7月13日	3	0	(水分) <0.01	2	(水分) <0.01
			3	7	<0.01	2	<0.01
			3	28	<0.01	2	<0.01

(i) - b 水田状態の圃場試験 (20%マイクロカプセル剤)

半減期：日本植物防疫協会研究所(牛久)……………156 日

日本植物防疫協会研究所(高知)…………… 9 日

分析機関：株式会社 住化分析センター

試料調製 および 採取場所	供試薬剤の 濃度・量・ 回数	薬剤施用 年月日	使用 回数	経過 日数	分析値 (ppm)				
					最高値	回 数	平均値		
日本植物防疫 協会研究所 (牛久) (火山灰壤土)	マイクロカプセル剤 (20%) 400 倍希釈 150L/10a 6 回	平成3年	0	—	<0.005	2	<0.005		
		7月24日	6	3	0.331	2	0.316		
		7月31日	6	7	0.306	2	0.296		
		8月 8日	6	14	0.295	2	0.280		
		8月14日	6	30	0.258	2	0.252		
		8月21日	6	60	0.158	2	0.148		
		8月28日	6	90	0.280	2	0.264		
			6	120	0.201	2	0.199		
			6	150	0.195	2	0.176		
			6	180	0.116	2	0.109		
			6	210	0.060	2	0.056		
		日本植物防疫 協会研究所 (高知) (沖積植壤土)		平成3年	0	—	<0.005	2	<0.005
				7月23日	6	0	0.105	2	0.102
7月30日	6			3	0.061	2	0.060		
8月 6日	6			7	0.061	2	0.061		
8月13日	6			14	0.022	2	0.021		
8月20日	6			30	0.012	2	0.012		
8月27日	6			60	0.008	2	0.008		
	6			90	<0.005	2	<0.005		
	6	120	<0.005	2	<0.005				
	6	150	<0.005	2	<0.005				

(ii) 畑地状態の圃場試験 (50%乳剤)

半減期：京都府農業試験場……………10日

徳島県農業試験場……………5日

分析機関：住友化学工業株式会社

試料調製 および 採取場所	供試薬剤の 濃度・量・回数	薬剤施用 年月日	使用 回数	経過 日数	分析値 (ppm)		
					最高値	回数	平均値
京都府 農業試験場 (洪積壤土)	乳剤(50%) ×1000 1,2回目：150 L/10a 3~6回目：300 L/10a	昭和47年	0	—	0.02	2	0.02
		6月20日	6	0	0.11	2	0.10
		6月30日	6	7	0.47	2	0.44
		7月10日	6	14	0.21	2	0.19
		7月20日	6	28	0.06	2	0.06
		7月30日	6	28	0.06	2	0.06
		8月9日	6	28	0.06	2	0.06
徳島県 農業試験場 (沖積埴土)	×1000 200 L/10a	昭和47年	0	—	<0.01	2	<0.01
		6月6日	6	0	0.84	2	0.76
		6月16日	6	7	0.06	2	0.06
		6月26日	6	7	0.06	2	0.06
		7月6日	6	14	0.08	2	0.08
		7月16日	6	14	0.08	2	0.08
		7月26日	6	14	0.08	2	0.08

(iii) - a 水田状態の容器内試験 (原体)

半減期：滋賀県守山市小浜町……………8日

栃木県塩谷郡氏家町……………8日

分析機関：住友化学工業株式会社

採取場所	供試薬剤 の 添加濃度	薬剤施用 年月日 <sup>1)</sup>	使用 回数	経過 日数	分析値 (ppm)		
					最高値	回数	平均値
滋賀県守山市 小浜町 (沖積埴壤土)	原体 4 ppm 25°C	—	0	—	<0.01	7 <sup>2)</sup>	<0.01
		昭和47年 4月10日	1	1	3.60	2	3.58
		4月8日	1	3	3.34	2	3.32
		4月4日	1	7	2.32	2	2.23
		6月7日	1	14	0.78	2	0.78
		5月22日	1	30	0.10	2	0.09
		5月22日	1	58	0.06	2	0.05
		5月22日	1	88	0.04	2	0.04
栃木県塩谷郡 氏家町 (火山灰 埴壤土)	原体 4 ppm 25°C	—	0	—	<0.01	7 <sup>2)</sup>	<0.01
		昭和47年 8月1日	1	1	3.22	2	2.97
		8月1日	1	3	2.50	2	2.50
		8月1日	1	6	2.31	2	2.28
		6月27日	1	14	0.72	2	0.71
		6月27日	1	30	0.24	2	0.21
		6月27日	1	62	0.12	2	0.10
		6月27日	1	90	0.06	2	0.06

1) 薬剤施用は、試料により異なった日に行った。

2) 無処理区の分析は、薬剤施用区毎、計7回(N=1/分析)行った。

(iii) - b 水田状態の容器内試験 (20%マイクロカプセル剤)

半減期：日本植物防疫協会研究所(牛久).....57日

日本植物防疫協会研究所(高知).....22日

分析機関：株式会社 住化分析センター

採取場所	供試薬剤の 添加濃度	薬剤施用 年月日	使用 回数	経過 日数	分析値 (ppm)		
					最高値	回数	平均値
日本植物防疫協会研究所 (牛久) (火山灰壌土)	20%マイクロカプセル剤  0.75 ppm 25°C	—	0	—	<0.005	2	<0.005
		平成4年 2月 3日	1	0	0.752	2	0.743
			1	7	0.619	2	0.601
			1	14	0.581	2	0.572
			1	28	0.492	2	0.482
			1	59	0.368	2	0.362
			1	121	0.280	2	0.278
			1	184	0.242	2	0.242
			1	246	0.223	2	0.221
1	304	0.200	2	0.195			
日本植物防疫協会研究所 (高知) (沖積植壌土)	20%マイクロカプセル剤  0.75 ppm 25°C	—	0	—	<0.005	2	<0.005
		平成4年 2月 3日	1	0	0.785	2	0.768
			1	7	0.544	2	0.542
			1	14	0.474	2	0.470
			1	28	0.339	2	0.322
			1	59	0.341	2	0.332
			1	121	0.239	2	0.219
			1	184	0.243	2	0.224
			1	246	0.198	2	0.182
1	304	0.160	2	0.154			

(iv) 畑地状態の容器内試験

半減期：栃木県宇都宮市瓦谷町……………6日

滋賀県守山市小浜町……………10日

分析機関：住友化学工業株式会社

採取場所	供試薬剤 の 添加濃度	薬剤施用 年月日 <sup>1)</sup>	使用 回数	経過 日数	分析値 (ppm)		
					最高値	回数	平均値
栃木県 宇都宮市 瓦谷町 (火山灰 埴壤土)	原体 4 ppm 25℃	—	0		<0.01	7 <sup>2)</sup>	<0.01
		昭和47年 4月12日	1	1	2.86	2	2.84
		4月10日	1	3	2.32	2	2.31
		4月 6日	1	7	1.82	2	1.81
		6月 7日	1	14	2.04	2	1.99
		5月22日	1	30	1.06	2	1.02
		5月22日	1	58	0.48	2	0.46
		5月22日	1	88	0.40	2	0.40
滋賀県守山市 小浜町 (沖積埴壤土)	原体 4 ppm 25℃	—	0		<0.01	7 <sup>2)</sup>	<0.01
		昭和47年 8月 1日	1	1	3.75	2	3.68
		8月 1日	1	3	3.43	2	3.42
		8月 1日	1	7	2.75	2	2.72
		6月27日	1	14	1.49	2	1.46
		6月27日	1	30	0.95	2	0.92
		6月27日	1	62	0.50	2	0.48
		6月27日	1	90	0.31	2	0.30

1) 薬剤施用は、試料により異なった日に行った。

2) 無処理区の分析は、薬剤施用区毎、計7回(N=1/分析)行った。









4. 環境中予測濃度算定関係

水質汚濁性

(1) 分析法の原理と操作概要

試料をヘキサンで分液抽出した後、フロリジルカラムで精製し、ガスクロマトグラフィー (FPD, P フィルター) にて定量する。

(2) 分析対象の化合物

化学名：O,O-ジメチル=O-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート

[ O,O-Dimethyl O-(3-methyl-4-nitrophenyl)thiophosphate ]

分子式：C<sub>9</sub>H<sub>12</sub>NO<sub>3</sub>PS

分子量：277.24

(3) 試験結果

(i) 試験水田を用いた残留試験

① 田面水

分析機関：(株)化学分析コンサルタント

試料調製 および 採取場所	被験物質の 処理方法 濃度・量	使用 回数	経過 日数	測定値 (mg/L)	
				MEP	
				最高値	平均値
埼玉農試 (灰色低地土、 砂質埴壌土)  平成4年度	マイコパ <sup>®</sup> セル剤 (20%) 3.2倍希釈 0.8 L/10 a	0	—	<0.0005	<0.0005
		1	0	0.0142	0.0135
		1	1	0.0225	0.0222
		1	3	0.0016	0.0016
		1	7	0.0015	0.0014
		1	14	0.0008	0.0008
埼玉農試 (多湿黒ぼく土、 砂質埴壌土)  平成4年度		0	—	<0.0005	<0.0005
		1	0	0.0067	0.0065
		1	1	0.0100	0.0096
		1	3	0.0015	0.0015
		1	7	0.0011	0.0010
		1	14	<0.0005	<0.0005
千葉農試 (グライ土、 壌土)  平成5年度	粉粒剤(3%) 4 kg/10 a	0	—	<0.001	<0.001
		1	0	1.68	1.66
		1	1	0.750	0.731
		1	3	0.074	0.074
		1	7	0.001	0.001
		1	14	<0.001	<0.001
千葉農試 (多湿黒ぼく土、 埴壌土)  平成5年度		0	—	<0.001	<0.001
		1	0	0.879	0.868
		1	1	0.526	0.506
		1	3	0.042	0.040
		1	7	<0.001	<0.001
		1	14	<0.001	<0.001

分析機関：(株)化学分析コンサルタント

試料調製 および 採取場所	被験物質の 処理方法 濃度・量	使用 回数	経過 日数	測定値 (mg/L)	
				MEP	
				最高値	平均値
埼玉農試 (灰色低地土、 砂質埴壌土)  平成6年度	粉剤(3%) 4 kg/10 a	0	—	<0.001	<0.001
		1	0	1.28	1.24
		1	1	0.206	0.206
		1	2	0.081	0.078
		1	3	0.024	0.023
		1	4	0.012	0.012
		1	7	<0.001	<0.001
		1	14	<0.001	<0.001
埼玉農試 (多湿黒ぼく土、 砂質埴壌土)  平成6年度		0	—	<0.001	<0.001
		1	0	0.848	0.848
		1	1	0.178	0.175
		1	2	0.040	0.040
		1	3	0.015	0.014
		1	4	0.010	0.010
		1	7	<0.001	<0.001
		1	14	<0.001	<0.001
埼玉農試 (灰色低地土、 砂壌土)  平成6年度	乳剤(50%) 800倍希釈 150 L/10 a	0	—	<0.001	<0.001
		1	0	0.336	0.336
		1	1	0.051	0.050
		1	2	0.005	0.005
		1	3	0.003	0.003
		1	4	0.001	0.001
		1	7	<0.001	<0.001
		1	14	<0.001	<0.001
埼玉農試 (多湿黒ぼく土、 壤土)  平成6年度		0	—	<0.001	<0.001
		1	0	0.234	0.232
		1	1	0.033	0.033
		1	2	0.008	0.008
		1	3	0.002	0.002
		1	4	0.002	0.002
		1	7	<0.001	<0.001
		1	14	<0.001	<0.001

② 浸透水

分析機関：(株)化学分析コンサルタント

試料調製 および 採取場所	被験物質の 処理方法 濃度・量	使用 回数	経過 日数	測定値 (mg/L)		
				MEP		
				最高値	平均値	
埼玉農試 (灰色低地土、 砂質埴壌土) 平成4年度	マイクロセブ剤 (20%) 3.2倍希釈 0.8 L/10 a	0	—	<0.0005	<0.0005	
		1	7	<0.0005	<0.0005	
		1	14	<0.0005	<0.0005	
埼玉農試 (多湿黒ぼく土、 砂質埴壌土) 平成4年度		0	—	<0.0005	<0.0005	
		1	7	<0.0005	<0.0005	
		1	14	<0.0005	<0.0005	
千葉農試 (グライ土、 埴土) 平成5年度		粉粒剤(3%) 4 kg/10 a	0	—	<0.001	<0.001
			1	7	<0.001	<0.001
			1	14	<0.001	<0.001
千葉農試 (多湿黒ぼく土、 埴壌土) 平成5年度	0		—	<0.001	<0.001	
	1		7	<0.001	<0.001	
	1		14	<0.001	<0.001	
埼玉農試 (灰色低地土、 砂質埴壌土) 平成6年度	粉剤(3%) 4 kg/10 a		0	—	<0.001	<0.001
			1	7	<0.001	<0.001
			1	14	<0.001	<0.001
埼玉農試 (多湿黒ぼく土、 砂質埴壌土) 平成6年度		0	—	<0.001	<0.001	
		1	7	<0.001	<0.001	
		1	14	<0.001	<0.001	
埼玉農試 (灰色低地土、 砂壌土) 平成6年度		乳剤(50%) 800倍希釈 150 L/10 a	0	—	<0.001	<0.001
			1	7	<0.001	<0.001
			1	14	<0.001	<0.001
埼玉農試 (多湿黒ぼく土、 埴土) 平成6年度	0		—	<0.001	<0.001	
	1		7	<0.001	<0.001	
	1		14	<0.001	<0.001	

(ii) 実圃場を用いた残留試験

① 田面水

分析機関：(株)化学分析コンサルタント

試料調製 および 採取場所	被験物質の 処理方法 濃度・量	使用 回数	経過 日数	測定値 (mg/L)	
				MEP	
				最高値	平均値
埼玉県浦和市 (多湿黒ぼく土、 埴土)  平成6年度	粉剤(3%) 4 kg/10 a	0	—	<0.001	<0.001
		1	0	0.141	0.136
		1	1	0.009	0.009
		1	2	0.002	0.002
		1	3	<0.001	<0.001
		1	4	<0.001	<0.001
		1	7	<0.001	<0.001
		1	14	<0.001	<0.001
埼玉県浦和市 (多湿黒ぼく土、 埴土)  平成6年度	乳剤(50%) 800倍希釈 140 L/10 a	0	—	<0.001	<0.001
		1	0	0.171	0.169
		1	1	0.009	0.009
		1	2	0.002	0.002
		1	3	<0.001	<0.001
		1	4	<0.001	<0.001
		1	7	<0.001	<0.001
		1	14	<0.001	<0.001
福島植防 (灰色低地土、 埴壤土)  平成7年度	粉剤(3%) 4 kg/10 a	0	—	<0.001	<0.001
		1	0	0.266	0.264
		1	1	0.177	0.177
		1	2	0.085	0.081
		1	3	0.018	0.018
		1	7	0.001	0.001
		1	14	<0.001	<0.001
日植防(牛久) (多湿黒ぼく土、 埴壤土)  平成7年度	粉剤(3%) 4 kg/10 a	0	—	<0.001	<0.001
		1	0	0.274	0.272
		1	1	0.016	0.016
		1	2	0.001	0.001
		1	3	<0.001	<0.001
		1	7	<0.001	<0.001
		1	14	<0.001	<0.001
福井植防 (グライ土、 壤土)  平成7年度	粉剤(3%) 4 kg/10 a	0	—	0.009	0.009
		1	0	0.703	0.698
		1	1	0.146	0.146
		1	2	0.036	0.036
		1	3	0.006	0.006
		1	7	0.001	0.001
		1	14	<0.001	<0.001

分析機関：(株)化学分析コンサルタント

試料調製 および 採取場所	被験物質の 処理方法 濃度・量	使用 回数	経過 日数	測定値 (mg/L)	
				MEP	
				最高値	平均値
日植防(高知) (灰色低地土、 埴壤土)  平成7年度	粉剤(3%) 4 kg/10 a	0	—	<0.001	<0.001
		1	0	0.277	0.270
		1	1	0.053	0.052
		1	2	0.006	0.006
		1	3	0.001	0.001
		1	5	<0.001	<0.001
		1	7	<0.001	<0.001
		1	14	<0.001	<0.001
福島植防 (灰色低地土、 埴壤土)  平成8年度	粉剤(3%) 4 kg/10 a	0	—	<0.001	<0.001
		1	0	0.172	0.171
		1	1	0.066	0.065
		1	2	0.021	0.020
		1	3	0.004	0.004
		1	7	<0.001	<0.001
		1	14	<0.001	<0.001
日植防(牛久) (多湿黒ぼく土、 埴壤土)  平成8年度	粉剤(3%) 4 kg/10 a	0	—	<0.001	<0.001
		1	0	0.175	0.168
		1	1	0.053	0.052
		1	2	0.003	0.003
		1	3	0.002	0.002
		1	7	<0.001	<0.001
		1	14	<0.001	<0.001
福井植防 (グライ土、 埴土)  平成8年度	粉剤(3%) 4 kg/10 a	0	—	0.003	0.002
		1	0	0.172	0.166
		1	1	0.053	0.053
		1	2	0.004	0.004
		1	3	0.002	0.002
		1	7	<0.001	<0.001
		1	14	<0.001	<0.001
日植防(高知) (灰色低地土、 埴壤土)  平成8年度	粉剤(3%) 4 kg/10 a	0	—	<0.001	<0.001
		1	0	0.216	0.215
		1	1	0.034	0.034
		1	2	0.006	0.006
		1	3	0.001	0.001
		1	7	<0.001	<0.001
		1	14	<0.001	<0.001